

中学校郷土読本

郷土 萩



萩市教育委員会

(第14版)

表紙写真説明



1. 松下村塾
2. 畳岩 (砂岩と泥岩が重なる地層)
3. 菊ヶ浜から見た笠山
4. 萩反射炉
5. 萩市の三角州

郷土読本「郷土 萩」を活用するみなさんへ

美しく緑深い山々と雄大に青く広がる日本海、萩市の自然はいつも私たち市民や訪れる人々の心を温かく包み込んでくれます。この豊かな自然は、古から萩に暮らす人々の生活や産業と深く結びついてきました。また、萩市は明治維新胎動の地としても全国にその名を知られており、この北浦の小さなまちから吉田松陰先生をはじめ、歴史の荒波の中で志を高く掲げ躍動した多くの偉人たちを輩出してきました。このように、豊かな自然、価値ある歴史、伝統的な文化や産業に育まれながら発展してきたまちが、私たちのふるさと「萩」なのです。

この「郷土 萩」は、みなさんが萩の自然、歴史、文化、産業などについて学習する際に手元に置き、すぐに活用できるよう願い、市内の社会科の先生方が中心となってまとめたものです。「社会科」だけでなく「総合的な学習の時間」での活用も視野に入れ、全体の構成や掲載資料、写真等の検討と見直しを行いました。

学習を進める際は、課題を明確にして取り組んでください。その過程で素朴な気づきや疑問を大切に、根気よく綿密に調べることで、納得できる結論を導き出しましょう。そして、満足感や充実感を味わい、ふるさと「萩」のすばらしさを実感してください。また、学習を通してよりよい調べ方を身につけ、今後、みなさんが多様な課題に取り組み解決していく際に、役立ててほしいと思います。「郷土 萩」が、みなさん一人ひとりに親しまれ、萩をより深く知る身近な資料の一つとして有効に活用されることを願っています。

萩市の将来を担うみなさんが、この「郷土 萩」を活用して、ふるさと「萩」のすばらしさを再発見し、ふるさとを愛し、誇りに思い、大切にしていこうという気持ちを抱いてくれることを心より願っています。

平成 31 年 3 月

萩市教育委員会

目 次

第1部 萩市のあゆみ（歴史編）

郷土歴史年表	1
1 古代の郷土	
(1) 文化のおこり ー縄文・弥生ー	5
(2) 古墳時代の文化 ー豪族の発生ー	6
(3) 奈良時代の文化 ー仏教文化ー	7
(4) 平安時代の文化 ー萩の仏教ー	8
2 中世の郷土	
(1) 鎌倉時代 ー力強い美術・元寇ー	9
(2) 室町時代	10
(3) 安土・桃山時代	11
3 近世の郷土	
(1) 城下町「萩」	12
(2) 萩城下町絵図	13
(3) 萩開府	14
(4) 参勤交代と萩往還	15
(5) キリシタンの取締り	16
(6) 藩政の確立	17
(7) 藩主の仏教保護 ー毛利氏と仏教ー	18
(8) 藩校 明倫館	20
(9) 蘭学の影響	22
(10) 町人の台頭	23
(11) 城下町を支えた北前船	23
(12) 藩政の改革	24
(13) 維新の原動力	25
(14) 吉田松陰略年譜	26
(15) 松下村塾と松陰門下生	27
(16) くずれゆく封建制度 ー長州藩の攘夷運動ー	28
(17) 倒幕の動き ー禁門の変・第一次長州戦争ー	29
(18) 四境戦争 ー第二次長州戦争ー	30
(19) 武家政治の終わり ー薩長同盟と戊辰戦争ー	31
4 近現代の郷土	
(1) 維新政府の出発 ー廃藩置県・地租改正ー	32
(2) 士族の没落と授産事業	33
(3) 政界への進出	34
(4) 鉄道の開通	35
(5) 日本の近代化に尽くした人たち	36
5 萩市の文化財	
(1) 萩市の文化財	37
(2) 萩市の指定文化財一覧	38
(3) 文化財マップ	42

第2部 萩市のすがた（地理編）

1 自然のようす	
(1) 位置・範囲・面積	44
(2) 気候	45
(3) 萩市位置図略図	46
(4) 航空写真 萩市三角州	47
(5) 地形図 1：25,000	48
(6) 地区別航空写真	49
(7) 各地域のようす	56
2 人口のようす	
(1) 萩市の人口の推移	66
(2) 産業別人口	67
3 産業や生活のようす	
(1) 農業	68
(2) 漁業	70
(3) 林業	72
(4) 商業	73
(5) 工業	75
(6) 伝統産業「萩焼」	76
(7) 観光	78
(8) 古い町並みの保存	82
(9) 郷土料理	84
(10) 祭と信仰	85
(11) 交通	86
(12) 道の駅	88
(13) 姉妹都市・友好都市との交流	91

第3部 これからの萩市

(1) 萩市の行政のはたらき	92
(2) 合併した萩市	94
(3) 萩市基本ビジョン	96
(4) 世界遺産登録を受けて	98
(5) 萩ジオパークについて	100
(6) 萩市の自然災害について	103
(7) 萩・明治維新150年記念事業	105
(8) 萩市民憲章、市の木・花・果樹・生物	106

課題学習の取り組み方

(1) 課題学習の取り組み方	108
(2) 調べ学習の参考となる連絡先一覧	112



菊屋横町

第1部 萩市のあゆみ（歴史編）

活用にあたって

歴史を学習するということは、単に年号や人物名を覚えるということではありません。「温故知新」ということばがあるように、過去の出来事の中から、先人の苦勞や努力の跡^{あと}を振り返り、その英知を学びとることも大切なことなのです。

私たちの住む「ふるさと萩」は、吉田松陰先生をはじめ多くの先賢を生み出した歴史と伝統にはぐくまれた町です。この「ふるさと萩」を誇りに思い、この町に生活する者として、この町のことを少しでも多く知ってもらいたいものです。

ここにあげた資料は、私たちの郷土に展開された歴史を語る重要な手がかりとなるものです。これらを使って身近な地域の歴史の窓を開いてみましょう。各時代におけるこの町の姿や人々の生活を学習することで、各時代に対するイメージも広がり、当時の日本のようすも見えてくると思います。

郷土歴史年表

世紀	時代	西暦	おもなできごと
BC 100	縄文時代		狩と漁の生活をしていた。 すでに見島に人が住んでいた。
		BC3	稲作が始まり、金属器が伝わった。むらから小国家が分立するようになった。
AD3	弥生時代	239	大井を中心に弥生文化が栄えた。 邪馬台国の女王卑弥呼が、魏に使いを送った。
		4	大和朝廷が国土を統一した。古墳がつくられ始めた。
5	古墳時代・飛鳥時代		大陸から儒教、漢字、技術が伝わった。大井でも古墳がつくられ始めた。
6		大井が阿武地方の中心として栄え、円光寺古墳などがつくられた。 このころ、百済から仏教が伝わった。塚穴古墳（田万川地区）がつくられた。	
7		645 古代国家のしくみが整えられた。 大化改新がはじまった。 中国で「唐」が栄えた。 650 穴戸（穴門）国司が白雉を献上したとある。（日本書紀） 665 長門国の記事が初めて文献にあらわれた。（日本書紀） 長門国に6郡あり、その一つに阿武郡があった。	
8	奈良時代	710	都が平城京に移された。このころ、大井や上野に大きな寺がつくられた。
		794	都が平安京に移された。
9	平安時代		このころ、見島に古墳がつくられた。 藤原氏の勢いがさかんになった。 894 遣唐使が廃止された。
10		927 荘園が各地にひろまり、武士がおこった。 「参見（三見）」という地名が初めて文献（延喜式）にあらわれた。 「宅佐（高佐）」という地名が初めて文献（延喜式）にあらわれた。 「田万、小川」という地名が初めて文献（延喜式）にあらわれた。 931 「椿木（椿）」という地名が初めて文献（倭名抄）にあらわれた。	
11		このころ、南明寺の「木造聖観音立像」「木造千手観音立像」がつくられた。 このころ、歌人能因法師の著と伝えられる「能因歌枕」に、長門国ささなみの里の記載があらわれた。 1086 院政がはじまった。このころ、大井に経塚がつくられ始めた。	
12		1102	椿武則が大井の光明寺に経筒を埋めた。
		1156	保元の乱が起こった。
		1159	平治の乱が起こった。
		1186	源頼朝が佐々木高綱を長門国の初代守護職に任じた。この時、須佐郷、弥富郷という地名があらわれた。
		1189	東大寺造営の用材不足のため、大勧進俊乗坊重源は阿武御領（現在の川上地区）からも木材を切り出した。
13	鎌倉時代	1192	源頼朝が征夷大將軍に任命された。
		1221	承久の乱が起こった。このころ、大照院の「赤童子立像」や志都岐山神社の「光房・延吉」がつくられた。

世紀	時代	西暦	おもなできごと
13	鎌倉時代	1253	「川島」という地名が初めて古文書にあらわれた。 萩市椿八幡宮にある椿八幡宮御由緒旧記に明木神社、佐々波（並）神社の記載があらわれた。
		1274	文永の役が起こった。（大井にある元の礎石はこのころのもの）
		1281	弘安の役が起こった。
		1296	紫福郷の文字が初めてあらわれた。
14	室町時代	1333	鎌倉幕府が滅んだ。
		1334	建武の新政がおこなわれた。
		1338	足利尊氏が征夷大將軍になり、京都に幕府を開いた。
		1352	福井郷の文字が初めてあらわれた。
		1358	長門国が大内氏の領地になった。
		1387	永祐が見島八幡宮に鰐口を寄進した。
15	室町時代		このころ、見島の豪族が朝鮮と交易をして栄えた。
		1467	応仁の乱が起こった。
		1492	コロンブスが西インド諸島にわたった。
16	安土桃山時代	1543	種子島に鉄砲が伝わった。
		1550	萩の名が初めて古文書にあらわれた。（善福寺文書）
		1556	吉見正頼（津和野城主）が大井で戦った。
		1557	長門国が毛利元就の領地になった。 吉見正頼が毛利元就より阿武郡の地を与えられた。
		1585	指月という地名が初めてあらわれた。（むつみ村妙性寺の <small>ほうきょう</small> 宝篋印塔）
		1590	豊臣秀吉が全国を統一した。
17	江戸時代	1600	関ヶ原の戦いが起こった。 益田元祥が石見国益田から毛利氏に従って須佐に移住した。
		1603	徳川家康が江戸に幕府を開いた。
		1604	毛利輝元が萩城築城に着手した。このころ、吉部の大部分が開墾された。
		1633	常念寺表門が寄進された。
		1656	大照院が創建された。
		1660	毛利綱広が万治制法を制定した。
		1677	萩藩で初めて藩札が発行された。このころ、浜崎に御船倉ががつくられた。
		1687	新堀川がつくられた。奥阿武宰判の勘場（代官所）が吉部に建てられた。
		1691	東光寺が建てられた。
18	江戸時代	1699	周防長門御帳に木部村（吉部村）の地名があらわれた。
		1709	吉田町に御救米倉が建てられた。
		1716	徳川吉宗が「享保の改革」を始めた。
		1717	藍場川がつくられた。
		1719	明倫館が創立した。
		1735	益田元道が須佐に郷校育英館を創設した。
		1759	栗山孝庵が萩で女性の体を解剖した。（女性解剖としては日本で最初）
19	江戸時代	1789	老中松平定信が「寛政の改革」を始めた。
		1810	川上村で一揆が起こり、萩城下にせまった。このころから藩内各地で一揆が続発した。
		1841	老中水野忠邦が「天保の改革」を始めた。

世紀	時代	西暦	おもなできごと	萩ゆかりの総理大臣
19	江戸時代	1844	毛利敬親が羽賀台において大操練をおこなった。	
		1849	新明倫館が建てられた。萩に種痘が移入された。	
		1853	ペリーが浦賀に来航した。	
		1855	姥倉運河がつくられた。	
		1857	吉田松陰が松下村塾で教育を始めた。	
		1858	日米修好通商条約を結んだ。前小畑に反射炉がつくられた。	
		1859	安政の大獄が起こった。吉田松陰が処刑された。	
		1863	菊ヶ浜土塁（女台場）がつくられた。藩庁が山口に移転した。 長州ファイブがイギリスに密航留学をした。高杉晋作が奇兵隊を結成した。	
		1864	禁門の変が起こった。第一次長州征伐がおこなわれた。 四国連合艦隊が下関を砲撃した。	
		1866	村田蔵六（のちの大村益次郎）の建議により製鉄所を川上村亀瀬に設けた。 第二次長州征伐がおこなわれ、石州口の戦が起こった。 薩摩藩と長州藩が薩長同盟を結んだ。	
	1867	大政奉還がおこなわれた。		
	明治時代	1868	明治に改元された。越ヶ浜に山口県最初の水道がつくられた。	
		1869	版籍奉還がおこなわれた。	
		1871	廃藩置県がおこなわれた。周防・長門の両国を合わせて山口県が誕生した。	
		1873	須佐村、弥富村、鈴野川村が誕生した。	
		1874	萩城が解体された。	
		1876	萩の乱が起こった。このころから夏みかんの栽培が広まった。	
		1888	市制・町村制が公布され、翌年4月から施行された。 小川村、田万崎村が誕生した。	
		1889	大日本帝国憲法が公布された。萩町が誕生した。	
		1894	日清戦争が始まった。	
20		大正時代	1904	日露戦争が始まった。
	1905		日本海海戦でロシア兵が須佐に漂着し救護された。	
	1910		萩に電灯が設置された。	
	1912		小郡・萩間にバス路線が開通した。	
	1914		第一次世界大戦が始まった。	
	昭和時代	1918	米騒動が萩に波及した。	
		1920	コレラが萩に流行した。高島北海の発議により長門耶馬溪が長門峡と改められた。	
		1924	須佐村が須佐町になった。	
		1925	国鉄山陰本線正明市・東萩間が開通した。	
		1931	満州事変が起こった。	
		1932	萩町から萩市になった。	
		1937	日中戦争が始まった。	
		1939	第二次世界大戦が始まった。	
		1940	田万崎村が江崎町になった。	
		1941	太平洋戦争が始まった。	
1945	第二次世界大戦・太平洋戦争が終結した。			
1946	日本国憲法が公布された。			
1951	サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約が結ばれた。			
1955	三見、大井、見島、六島の各村が萩市と合併した。 福川村と紫福村が合併し、福栄村が誕生した。 明木村と佐々並村が合併し、旭村が誕生した。 江崎町と小川村が合併し、田万川町が誕生した。			

※萩市ゆかりの総理大臣の在任期間を以下のように示す。 伊藤博文 ■■■■ 山県有朋 //////////////

(3) 桂 太郎 ■■■■ 田中義一 ■■■■

世紀	時代	西暦	おもなできごと		
20	昭和時代		須佐町と弥富村が合併し、須佐町になった。 吉部村と高俣村が合併し、全国最初のひらがなの村名である「むつみ村」が誕生した。		
		1964	東京オリンピックが開催された。		
		1965	日韓基本条約により韓国との国交が正常化した。		
		1968	萩市民館が完成した。萩市が大韓民国の蔚山市と姉妹都市となった。		
		1972	日中共同宣言により中国との国交が正常化した。		
		1974	萩市庁舎が完成した。		
		1975	阿武川ダムが完成した。(162世帯が水没した) 萩市が下田市と姉妹都市となった。		
		1977	NHK大河ドラマで「花神」が放送された。(主人公 大村益次郎)		
		1978	日中平和友好条約が結ばれた。		
		1979	萩市民体育館が完成した。萩市が鎌倉市と姉妹都市となった。		
	平成時代	1988	萩市が「庭園都市・萩」を宣言した。		
		1990	萩市が輪島市と姉妹都市となった。		
		1992	萩有料道路が開通した。		
		1996	松陰大橋が完成した。山口県立萩美術館浦上記念館が開館した。		
		1997	須佐町立須佐図書館(まなぼう館)が全国で初めて24時間開館を実施した。		
		1998	見島航路に高速船「おにようず」が就航した。		
		1999	萩国際大学が開学した。		
		2000	萩健康維新の里(萩市民病院、萩福祉複合施設かがやき)がオープンした。 萩循環まあーるバスの運行が始まった。		
		21	平成時代	2002	ワールドカップサッカーが日韓共同で開催された。
				2004	萩開府400年を記念して、萩博物館が開館した。
2005	萩市、須佐町、田万川町、福栄村、むつみ村、川上村、旭村の1市2町4村が合併し、新市「萩市」が誕生した。				
2006	萩商業高等学校と萩工業高等学校が統合され、萩商工高等学校が開校した。 萩市が「平和都市宣言」をした。				
2007	「世界遺産萩シンポジウム」が開催された。萩・維新塾が開塾した。				
2008	萩・三隅道路の三見明石～三隅間が開通した。 「明治維新140年記念シンポジウム」が開催された。 エコプラザ・萩(萩第二リサイクルセンター)が供用を開始した。				
2009	萩市市民活動センター「結」がオープンした。 伊藤博文公没後100年記念事業が開催された。 「吉田松陰先生150年祭」が開催された。				
2010	「萩市制施行5周年記念式典」が開催された。萩有料道路が無料化された。 「萩・三隅道路」道の駅「萩・さんさん三見」がオープンした。				
2011	「萩・三隅道路」萩市椿まで開通。新図書館・児童館「あいぶらり」開館。				
2012	大板山たたら製鉄遺跡が国史跡に指定された。				
2013	大島航路に「はぎおおしま」が就航した。 「長州ファイブ渡英150年」「女台場築造150年」記念事業が開催された。 田万川・須佐・むつみ地域が豪雨災害に見舞われた。				
2014	萩博物館の入館者が100万人を突破した。				
2015	NHK大河ドラマで「花燃ゆ」が放送。(主人公 吉田松陰の妹・文) 「明治日本の産業革命遺産」として、萩の5つの産業遺産群が世界遺産に登録された。				
2017	旧明倫小学校を活用した、萩・明倫学舎がオープンした。				
2018	明治維新150年記念事業が開催された。 萩ジオパークが、日本ジオパークの認可を受けた。				

1 古代の郷土

縄文時代 (B.C.10000～B.C.300年頃)

弥生時代 (B.C.300～A.D.300年頃)

(1) 文化のおこり —縄文・弥生—



見島で発見された縄文土器の破片 (萩博物館蔵)



霧口で発見された弥生土器「壺」
(萩博物館蔵)



大井で発見された石製品「石斧」
(萩博物館蔵)

萩では旧石器時代の遺物はまだ確認されていません。縄文時代や弥生時代の遺物や遺跡は、大井を中心に、見島など数カ所で発見されています。

特に大井の宮の馬場遺跡では、弥生土器や石器が数多く発見され、かなりの数の人々が生活し、文化が栄えていたことがわかります。

古墳時代 (300年頃～710年)

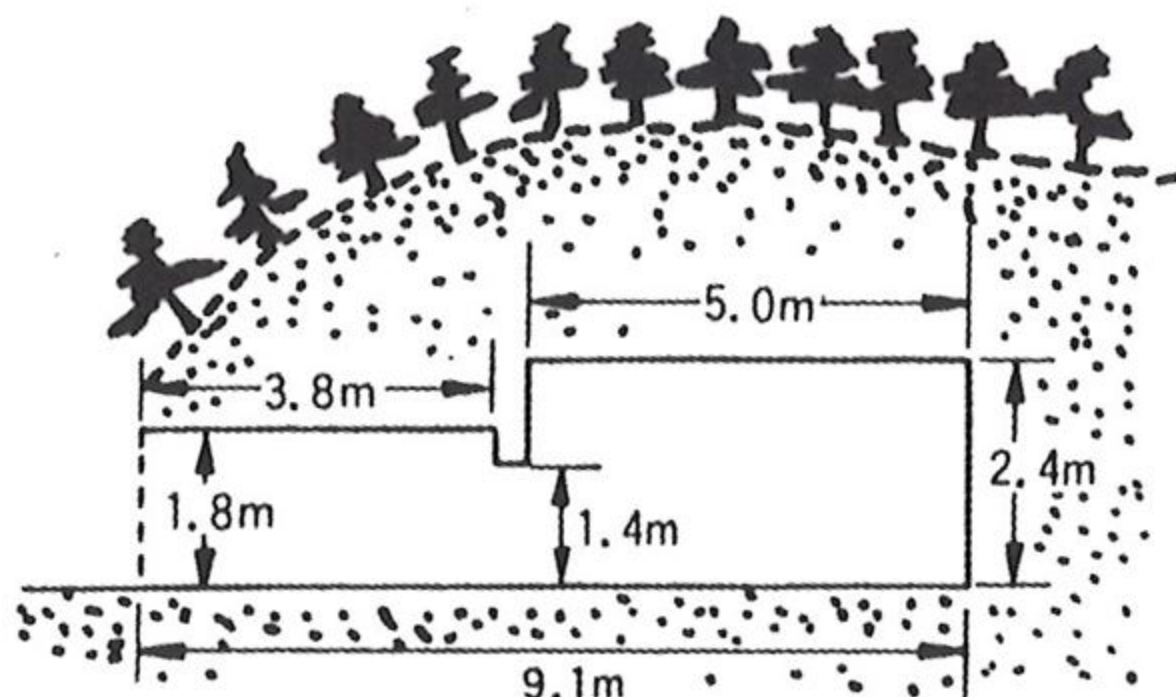
(2) 古墳時代の文化 —豪族の発生—



県指定文化財 円光寺古墳出土品 (萩博物館蔵)



県指定史跡 大井円光寺穴観音古墳



断面図

萩の古代遺跡



【作業】 42、43ページの「萩市文化財一覧」の「萩市文化財所在地図」を参考にして、上の白地図に古墳などの古代遺跡を●印で書き込んでみましょう。

大井では多くの古墳や石棺が発見されています。このことから、弥生時代に続き、大井が文化の中心として栄え、豪族とよばれる有力者が勢力をふるったと考えられています。

特に、円光寺古墳からは、当時の豪族の華やかなくらしをしのばせるものが多く発見されました。また、隣接するむつみ地域や田万川地域にも、円光寺古墳と同じ時期・様式の古墳があります。

奈良時代 (710~794年)

(3) 奈良時代の文化 — 仏教文化 —



大井大寺の心礎



上野光安寺跡から発見された軒丸瓦 (萩博物館蔵)

聖徳太子の時代以降、国の中央では仏教が栄え、奈良時代になるとさらに地方へと広がりました。大井川下流に残る大寺跡、阿武川下流の上野光安寺遺跡などの寺院跡は、昔、萩地方で仏教文化が繁栄していたことをしのばせています。

上の写真の石は、大井大寺の塔の心礎（建物の中心となる柱の下になる石）とよばれる石で、上に立てた柱がずれないように丸いくぼみが掘られています。くぼみの直径が1mもあることから、この石に立てられた柱や、それを中心として建てられた塔がかなりの大きさであったことがわかります。

— 見島ジーコンボ古墳群 —



国指定史跡 見島ジーコンボ古墳群 (見島)

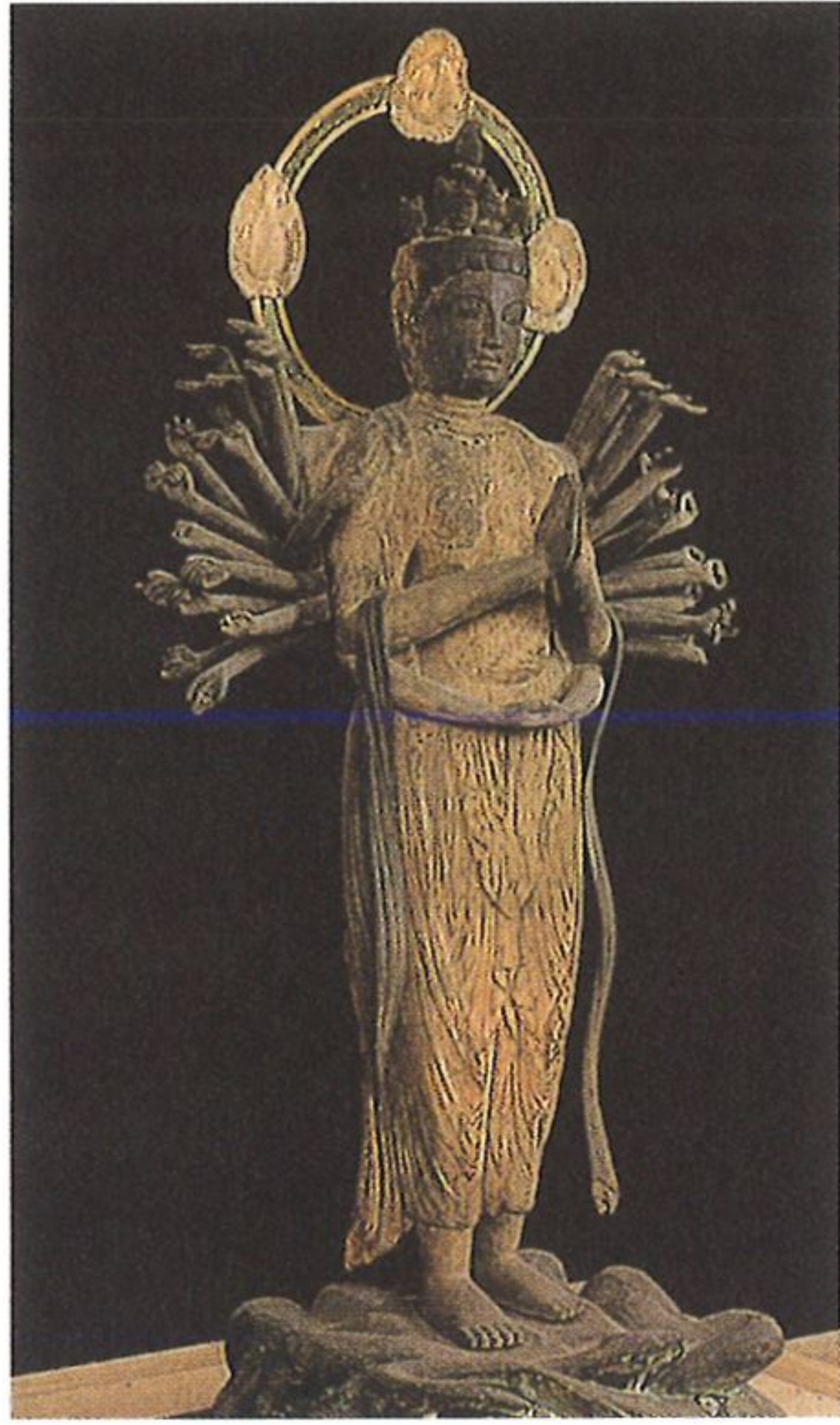


県指定文化財 見島ジーコンボ古墳群出土品 (萩博物館蔵)

見島で発見されたジーコンボ古墳群には、大きな石や小石を積み上げてつくられた積石塚とよばれる形の古墳が200基ほど集まっています。この古墳は奈良時代後半から平安時代の初めにかけてつくられた古墳で、防人の指揮官の墓ではないかと考えられています。古墳内部からは青銅製の金具や玉類など多数の副葬品が発見されていますが、大陸から直接の影響を受けたと思われるものはあまりありません。

平安時代 (794~1192年)

(4) 平安時代の文化 — 萩の仏教 —



国指定重要文化財

木造 ^{せんじゆかんのりゆうぞう} 千手観音立像 (南明寺蔵・椿)
像高 180.5cm



県指定文化財

木造 ^{しゃかによらいざぞう} 釈迦如来坐像 (大照院蔵・椿)



大井 ^{てんちょうやま} 天長山出土の ^{きょうづつ} 経筒
(萩博物館蔵)



県指定文化財

木造 ^{ふどうみょうおうりゆうぞう} 不動明王立像 (長寿寺蔵・北古萩)
像高 162cm

平安時代には、中国や朝鮮半島の文化を消化し、日本の風土や生活感情に合った国風文化が発達しました。しかし、藤原氏が政治を独占しはじめた平安時代中期から社会不安がおこったため、死後に極楽浄土に生まれ変わることを願う浄土信仰が広まりました。

萩に残されている彫刻や経筒も浄土へのあこがれを示すものが多く、平安時代の世相をよく反映しているといえます。

2 中世の郷土

鎌倉時代 (1192~1333年)

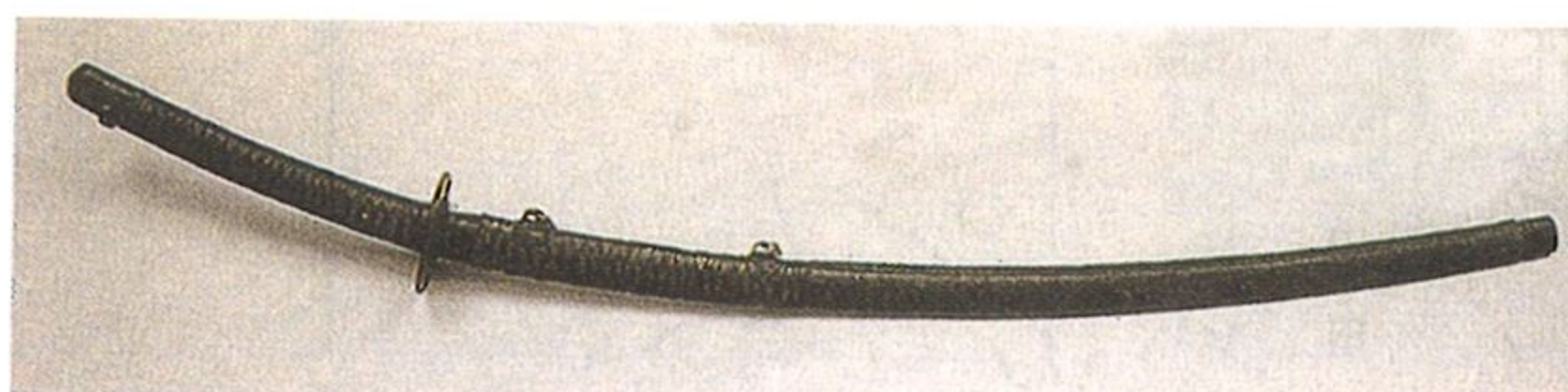
(1) 鎌倉時代 —力強い美術・元寇—



国指定重要文化財

太刀 銘延吉のぶよし

(志都岐神社蔵、萩博物館保管)



国指定重要文化財

太刀 銘光房みつふさ

弘安三年十月 日

(志都岐神社蔵、萩博物館保管)

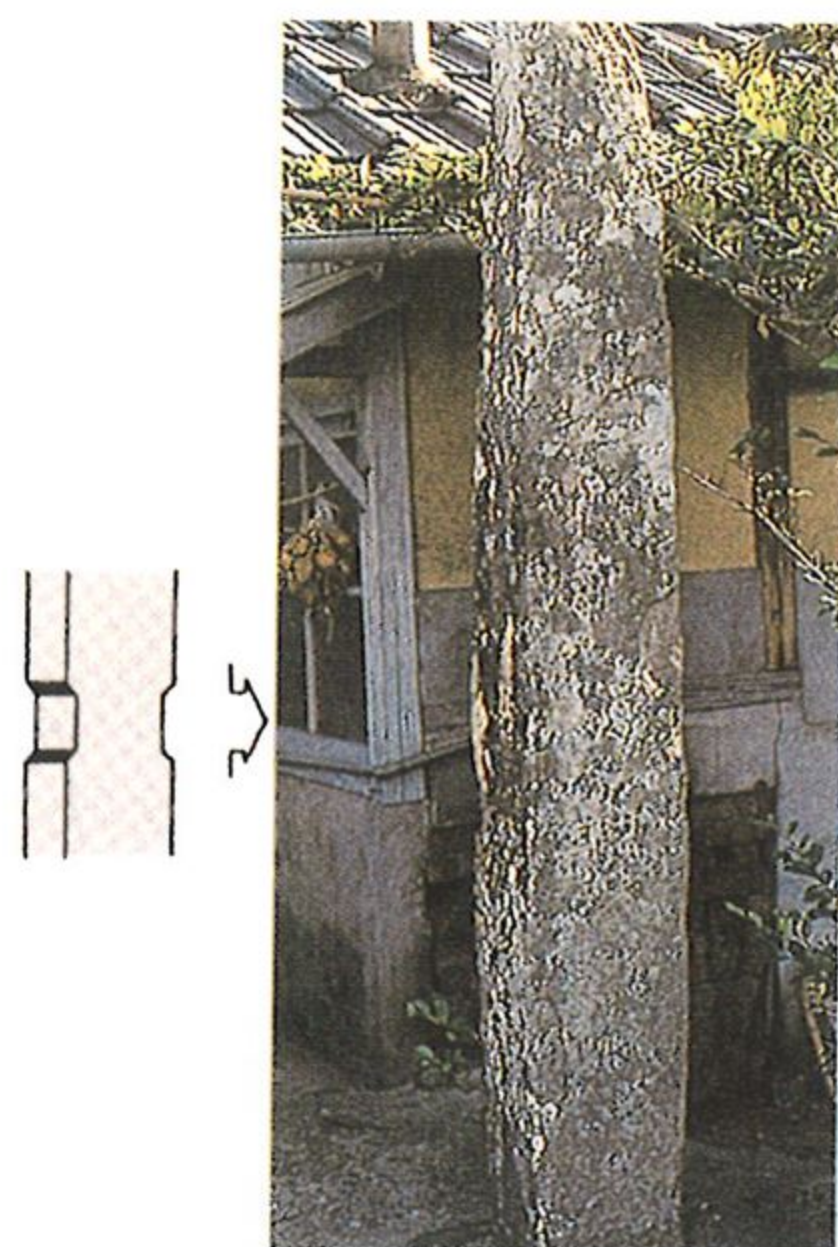


国指定重要文化財

木造 赤童子立像あかどうじりゅうぞう

(大照院蔵・椿)

像高 61.2cm



市指定文化財 元寇の碇石いかりいし
(大井・馬場)



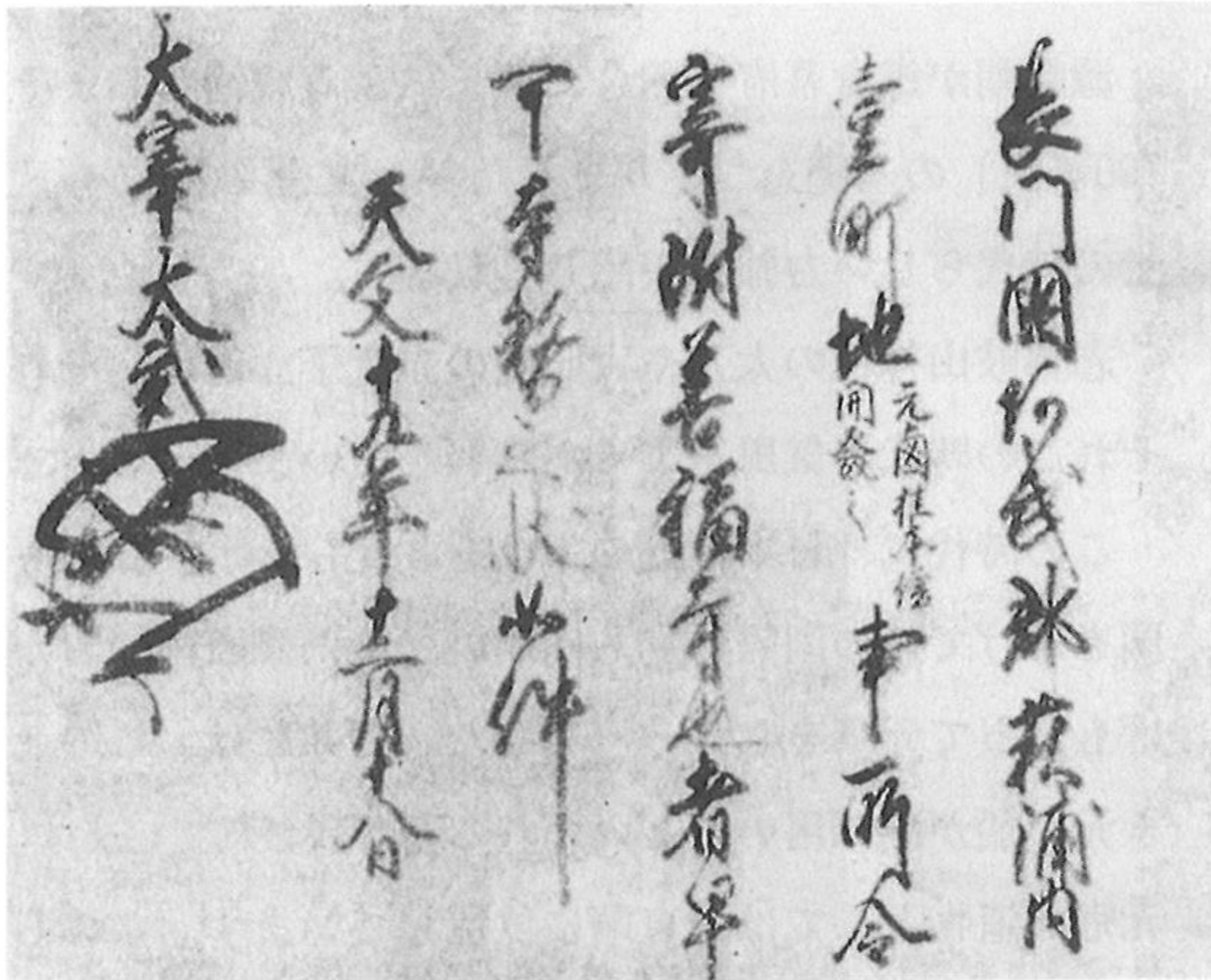
鵜山の石ぐる (大井)

源頼朝が鎌倉幕府を開き、江戸時代まで約700年続く武士による政治の基礎をつくりました。志都岐山神社しづきやまの太刀や大照院の赤童子立像には、武士の時代らしい力強さが感じられます。

鎌倉時代に、日本は元から2度の攻撃を受けましたが、国を挙げて立ち向かい、また暴風雨のおかげもあって元軍を退けました。大井には、この元寇の時に元の船が碇に使ったといわれる石が残されています。この石の中程には綱を結ぶためのくぼみがつけられています。また、同じく大井の鵜山うやまにある「石ぐる」は、元軍の上陸を防ぐためにつくられた石塁せきるいの跡といわれています。この碇石は、元寇の遺物としてはわが国の最東端に位置しています。

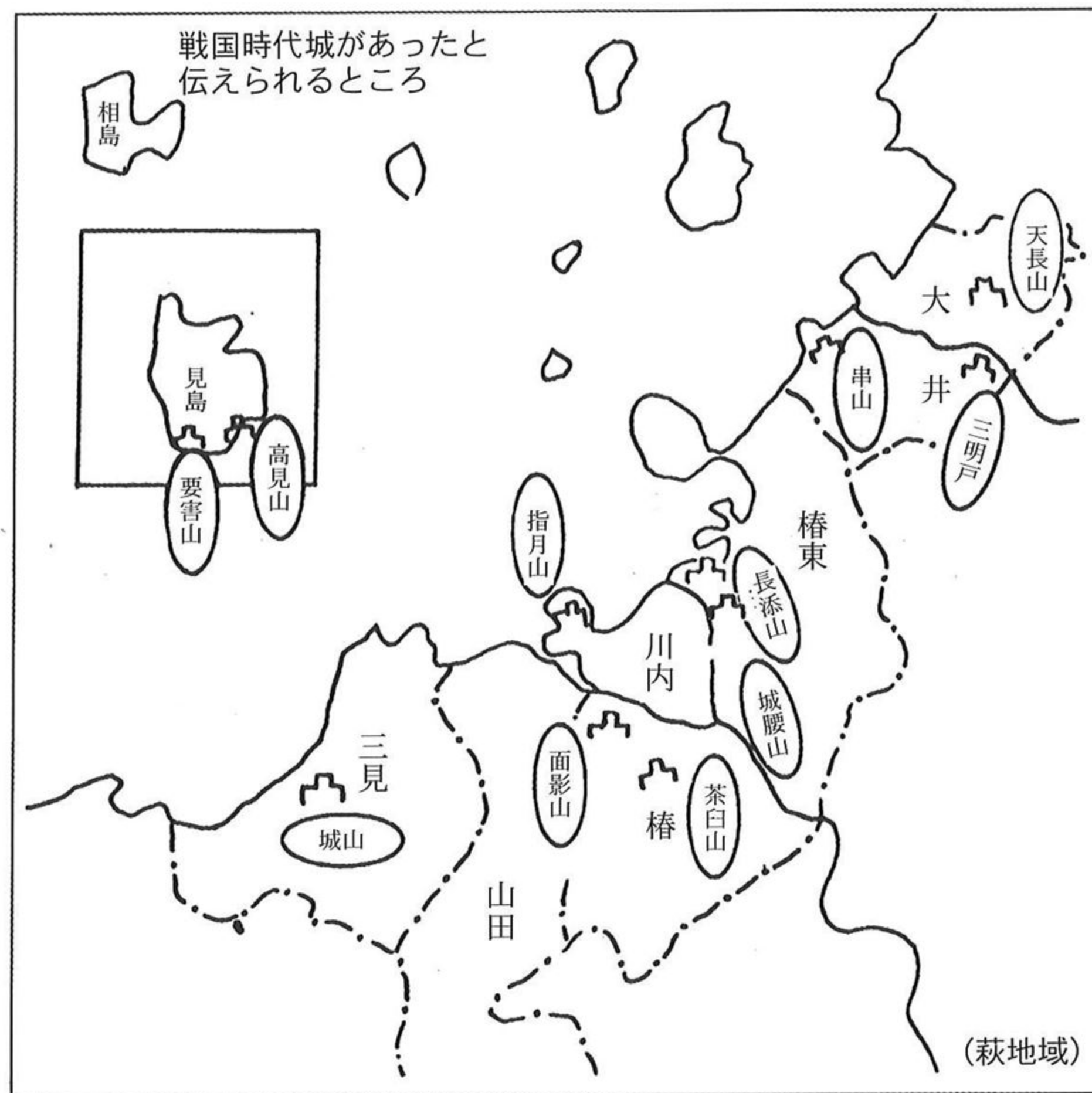
室町時代 (1338~1573年)

(2) 室町時代



長門の国阿武郡こおりの萩浦の内
 一町の地（僧の元齒桂本げんろけいほんが開発した）を
 善福寺へ寄付するので早く
 寺務をはじめなさい。
 天文十九年十二月十八日
 太宰大貳ださいだいに（大内義隆）書判

大内義隆寄進状（善福寺蔵、萩博物館保管）



室町時代の終わり頃、大内義隆が善福寺ぜんぶくじに与えた寄進状きしんじょうの中に「萩浦」の名称が見られます。「萩」という地名が現れるのはこの頃からです。当時、地元の武士たちは、自分の領地を守るために各地に小さな城や砦とりでを築いていました。

安土・桃山時代（1573～1603年）

(3) 安土・桃山時代



国指定重要文化財 じょうねんじ 常念寺表門（下五間町）



常念寺表門の軒瓦



表門内部の彫刻

安土・桃山時代は、活気にあふれた時代でした。このような気風は文化面にも反映されています。常念寺の表門は、豊臣秀吉が京都に築いた聚楽第裏門を毛利輝元がもらい受け、常念寺に寄進したもので、桃山時代の豪華で雄大な気風が感じられます。

常念寺表門の軒瓦には、のきまるがわら軒丸瓦の間にあるのきひらがわら軒平瓦の形と、軒平瓦の中の図案にこの時代の古い様式が見られます。また、表門内部の彫刻に見られる五七の桐は豊臣家の家紋で、このことからこの門が豊臣秀吉から与えられたことがわかります。

3 近世の郷土

江戸時代（1603～1868年）

(1) 城下町「萩」



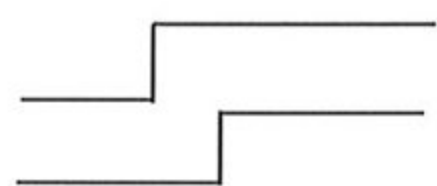
鍵 曲（堀内）



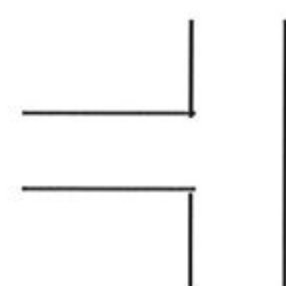
鍵 曲（平安古）

[例]

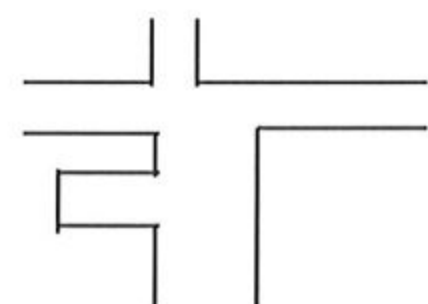
・ 鍵曲



・ 丁字路



・ 袋小路



国指定重要文化財 菊屋家住宅

萩城の築城と並行して城下町もつくられました。萩城三の丸であった堀内は身分の高い武士の屋敷に割りあてられました。平安古・江向もほとんど武士の屋敷にあてられました。一方、町人は浜崎町・細工町・吉田町・熊谷町・瓦町などに職業ごとにまとまって住むことになりました。

戦闘に備えることが城下町の大きな役割であったので、丁字路や鍵曲ていじろ かいまがりがつくられました。三角州と外部をつなぐ橋も、はじめは橋本大橋だけでした。平安古や堀内から玉江方面へ行くには渡し船を使っていました。

こうして城下町「萩」は防衛上は強い機能を備えることになりましたが、低湿な三角州であったため、洪水とのたたかいが大きな課題でした。

次頁の萩城下町絵図から、堀、丁字路、鍵曲などをさがして、現在はどのようになっているか調べてみましょう。

(2) 萩城下町絵図



(萩博物館蔵)

(3) 萩 開 府



毛利輝元肖像（萩博物館蔵）

1600年（慶長5）、天下分けめの関ヶ原の戦いに敗れた毛利輝元は、徳川家康から周防・長門（今の山口県）の2か国、36万石の領地を与えられました。それまで、毛利氏は、安芸・備後（今の広島県）、周防・長門、石見・出雲・隠岐（今の島根県）、それに備中（今の岡山県）の半分と伯耆（今の鳥取県）の半分、合わせて112万石もの領地をもち、広島に城を築いて治めていました。

広島から防長2か国に移ってきた毛利輝元と家臣たちは、領地の中心となる城と城下町をつくる必要がありました。そこで、輝元は防府の桑山、山口の鴻峯、萩の指月山の3つの候補地を選び、江戸幕府に相談して、萩の指月山に城を築くことに決定しました。

城づくりは、1604年（慶長9）から始まり、翌年には、家臣たちに屋敷を割りあて、商人や職人をよんで、町づくりにとりかかりました。現在では、萩の町は、松本川と橋本川にかこまれた三角州の上につくられています。そのころには、このあたりは、大部分が沼で、アシのはえた水たまりでした。また、川上から萩までは竹や木がしげり、堀内から浜崎までは松原でした。町づくりは、竹や木をのけ、松を切って根を掘り起こし、埋めたてをして、道路や屋敷地をつくることから始めなければならなかったのです。それには、多くの人たちの労力を必要としました。



萩城天守閣（明治初め頃の様子）



現在の萩城跡の様子
（国指定史跡）

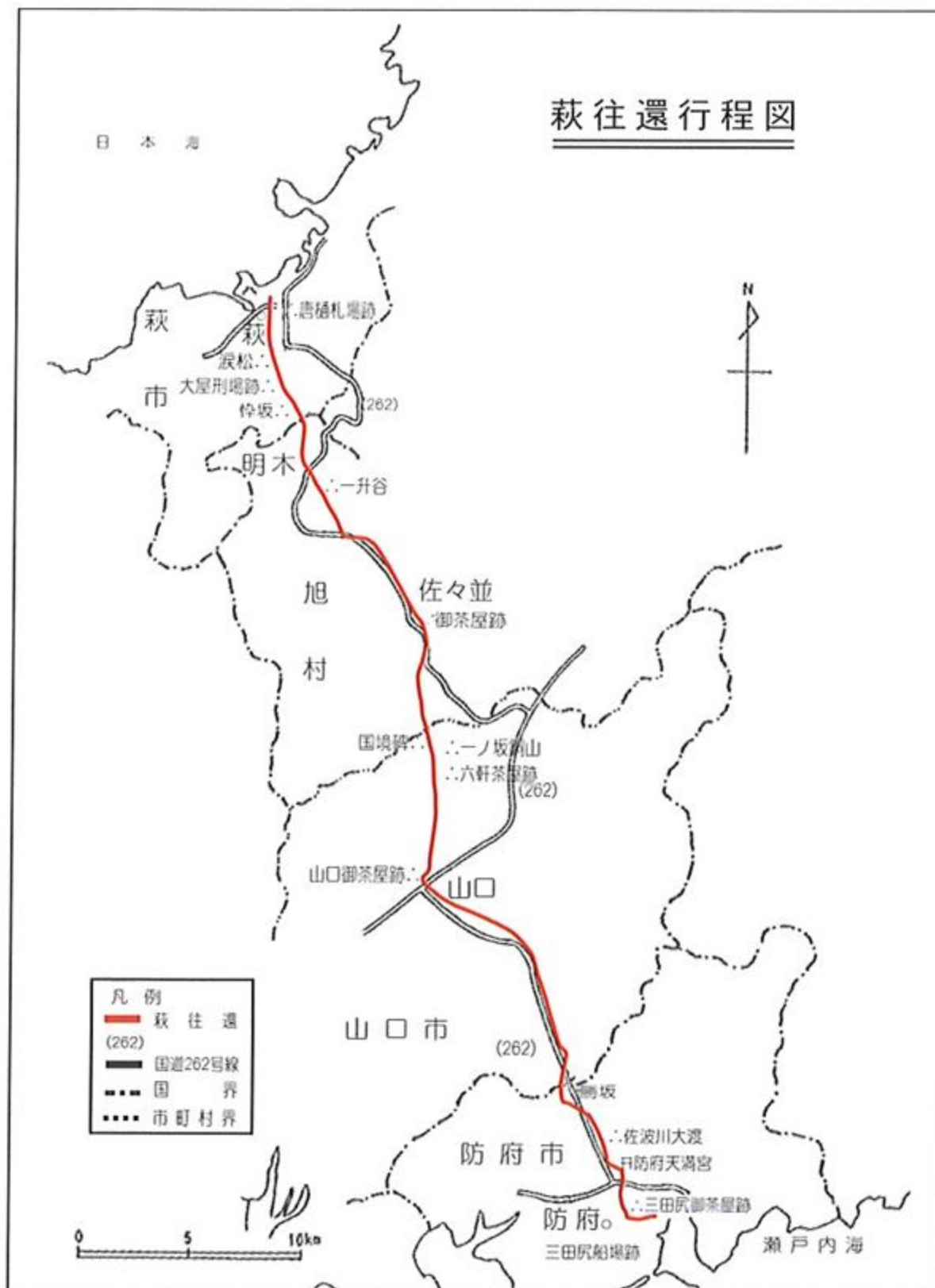
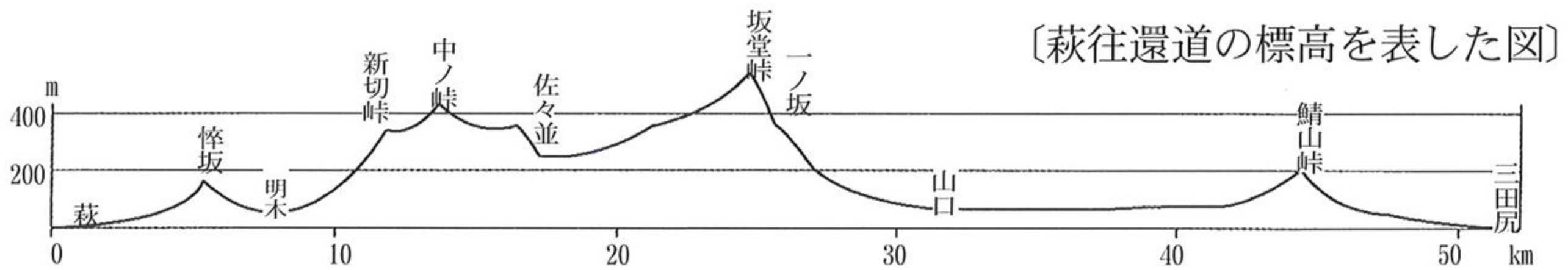
1863年（文久3）4月、藩府を萩から山口に移したことで、萩城はその役目を終えることになりました。ついで1873年（明治6）新政府から萩城の払い下げ令が出て、その翌年、天守閣をはじめ、矢倉や城門などすべての建物が解体されてしまいました。

現在、城跡は指月公園となり、多くの観光客が訪れ、市民が憩う場となっています。

(4) 参勤交代と萩往還



たかちか
毛利敬親参勤交代錦絵（萩博物館蔵）



国指定史跡
歴史の道 萩往還
かせがさか
一里塚（悴坂）

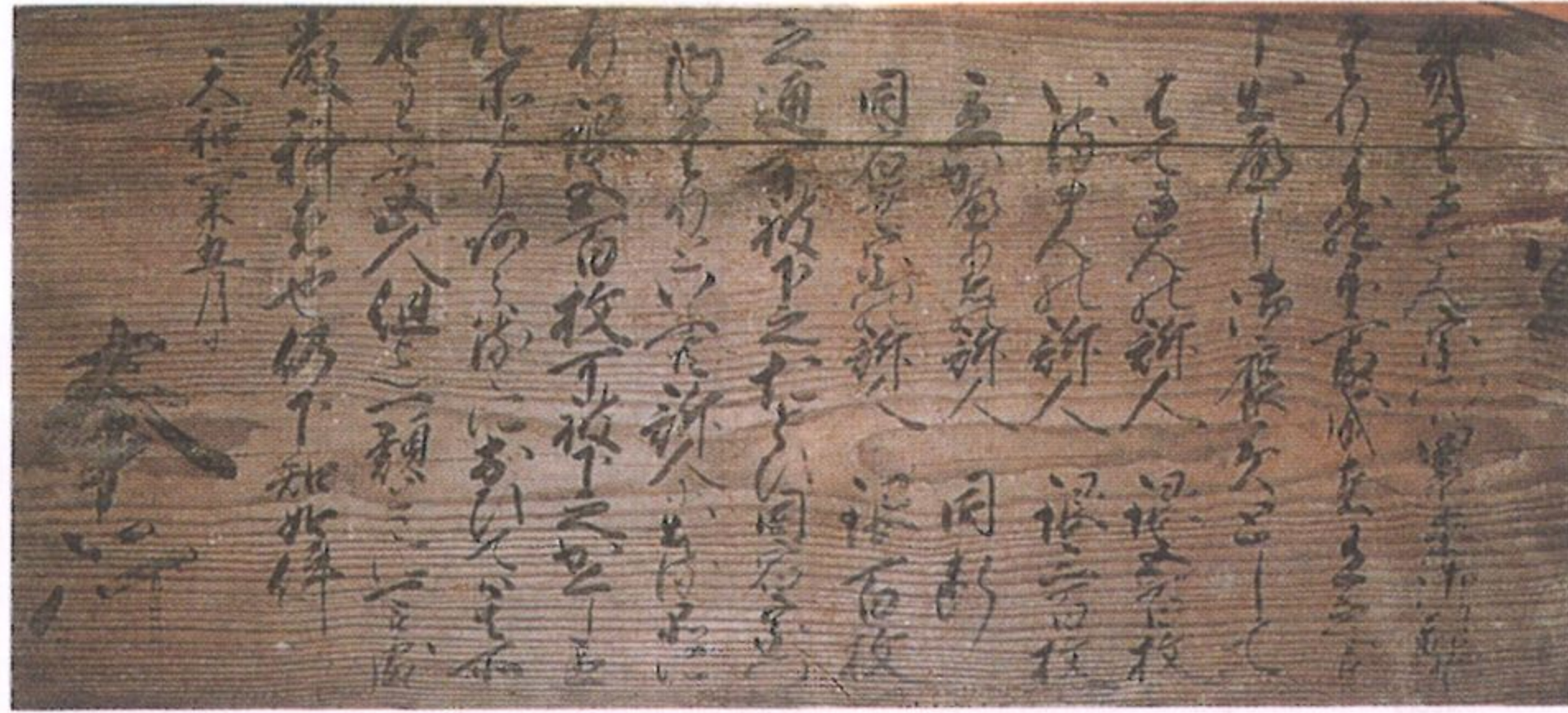


涙松の碑

1635年（寛永12）6月、幕府は諸大名の参勤交代を制度化し大名統制を強めたため、大名の財政は苦しくなりましたが、参勤交代のために開かれたルートは、人や物の流通にたいへん役立ちました。

萩往還は江戸時代に萩城と三田尻の御船倉とを結ぶ毛利氏の参勤交代の道として整備されました。行程約 53 Kmです。御駕籠建場や御茶屋等の休憩所も設けられ、多くの人々に利用されましたが、中国山脈を最短距離で越えるため、険しい坂や峠が多くなり、苦しい旅であったと思われます。幕末に登場する吉田松陰もこの道を通って江戸へと送られたのです。1859年（安政6）、江戸へ送られる途中大屋の涙松にさしかかり松陰は、萩の町もこれで見おさめと思い「帰らじと おもひさだめし 旅なれば ひとしほぬるる 涙松かな」という句を詠みました。現在では御駕籠建場の建物も復元されるなど、歴史の道として整備が行われ、当時のようすを今に伝えています。

(5) キリシタンの取締り



キリシタン禁制の札（萩博物館蔵）

※ばてれん…キリスト教の宣教師
いるまん…修道士

きりしたん宗門八累年御制禁
たり自然不審成者有之は
申出へし御褒美として
はてれんの訴人 銀五百枚
いるまんの訴人 銀三百枚
立かへり者の訴人 同断
同宿并宗門の訴人 銀百枚
右之通可被下之たとひ同宿宗門
之内たりといふ共訴人に出る品に
より銀五百枚可被下之かくし置
他所よりあらハるゝにおいてハ其所
之名主并五人組迄一類ともに可被処
厳科者也 仍下知如件
天和二年五月 日
(一六八二)
奉行

室町時代の末頃、ザビエルのキリスト教布教を大内氏が認めたため、山口周辺にはかなりの数のキリスト教信者がいました。

その後、秀吉、家康と続く執ような弾圧の中で多くの信者は、信者であることを止めましたが、一部の人たちは隠れキリシタンとしてひそかに信仰を続けていたようです。

江戸時代になっても、萩には信者がいたらしく、藩政初期には、しばしばキリスト教信者の処刑が行われました。

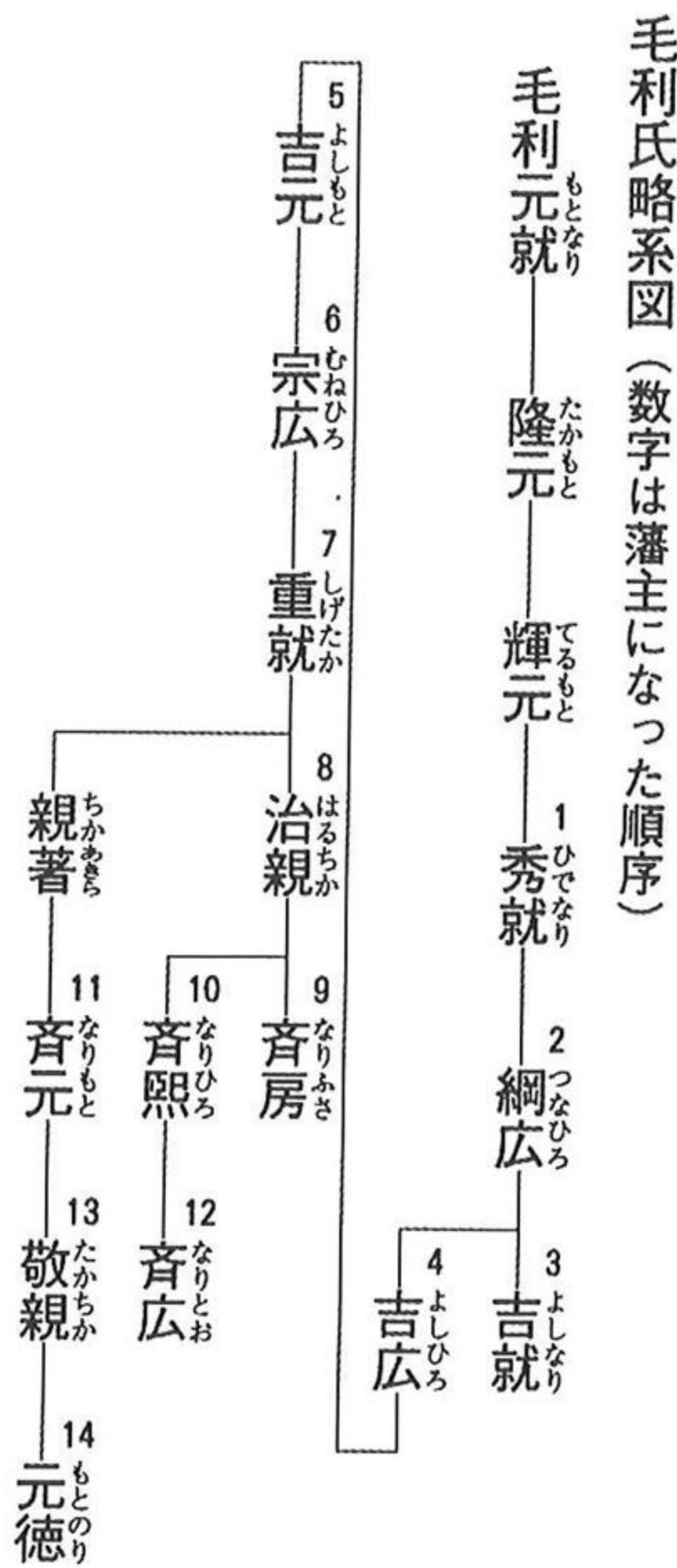


キリスト教受難者の墓（堀内1区の3）

明治時代の初めに行われたキリシタンの処置は、西日本を中心に20藩に分けて行われました。

萩では66人を預かり、大島に收容したそうです。なかでも特別抵抗の強い者5人を羽島に移し、のち全員を鶴江台に移し、ついで堀内の清水屋敷に收容しました。さらに、200人余りの長崎の浦上村の人々が萩に入港し、堀内の深野町（堀内1区の3）の岩国屋敷に入れられました。萩での改宗のための指導は特別厳しく、改宗しない人を勘弁小屋というところに入れて拷問しました。飢えや重労働で改宗する人もいましたが、死者も出るほどでした。

(6) 藩政の確立



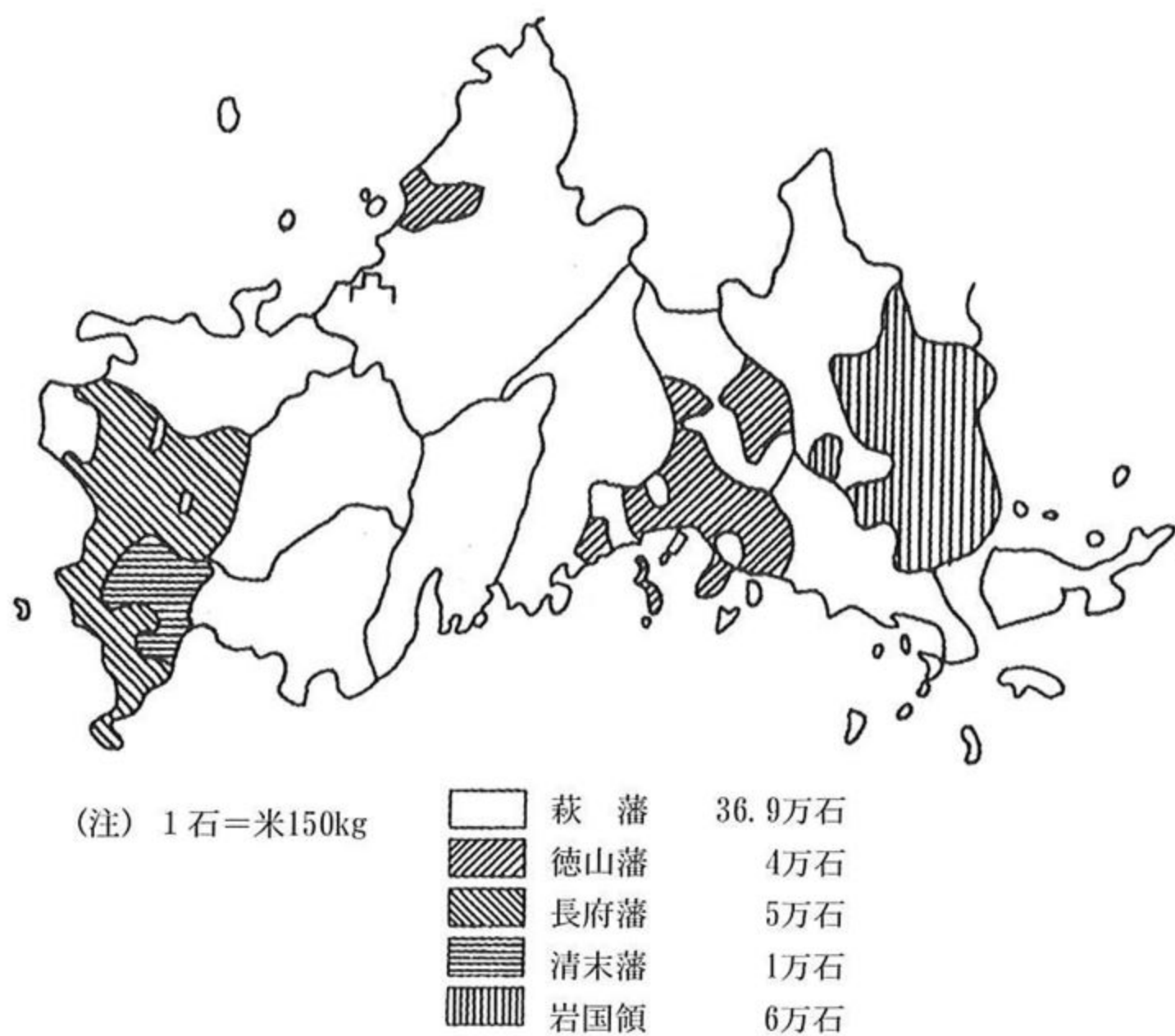
万治制法（農民に対する法度の一部）

- 一、百姓はたとえ裕福であつても、美麗をつくした家をつくつてはいけない。
- 一、百姓は直参の諸士に無礼をしてはいけない。少々杖で打たれてもがまんすること。もし相手になつて戦つたら百姓の方を曲事とする。
- 一、百姓が逃げないよう、五人組の者へよく申渡すこと。逃げそうなそぶりが見えたら、ひそかに村役人にとどけ出ること。もしそれでも逃げたら五人組の者が探し出すこと。
- 一、百姓の衣類は分相応にするよう、かたく申渡すこと。身の程を忘れ、衣類その外かわつたかつこうをするのは曲者である。
- 一、村に不良の百姓がいると、その村の百姓みんなが悪くなるので、このような百姓がいたら、ひそかに申出ること。

幕府が1649年（慶安2）、慶安の御触書を出して、その權威のほどを示すと、諸藩もそれにならうようにして、藩政の確立のため法度（法律）を定めました。

萩藩でも1660年（万治3）に「万治制法」を制定しました。その内容はキリシタン禁制のことを始めとして武士や農民、町人の衣・食・住にまで及ぶ細かなものでした。また、五人組制度が整えられ、農民の生活はきびしく統制されることになりました。

藩政時代の防長両国（1850年ごろ）



防長両国村別地図（山口県文書館所蔵）及び「もりのしげり」より作成

江戸時代の農民の生活に関するできごと

1670年	堀内で編笠の使用を禁ずる
1709年	吉田町に御救米蔵ができる
1732年	いなごの害で29万余石に減収
1733年	大凶荒で餓死者多数
1810年	川上村一揆、萩に迫る
1829年	財政難のため米銀献納の者に苗字帯刀を許す
1832年	萩藩の負債8万貫目に及ぶ
1836年	百姓一揆の指導者6人を大屋で処刑
1838年	大洪水で米価値上がりする
1838年	干ばつで飢饉 捨て子多数

(7) 藩主の仏教保護 —毛利氏と仏教—



国指定重要文化財 だいしょういん 大照院 きょうぞう (経蔵)



国指定重要文化財 大照院 しょうろうもん (鐘楼門)

れいちんざん 霊椿山大照院は、ひでなり 初代藩主毛利秀就の菩提のために2代藩主のつなひろ 毛利綱広が建立した臨濟宗の寺院ですが、1747年(延享4)の火災で焼失し現在のものは1750年(寛延3)に6代藩主むねひろ 毛利宗広のときに再建されたものです。

墓所には秀就以下、7藩主夫妻とその一族の墓、及び秀就にじゆんし 殉死した人たちの墓があります。



国指定史跡 毛利家墓所 (大照院 初代・2・4・6・8・10・12代) (椿)



国指定重要文化財 東光寺（総門）
 国指定史跡 萩藩主毛利家墓所〈東光寺 3・5・7・9・11代〉（椿東）



国指定重要文化財 東光寺（大雄宝殿）

護国山東光寺は、1691年（元禄4）、
 3代藩主毛利吉就よしなりによって建てられた
 黄檗宗おうばくしゅうの寺院です。

黄檗宗は明の僧いんげん隠元によって広めら
 れましたが、吉就はこの流れをくむ萩
 出身の名僧えごく慧極の教えを受け、深く信
 仰しました。

慧極がこの寺を開いてから、大照院
 とともに毛利氏の菩提寺として藩主の
 信心を受け、盛期には堂塔20棟、僧侶
 等80人を数える大寺院となりましたが、
 現在は総門、三門、大雄宝殿、鐘楼、
 方丈などが残るだけです。



国指定重要文化財 東光寺（鐘楼）

(8) 藩校 明倫館

5代将軍徳川綱吉が湯島に聖堂を移し、儒学の振興をはかると、諸藩もこれになりました。

萩藩では、5代藩主毛利吉元よしもとが1719年(享保4)、萩城三の丸めいりんかんに藩校明倫館を創立しました。現在の位置に移ったのは130年後の1849年(嘉永2)のことです。

初代学頭には小倉尚斎おぐらしょうさいが就任し、朱子学を講じました。校訓として「成徳達材せいとくたつざい」をかかけ、水戸こうどうかんの弘道館、鹿児島ぞうしの造士館かんとならぶ全国有数の規模を誇る藩校でした。

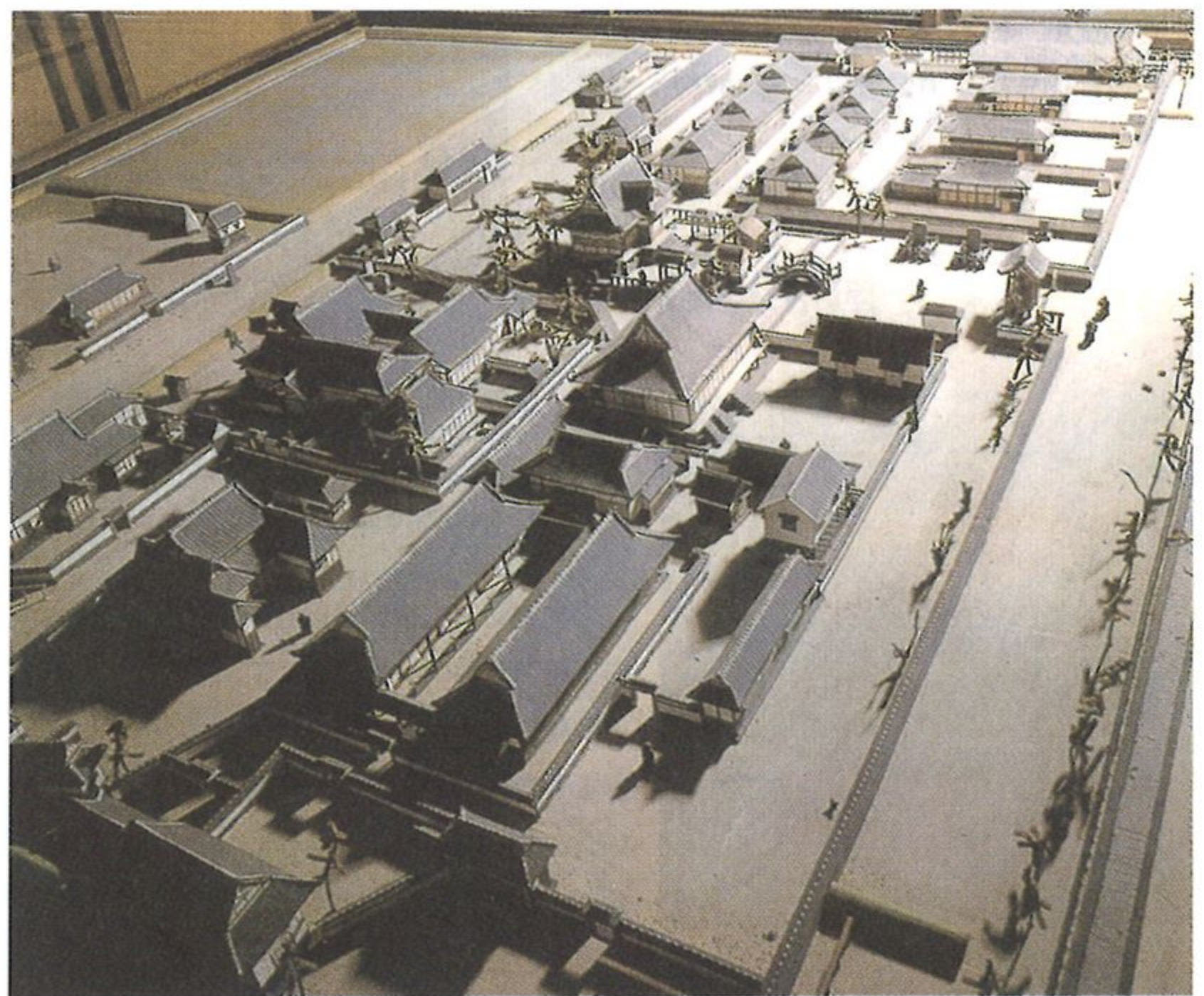
毎年、正月12日から始まり、12月10日をもって修了しました。ひと月のうち12日間は「儒学じゅがく」、6日間は「兵学」の講義日とし、諸武芸は5日間、射術は6日間行われました。講義は毎朝8時から始めて、諸武芸に移り、晴天には馬術も行いました。



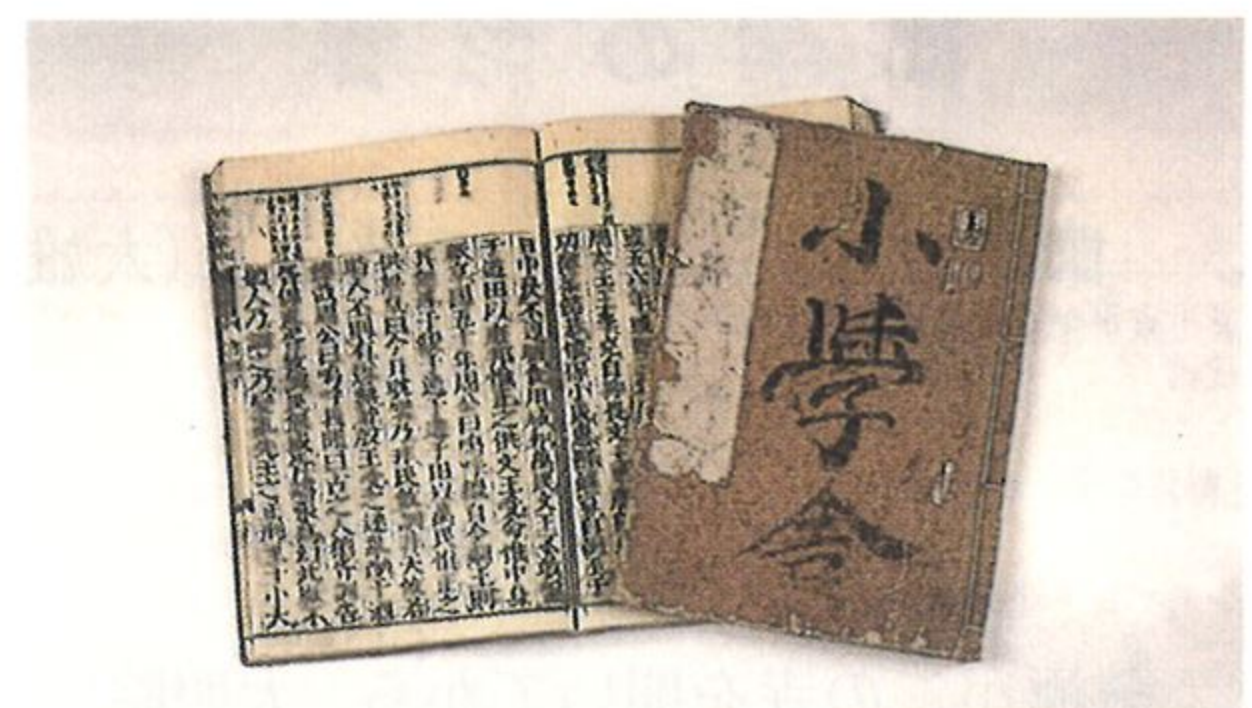
国指定史跡 旧萩藩校明倫館 (水練池 江向)



明倫館の扁額
南門にかけられていた (明倫小学校蔵)



明倫館模型 (明倫小学校蔵)



明倫館で使用された教科書
(萩博物館蔵)

水練池すいれんいけは、周囲を石垣で囲った東西39.6m、南北15.5m、深さ1.5mの池で、ここでは遊泳術や水中騎馬などを行いました。藩校の水練池としては、わが国に現存する唯一のものです。



国指定史跡 旧萩藩校明倫館（有備館 江向）



市指定文化財 南門（江向）

^{ゆうび かん}有備館は三の丸（堀内）にあった旧明倫館の剣・槍術場を移して拡張したもので、木造平屋建の南北に長い建物です。内部は北半分を剣術場、南半分を槍術場とし、藩士の練武だけでなく他国からの修行者の試合場でもありました。土佐の坂本龍馬も1862年（文久2）正月に来萩し、ここで試合をしたといわれています。もともと、^{ゆうび かん}有備館という名前は江戸の藩邸にあった文武講習所の名から、大正時代につけられたもので、それまでは、^{けんそうけい こば}「剣槍稽古場」とよばれていました。

郷校 ^{いくえい かん}育英館

^{えいだいかろう もとみち}萩藩永代家老益田元道が、1735年（享保20）須佐に郷校育英館を創建しました。

初代学頭には、益田氏の家臣で京都で有名になった学者品川^{きめい}希明が就任し、書物の講義を行いました。

その後、教育の中心は、儒教に基づく人倫の道や時勢を察知し、益田領の安泰と発展に尽力できる藩士を養うことに重きがおかけられました。

益田^{ちかのぶ}親施の時代になると、学舎の増築や著名人を招いて剣術・遊泳の修行なども行われました。また、吉田松陰との親交もあり、塾生の行き来がありました。



市指定文化財 育英館門（育英小学校内）

(9) 蘭学の影響

幕府（全国）		萩藩	
1720年(享保5)	徳川吉宗が漢訳洋書の輸入の禁を緩和	1758年(宝暦8)	藩医栗山孝庵等が萩手洗川刑場ではじめての屍体解剖（日本で2番目）
1774年(安永3)	「解体新書」が刊行	1759年(宝暦9)	栗山孝庵が大屋刑場で女体解剖（日本で最初）
1823年(文政6)	シーボルトが長崎来住	1826年(文政9)	シーボルトが下関に来て24日滞在
		1840年(天保11)	萩南苑内に医学所を設け、青木周弼を蘭学掛に任命
		1849年(嘉永2)	青木研蔵が種痘伝習のため長崎に出向 医学所を明倫館内に移し済生堂と改称（後の好生館）
1853年(嘉永6)	ペリーの来航		

江戸時代も中期を過ぎる頃から、しだいに蘭学の研究が盛んになり、特に直接生活に関係の深い医学の知識が取り入れられるようになりました。

江戸時代中期の藩医栗山孝庵くりやまこうあんは、解剖学で近代医学への道を開き、また後期のすぐれた蘭学医青木周弼あおきしゅうすけは好生館で蘭学の指導にあたり、その業績は藩外まで知られるほどでした。



大屋刑場跡かせがさか（悴坂）



青木周弼旧宅（南古萩町）

青木周弼は大島郡和田村（旧：東和町）の医師青木玄棟の長男で、まず、江戸に上がって医学を学び、後長崎に行き、緒方洪庵おがたこうあんらと蘭学を学びました。まもなく新進蘭方医らんぼういとしての名声が高くなり、1839年（天保10）2月、萩藩に召抱えられました。翌年9月には、藩主敬親は周弼を江向八丁に設けた医学所の蘭学の教授に任じ、毎月1回、医学書の講義を命じました。

(10) 町人の台頭



萩藩藩札
(萩博物館蔵)



国指定重要文化財 菊屋家住宅 (呉服町)

江戸時代には、貨幣経済の浸透と産業の発達によって、商人が台頭し、江戸や上方には全国的に名の知れた豪商（有力商人）も現れるようになりました。萩藩においても商人たちは問屋、金融、仲買、製塩など、あらゆる業種に進出し、藩の御用達となつて藩の財政と密接に連携しながら、その財力をのばしていきました。現在に残る熊谷家、菊屋家の屋敷構えや蔵構えに、豪商とよばれていた当時の繁栄のようすがうかがわれます。

(11) 城下町を支えた北前船

江戸時代、あらゆる商品を運び、「動く総合商社」と言われたのが北前船である。河村瑞賢かわむらざいけんによって開拓された西廻り航路によって、萩もその恩恵を受けることになる。

17世紀後半から、三角州内にある浜崎地区では、他国回船との交易を許された北国問屋衆を中心に栄え、山県家と須子家は豪商として知られていた。しかし、浜崎地区は水深が浅く、大型化していく回船に敬遠されるようになり、それに伴い、回船問屋の数は著しく減少した。また、取引される商品が限定的だったことも大きく影響している。

その一方で、越ヶ浜は水深が深く、次第に商人も力をつけていったため、浜崎よりも栄えていった。

須佐や田万川にも北前船の遺構が残っており、このうち、須佐高山こうやまの中腹にある「黄帝社」こうていしゃは航海造船の神として、船頭たちがこぞって登ったと言われている。



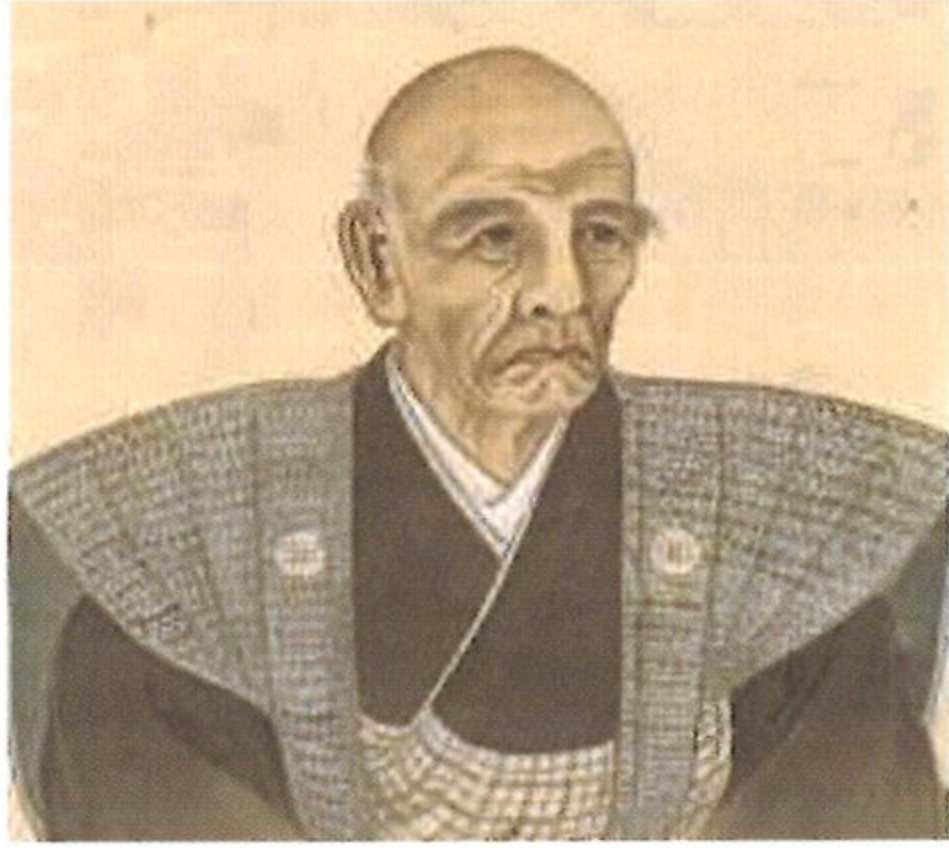
住吉神社



御船倉

(12) 藩政の改革

村田清風(1783~1855)



村田清風肖像 (村田清風記念館蔵)

幕府が天保の改革を始めた頃、萩藩でも藩主敬親の信任を得た、三隅出身の村田清風が藩政の改革に着手しました。

改革の内容は、財政の再建と藩風の刷新であり、財政改革の中身は倹約令の徹底、銀8万5千貫に及ぶ藩債の強引な整理、殖産事業の奨励等でした。

また、1843年(天保14)には羽賀台で大訓練を行うなど、文武の奨励と藩機構の刷新を推進し、その結果萩藩は着々と富国強兵の実をあげ、倒幕から後の新政府樹立へとその活躍の基礎を固めていったのです。

毛利敬親(1819~1871)



毛利敬親肖像 (萩博物館蔵)

敬親は、1819年(文政2)に萩藩11代藩主毛利斉元の第1子として生まれ、19歳で13代藩主となりました。

敬親は、教育に熱心で、有能な人材育成を図りその能力を発揮させました。さらに村田清風を起用し、天保の改革を断行し、藩財政を再建しました。

薩長同盟が実現し、敬親は兵を上京させ戊辰戦争を展開、その結果、明治維新の大業が達成されました。幕末萩藩の独自性は、藩主敬親に負うところが大きく、多難な政局を切り抜け維新達成をなし遂げたその生涯は、「生きた維新史」といえます。

毛利敬親の財政改革

- 一、藩士住民の物心全般の救済をはかり、士気を高揚し誠実勤勉の藩の美風を取り戻すこと
- 一、武備を整え、武芸を奨励し外国勢力の侵犯に対する防備態勢を打ちたてること
- 一、紙蠟米塩の四白政策を基本として殖産興業を大いに奨励すること
- 一、財政の立て直しはすべてに優先する。藩政にへばりつく妖怪を勇断を以て退治すること

村田清風の詩

己亥孟春偶成

国歩艱難策未成	国歩	艱難	策未だ	成らず
忘身聊猷野芹誠	身を忘れて	聊か猷ず	野芹の誠	
才疎万事違人望	才疎にして	万事	人望に	違ひ
德薄多年負世情	德薄くして	多年	世情に	負く
皎月門前誰碎石	皎月	門前	誰か石を	砕く
芳梅籬外渠剪楹	芳梅	籬外	渠れ	楹を剪る
撫松唯托千秋後	松を撫して	唯托す	千秋の	後
有問清風答我名	清風に	問う有らば	我名を	答えよ

【訳】

財政再建の歩みは困難を極め、その仕組みは計画どおりに進んでいかない。いやしき身ながらわたしは一身一家を忘れてこの仕事に没頭している。しかし、生来、才乏しく、とかく太平の世に慣れた人々の考えに合わず、加えて徳もなく、やることなすこと、多年世の人情にそむく結果になった。しらじらと月の照る門前で、わたしを憎むあまり、溝の石蓋を砕く音がしたり、梅の咲くまがきの外で門柱を切りつける音がすることもある。しかし、わたしは信念をまげるともいはず。わたしは百年の考えや、やることとがその人たちにわかって貰えぬ筈はない。せめて何百年か経った後、それがわかって貰える日が来よう。と、わたしは庭の松を撫でながらわたしの思いを話すのである。

『村田清風入門』平川喜敬 著より

(13) 維新の原動力

高杉晋作(1839~1867)



高杉晋作肖像 (萩博物館蔵)

萩藩大組士高杉小忠太の長男として1839年(天保10)に生まれ、1857年(安政4)松下村塾に通い始めました。

塾生のうち、晋作は久坂玄瑞とともに「松門の双璧」といわれ、その才覚を大いに発揮しました。

高杉晋作の指揮下に結成された奇兵隊は江戸時代の武士のみの軍事編成とは異なり、いかなる階層でも入隊できる新しい発想の軍隊でした。この奇兵隊を中心に諸隊が続々と誕生し、やがてこの軍事組織が旧体制を崩す役割を担うことになったのです。

1864年(元治元)長府功山寺で決起し、萩藩保守派を倒したことが決定的な契機となり、維新は急展開していきます。

まさに、維新の立役者といえますが、その晋作も時代の夜明けを見ずに、1867年四境戦争での小倉口の戦いの時、下関で病死しました。満27歳の若さでした。臨終の際の「おもしろきこともなき世をおもしろく」はいかにも彼の生きざまを表わしているように思われます。

吉田松陰(1830~1859)



吉田松陰肖像 (松陰神社蔵)

1830年(天保元)、下級武士、杉家の次男に生まれましたが、6歳の時叔父の吉田家を継ぐことになりました。

幼いころから山鹿流の兵学を学び、11歳の時藩主毛利敬親の前で講義を行い、19歳で兵学教授、藩校明倫館で講義を行う秀才でした。

学識を深めた松陰は、1854年(安政元)アメリカのペリーが日米和親条約の締結を目的に再度来航した時、軍艦に乗り込み海外への渡航を弟子の金子重輔とともに企てるのですが失敗し、萩の野山獄に送られます。在獄の後、実父の杉家に幽囚の身となりますが、叔父の開いていた松下村塾を受け継ぎました。

安政6年の大獄で処刑され、満29歳で生涯を終えました。

激動の世に生き、先見性をもった思想と実行力も志なかばで終わりましたが、その志は門人たちの心の中に生き、明治の新しい時代をつくる礎となりました。

下田獄から江戸送りの途中で詠んだ「かくすればかくなるものと知りながら、已むに已まれぬ大和魂」は、松陰の行動に貫かれている心情といえます。

吉田松陰の歌

○ 帰らじと思ひさだめし旅なれば
ひとしほぬるる涙松かな

○ 松陰が江戸送りとなり、萩を離れる時に大屋で詠んだもの」

○ 親思うところにまさる親ごころ

けふの音ずれ何ときくらん

○ 幕府の取調べで、死罪が決定的となり、詠んだもの」

○ 身ハたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも
留め置かまし大和魂

○ 死罪が決定的となり、門人達に宛てて詠んだもの」

《絶筆》

○ 此程に思定めし出立ハ

けふきくこそ嬉しかりける

至誠の書

至誠而不動者
未之有也

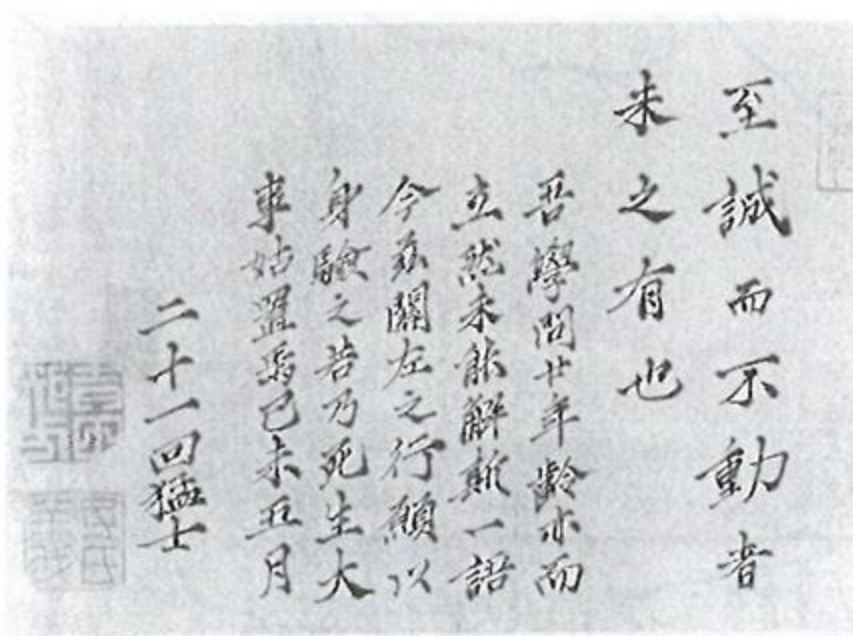
※注

『至誠而不動者未之有也』

孟子の言葉

『二十一回猛士』

松陰のこと



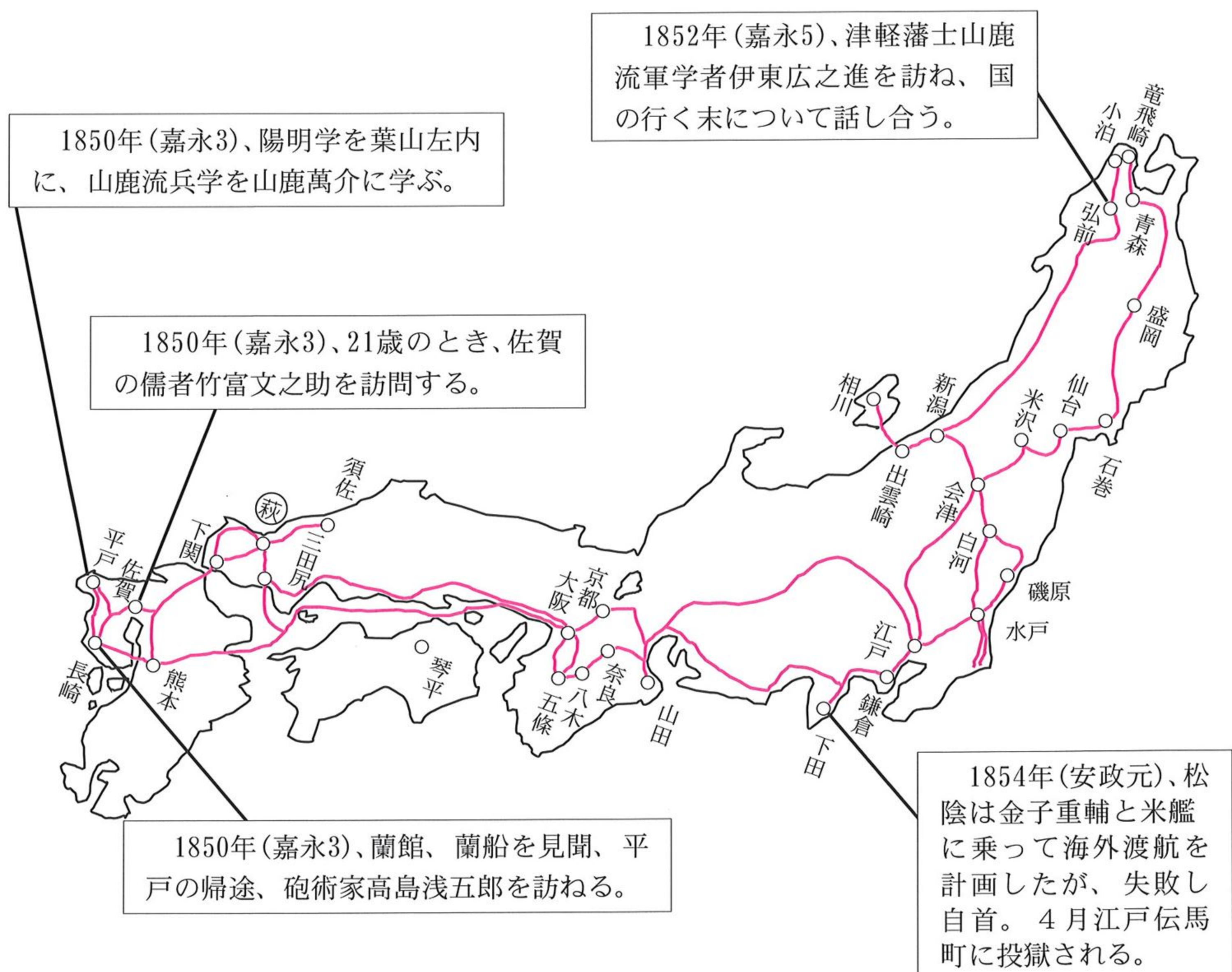
松陰神社蔵

松陰が江戸送りの直前に書いたものですが、意味は「『至誠にして動かざるものは未だこれあらざるなり』という言葉があるが、自分は二十年間も学問をしてきて、まだこの言葉がほんとうであるかどうか知らない。今度こそは実際にためしてみようと考えている。」ということです。

(14) 吉田松陰略年譜

- 1830年(天保元) 萩松本村に生まれる。(8月4日)
- 1835年(天保6) 吉田家を継ぐ。
- 1839年(天保10) 初めて藩校明倫館で兵学を講義する。
- 1840年(天保11) 藩主の前で「武教全書」を講義する。
- 1850年(嘉永3) 九州へ遊学、平戸・長崎・熊本などを回り見聞を広める。
- 1851年(嘉永4) 藩主に従い江戸へ出る。12月脱藩して東北へ旅立つ。
- 1854年(安政元) 金子重輔と下田にて米艦へ乗り込み渡航しようとしたがはたさず失敗し、自首する。後、萩の野山獄に移される。
- 1855年(安政2) 野山獄中の人々と勉強会を始める。12月実家杉家にお預けとなる。
- 1856年(安政3) 杉家の幽囚室で「武教全書」の講義を始める。門人が多くなる。
- 1857年(安政4) 杉家敷地内の小舎を修理して松下村塾をつくる。
- 1858年(安政5) 老中間部詮勝まなべあさかつ いさを諫めようと計画したが失敗する。
狙撃暗殺を計画したとして再び野山獄に入れられる。
- 1859年(安政6) 江戸へ送られ、伝馬町の獄にて処刑される。(10月27日)

— 吉田松陰遊歴地図 —
(「維新の先達吉田松陰」と「萩市報」より)



(15) 松下村塾と松陰門下生



国指定史跡 松下村塾 (椿東)

前原
一誠



土原に生まれる。
(1834~1876年) 維新前後
国事に活躍したが、政府
の方針に不満をいただき、
萩の乱の党首におされた。

山県
有朋



川島に生まれる。
(1838~1922年) 明治、大
正期の軍人。政治家。二
次にわたり組閣、軍備拡
張につとめた。

高杉
晋作



菊屋横町に生まれる。
(1839~1867年) 奇兵隊を
組織、倒幕の気運を促進
したが、志なかばで病没
した。

久坂
玄瑞



平安古に生まれる。
(1840~1864年) 尊攘急進
派の指導者、禁門の変で
重傷を負い、自害した。

正木
退蔵



(1846~1896) 1876年(明治
9) イギリスに渡った時、ス
ティーヴンスン(『宝島』の著
者)に吉田松陰の教えや生
涯を話し、世界最初の松陰
の伝記が書かれた。東京職
工学校(後の東京工業大
学)の初代学校長。

伊藤
博文



熊毛郡に生まれる。
(1841~1909年) 大日本帝
国憲法制定に努力。初代
首相、中国のハルピンで
暗殺された。

野村
靖



土原に生まれる。
(1842~1909年) 尊攘倒幕
運動に参加。内相、枢密
顧問官などを歴任した。

品川
弥二郎



松本に生まれる。
(1843~1900年) 尊攘倒幕
運動に参加。内相をつと
め、商業組合を設立した。

山田
顕義



中ノ倉に生まれる。
(1844~1892年) 戊辰戦争
西南戦争に功多く、伊藤
内閣の法相をつとめた。
日本法律学校(日本大学)
を創立した。

楫取
素彦



今魚店町に生まれる。
(1829~1912) 松陰の松下
村塾の後継者、明治維新
後、初代群馬県令(現在の
県知事)となり、養蚕・製糸
業を盛んにして殖産興業に
尽力した。

(16) くずれゆく封建制度 —長州藩の攘夷運動—

1860年（万延元）^{まんえん}3月、桜田門外の変で大老井伊直弼^{い い なおすけ}を失って、幕府は困難を切りぬけるため朝廷に接近し、公武合体策をとりましたが、開国後の経済・社会の混乱は著しく、攘夷の運動はますます高まりました。長州藩は、しばしば朝廷に対して外国との条約を破棄して攘夷実行の命令を出すようにと強く要求したので、ついに幕府は1863年（文久3）「外国船（外夷）が来襲すれば、これを攻撃（掃攘）してもよい」という但し書きをつけてそれを許可しました。ところが長州藩はその但し書き^{ただ が}を無視し、この年5月、折から関門海峡を通過しようとしていたアメリカ商船に対して、軍艦と下関砲台から攻撃したのを手始めに、外国船への攻撃を続けました。しかし、翌6月には外国軍艦に反撃されて長州藩は大切な軍艦2隻を沈められ、砲台も大被害を受けました。

このような状況の中で、外国軍艦による萩城下攻撃が心配され、その対策として急遽^{きゅうきょ}造られたのが、菊ヶ浜の土塁「女台場」^{どるい おなごだいば}です。また、これをきっかけに一方では、高杉晋作によって正規の藩兵以外の身分にとらわれない有志による軍隊「奇兵隊」が創設されることになりました。これをきっかけに、さらに多くの民兵が集まり、次々に諸隊が編成されていきました。この年の年末には1,000人を越え、さらに数年後には5,000人にまでふくれあがりました。幕末の争乱では、これらの諸隊が大活躍をし、明治維新への道を切り開いていきました。



菊ヶ浜土塁（女台場）築造図屏風（長谷氏蔵、萩博物館保管）

現在の菊ヶ浜土塁（市指定史跡）

武士の妻や奥女中までが派手な装いで応援した姿が、印象的に語り継がれたことによって「女台場」と言われるようになりました。



(17) 倒幕の動き —禁門の変・第一次長州戦争—

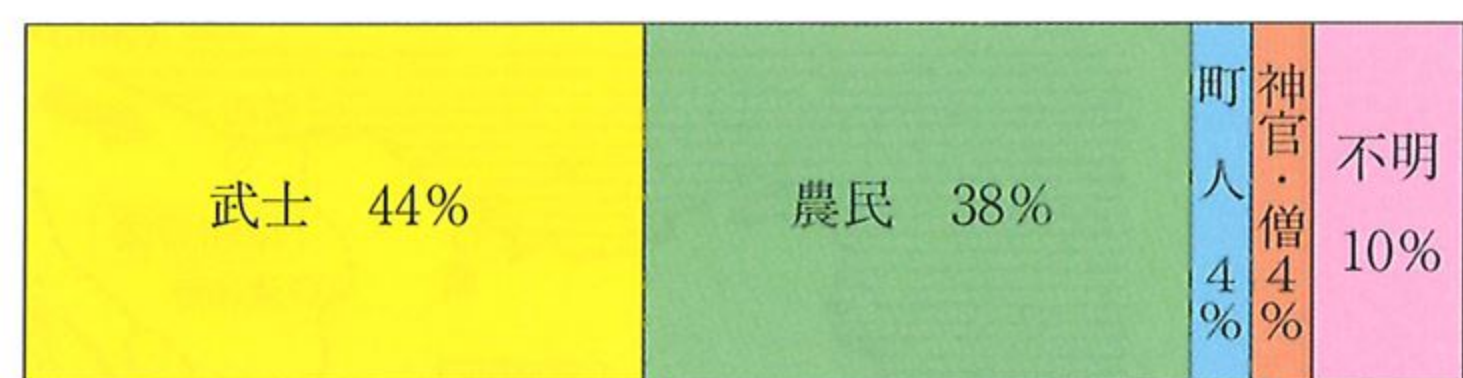
長州藩の攘夷決行に対し、幕府は公武合体の立場をとる薩摩藩と会津藩、及び朝廷内の公武合体派の公家らと謀り、1863年（文久3）8月18日早朝、突如長州藩の宮門警衛の任を解き、三条実美ら7人の公家を追放しました（8・18政変と七卿落ち）。そのため長州藩では京都で失った勢力を取り返すべく、翌年7月京都に出兵し、幕府・会津藩・薩摩藩などと衝突しましたが、長州軍はこれに敗れて朝敵にされ、幕府に長州征伐の口実を与えることになりました（禁門の変と第一次長州戦争）。さらに同年8月、四国連合艦隊が前年の攘夷に対する報復として下関の砲台を攻撃し、長州藩は内外ともに行き詰まってしまいました。

結局長州藩は、三人の家老に切腹を命じ、その首を幕府に献上することによって許しを願い出ました。その間、身の危険を感じて九州に逃れていた高杉晋作が12月に下関に帰り挙兵すると、各地の諸隊もこれに呼応して、長州藩の考えは尊王討幕に統一されました。

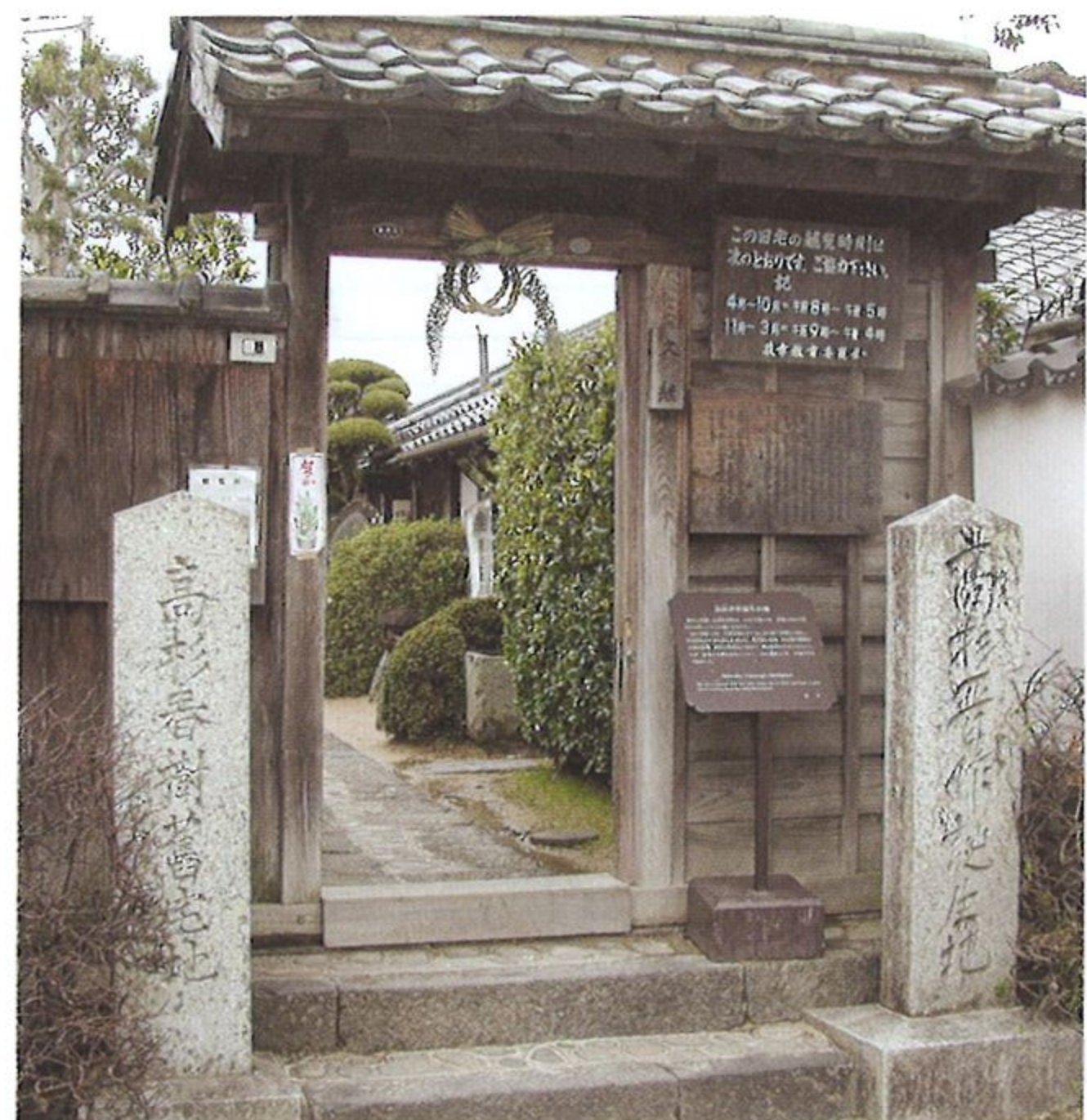


七卿都落図 さわ のぶよし 沢 宣嘉 筆（萩博物館蔵）

「奇兵隊」の構成



（田中彰著「未完の明治維新」より）



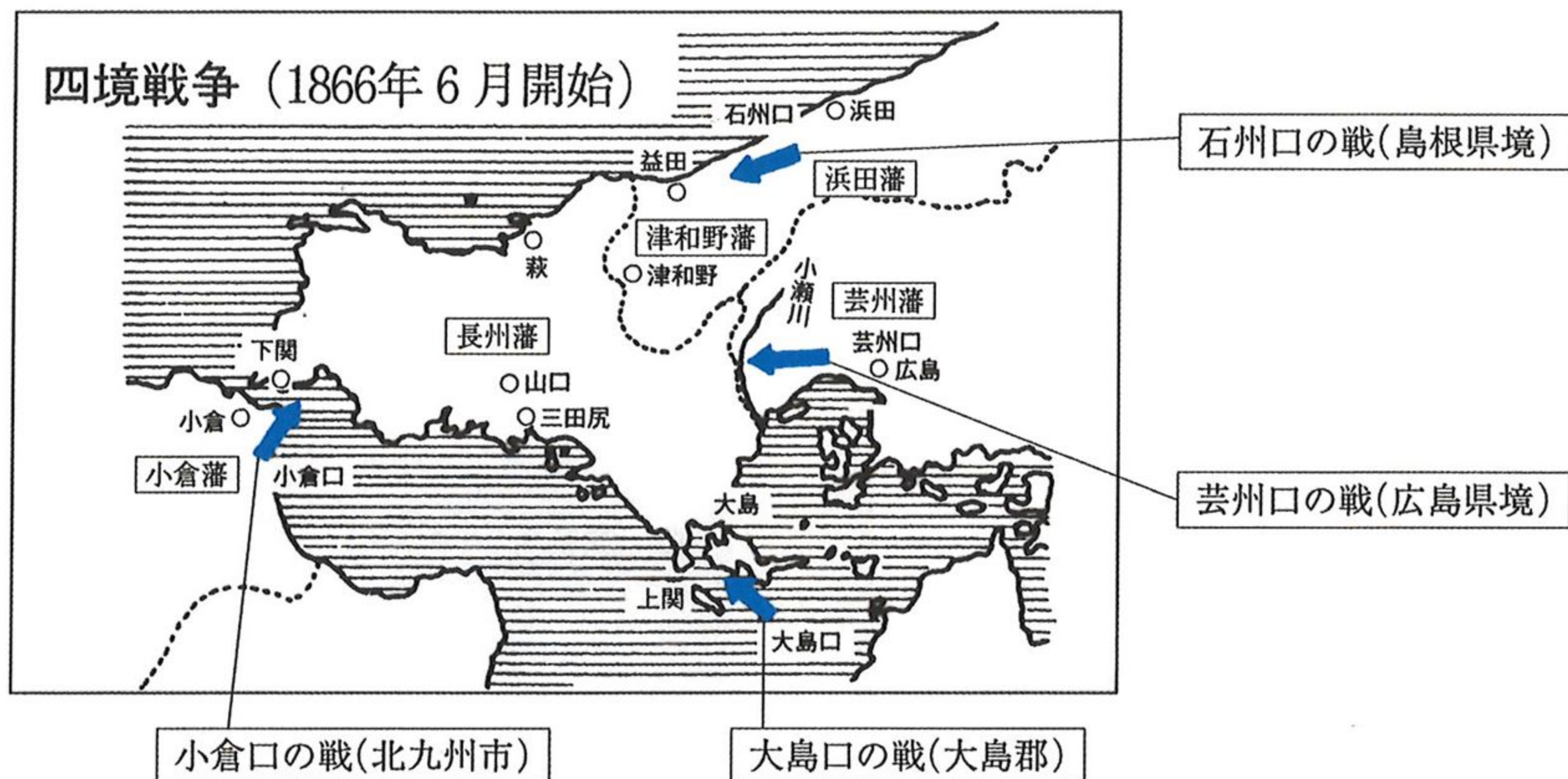
高杉晋作誕生地（南古萩町）

高杉晋作が結成した「奇兵隊」は、身分にとらわれない有志による軍隊でした。四境戦争（第二次長州戦争）の小倉口の戦では、臨機応変の手際よい行動力を存分に発揮し、わずか1,000人の兵で幕府軍20,000人の兵を撃退。これを機に、一気に「奇兵隊」の名が全国にとどろきました。

(18) 四境戦争 —第二次長州戦争—

長州藩内で高杉晋作らの討幕派が実権を握るようになったことを知った幕府は、1865年（慶応元）4月、再び長州征伐の令を発し、翌年6月7日、大島口を攻撃し、ついで芸州口、石州口、小倉口でも前後して長州藩と戦火を交えました。四つの国境に敵（幕府軍）を迎えたことから、この戦いを「^{しきょう}四境戦争」とよんでいます。

石州口の長州の主力は、南園隊・精鋭隊・清末隊・須佐隊・狙撃隊で構成され、総督は清末藩主毛利元純、指揮役に益田親祥があたりました。四境戦争の総指揮を執った村田蔵六（後の大村益次郎）も参加しています。6月16日、須佐隊の三小隊300人は田万川尻から船に乗り、石浦に上陸し、高津に陣を整え、幕府軍の食料庫をおそいました。翌17日、幕府軍は、益田の万福寺・勝達寺付近に陣を構え、精鋭隊・南園隊と激しい戦闘が繰り広げられました。須佐隊が、敵の側面を攻め、ついに万福寺・勝達寺を陥れ、重要拠点の医光寺が占領されると、幕府軍は総退却をしました。幕府は総力を挙げ、30数藩の兵を動員して戦いましたが、長州藩一藩に勝てず、長州藩の圧勝で終わりました。これによって幕府の無力が天下に暴露されることになったのです。



四境戦争の瓦版（萩博物館蔵）

(19) 武家政治の終わり — 薩長同盟と戊辰戦争 —

薩摩藩では、西郷隆盛らの努力で、藩の考えが公武合体から討幕へ統一されました。その様子を見ていた土佐藩の坂本龍馬らは、1866年（慶応2）1月20日、それまで反目しあっていた薩摩藩と長州藩に秘密同盟を結ばせて、討幕運動を大きく前進させました。これが薩長同盟です。

1867年（慶応3）10月14日、朝廷より薩摩藩、長州藩に対し、討幕の密勅が下されました。しかし、事前にその動きを察知していた将軍徳川慶喜は、幕府が自ら進んで朝廷に政権を奉還すれば薩長の討幕の大義名分をなくすことができると考え、大政奉還にふみきったのです。

こうして、260年続いた江戸幕府は倒れました。さらに討幕派は王政復古の号令を発し、徳川勢力を一掃するための戊辰戦争へと続いていくのです。

1868年（慶応4）1月の鳥羽・伏見の戦いから、翌年5月の函館五稜郭の戦いまでの1年4ヶ月におよぶ、薩長を中心とする官軍と旧幕府軍との間に行われた戦いを「戊辰戦争」とよんでいます。

*この年9月8日に「明治」に改元

[鳥羽・伏見の戦い]
(1868年1月)
徳川慶喜の率いる旧幕府軍と薩長諸藩軍の戦いで、敗れた慶喜は敗走した。



[函館五稜郭の戦い]
(1869年5月)
新政府軍は五稜郭に総攻撃をかけ、榎本武揚を始め千余人が降伏し、戦いは終わった。

[会津戦争]
(1868年9月)
新政府軍は抵抗する東北諸藩軍を攻め若松城を落とした。このとき活躍したのが会津の白虎隊である。

[上野戦争]
(1868年5月)
上野寛永寺にたてこもった旧幕府軍の一部を新政府軍が攻撃し、1日で鎮圧した。

日本文化社「日本歴史シリーズ」より



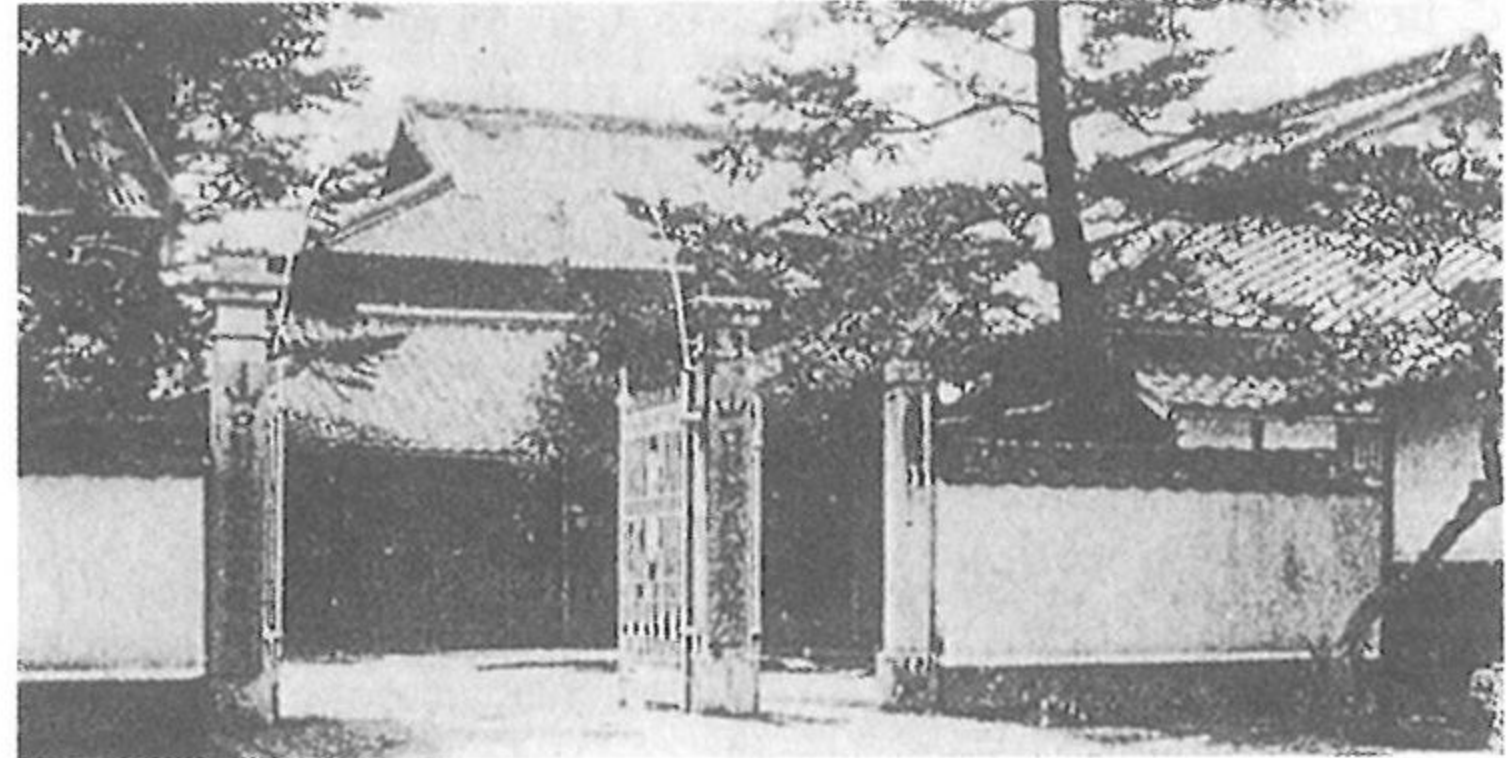
鳥羽・伏見の戦い錦絵（萩博物館蔵）

4 近現代の郷土

明治時代 (1868~1912年)

(1) 維新政府の出発 — 廃藩置県・地租改正 —

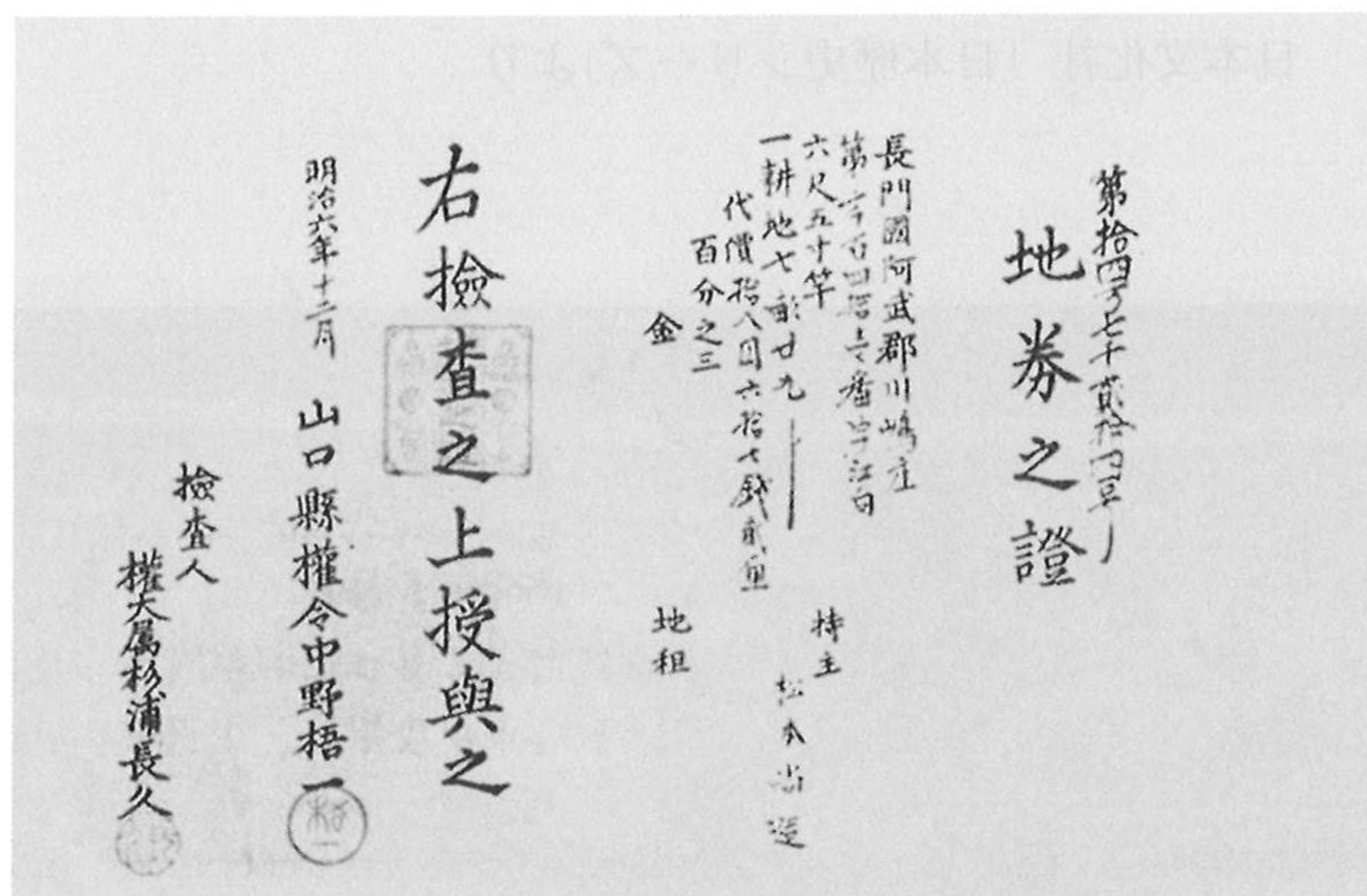
1871年(明治4)7月、廃藩置県により防長両国を併せて「山口県」、吉敷郡山口町に山口県庁が置かれました。萩、岩国、豊浦に支庁が置かれ、萩支庁は江向の勘場^{かんば}で事務をとっていました。後、萩の乱で焼失したため、再建されたのが右の建物で、阿武郡役所とよばれていました。



当時の萩支庁所管地域 (1871年「山口県区画分界」より)

堀内、古萩、南片河町・北片河町、呉服町一丁目、呉服町二丁目、瓦町、米屋町、東田町、西田町、恵比須町、古魚店町、春若町、細工町、塩屋町、津守町、樽屋町、今魚店町、油屋町、平安古町一丁目、平安古町二丁目、平安古、河添、江向、八丁筋、橋本町、御許町、唐樋町、上五間町、下五間町、吉田町、古萩町、熊谷町、浜崎町、浜崎新町、浜崎浦、大島、櫃島、羽島、尾島、相島、川島、下土原、椿西分、沖原、椿町、椿東分、中津江、小畑浦、越ヶ浜浦、鶴江浦、福井上村、福井下村、紫福村、黒川村、大井村、大井浦、奈古村、奈古浦、木与村、宇田村、惣郷村、須佐村、須佐浦、江崎村、上田万村、下田万村、吉部上村、吉部下村、高佐村、上高佐村、片俣村、嘉年上村、嘉年下村、鈴野川村、上小川村西分、上小川村東分、中小川村、下小川村、弥富上村、弥富下村、福田上村、福田下村、宇生賀村、徳佐上村、徳佐中村、徳佐下村、上地福村、地福村、篠目村、生雲村東分、生雲村西分、生雲中村、蔵目喜村、川上村、明木村、佐々並村、山田村、玉江浦、三見村、三見浦、見島(本村、宇津村、浦方)

新政府は財源を確保するために、地租改正を断行しました。江戸時代、重い年貢にあえいでいた農民たちは、地租改正に期待しましたが、地価の3パーセントという重い地租に再び苦しめられることになりました。



ちけん
「地券」明治政府が発行した土地所有の権利書 (萩博物館蔵)

*当時の1円は現在の1万円に相当

(2) 士族の没落と授産事業



萩の乱錦絵（萩博物館蔵）

1871年（明治4）の廃藩置県に続いて、1876年8月の太政官布告により禄制の全面的廃止（秩禄処分）が行われました。

これまでの家禄を失い生計の道を断たれた士族（旧武士階級）には金禄公債証書（政府の出した証書、年々利子が支払われる）が渡されました。しかし、その利子だけではどうてい生活ができず、下級役人や教師・農業・商業を営む者もありましたが、多くは落ちぶれていきました。その他、帯刀などの特権もとりあげられました。

このようにして士族の不满が高まり、各地で反乱が起きました。萩でも1876年（明治9）10月、明治新政府で参議・兵部大輔をつとめた前原一誠ひょうぶだゆう まえばらいっせいらによる萩の乱が起きました。翌年2月、西郷隆盛の主導でおきた西南戦争は、最大で最後の士族反乱でした。

1873年（明治6）の徴兵令によって士族はその身分も職も失い、さらに1876年（明治9）の秩禄処分により家禄を失いました。生計の道を絶たれた士族の援護救済は、大きな社会問題となりました。特に萩では全人口の40%以上が士族で占められており、その救済は困難を極め、一部の士族は萩の乱などの士族反乱に参加するなどしました。

そのため山口県では授産局じゅさんじぎょう（のちの就産所）を設け、士族に職を与える授産事業をすすめました。授産事業には養蚕・製糸・夏みかん・木綿織物・運輸・養鶏など多くの種類があり、その他士族の移住、開墾、職業補導なども行いましたが、多くは失敗しました。現在、萩市の特産である夏みかんの栽培は、この当時の授産事業の一環として始められたものであり、これを積極的に推進したのが小幡高政でした。



おばたかまさ
小幡高政肖像（萩博物館蔵）

(3) 政界への進出

幕末から維新の激動期に、郷土萩から多数の人材や政治家が輩出したことは有名です。中でも、わが国の初代総理大臣である伊藤博文をはじめ、4人もの総理大臣が小さな地方都市・萩から誕生したことは他に類を見ません。ここでは明治時代に活躍した萩にゆかりのある主な政治家を紹介します。

明治年間における内閣閣僚の出身地別一覧表

内閣閣僚			内閣総理大臣	陸軍大臣	海軍大臣
出身地	人数	割合	延人数	人数	人数
薩摩	50	22.9	3	7	13
長州	46	21.1	8	8	0
土佐	15	9.9	0	0	0
備前	13	6.0	1	0	0
幕府	10	4.6	0	0	0
その他	84	38.5	2	2	3
計	218	100%	14	17	16

きど たかよし
木戸孝允 (1833~1877)

萩市呉服町出身



1868年、総裁局顧問となって明治政府に参画。版籍奉還、廃藩置県を主張し、維新の土台づくりに貢献した。世に言う「明治維新の三傑」と称される人物である。

いのうえ かおる
井上馨 (1835~1915)

山口市湯田出身



維新後は参与として新政府に出仕した。1885年、外務大臣となり、以来農商務大臣、内務大臣、臨時総理、大蔵大臣を歴任した。引退後は実業界に力を尽した。

やまがた ありとも
山県有朋 (1838~1922)

萩市川島出身



1889年、総理大臣に就任。以後、司法大臣、枢密院議長、参謀総長などを歴任。1898年には再び総理大臣に就任した。伊藤博文亡き後、最大の発言力をもつ元老として、軍や政界に君臨した。

いとう ひろぶみ
伊藤博文 (1841~1909)

熊毛郡大和町出身
(現、光市)



1871年、岩倉大使の副使として欧米を巡歴。1882年立憲制度調査のため渡欧し、帰国後は憲法制定、内閣制度の創設、枢密院設置の任にあたった。1885年、初代総理大臣に任じられ、その後4次にわたり内閣を組閣した。

かつら たろう
桂 太郎 (1847~1913)

萩市平安古出身



明治初年にヨーロッパへ留学し、陸軍の軍制をドイツ式に改めた。1898年に陸軍大臣に就任。1901年には総理大臣となり日英同盟の締結に尽した。その後、1908年、1912年と三次にわたって組閣した。

たなか ぎいち
田中義一 (1864~1929)

萩市呉服町出身



ロシア留学帰国後、軍政の中枢部を歴任。1925年政友会総裁に就任、1927年に総理大臣となる。外務大臣、拓務大臣を兼任し、普通選挙による最初の選挙を実施した。

(5) 日本の近代化に尽くした人たち



遠藤謹助 井上 勝 伊藤博文
井上 馨 山尾庸三

長州ファイブ

長州藩は下関攘夷戦に直面しながらも、海外の事情を研究するため、1863年(文久3)5月密かに、井上聞多(馨)、伊藤俊輔(博文)、野村弥吉(井上 勝)、遠藤謹助、山尾庸三の5人を英国に留学させました。一行は大変な苦勞を重ねて、4ヶ月かかってロンドンに到着しました。

この留学は、極東における英国のジャーディン・マジソン商會が引き受け、ロンドンでの世話は社長自らがあたりました。大学(UCL:ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン)で、化学・物理・英語などの授業を受講したり、さまざまな施設も見学しました。イングランド銀行保管の見学者名簿に、この5人の署名が記されていることが明らかになりました。5人は、イギリスで「CHOSHU FIVE」(長州ファイブ)と呼ばれるようになりました。

社長ヒュー・マジソンの回想録によると、5人のうちでは野村だけが少し英語を話すことができたとあり、苦学の様子がうかがえます。

ところが、下関海峡での外国船砲撃に対して、四国連合艦隊が下関を攻撃する計画を知ると、伊藤と井上は急遽帰国して、講和交渉に奔走することとなりました。

他の3人は、英国にとどまって勉学を続けましたが、遠藤は1866年(慶応2)、野村と山尾は1868年(明治元)に帰国して、それぞれ新日本の建設のために力を尽くしました。

そして後年、井上 馨「初代外務大臣」、遠藤謹助「造幣局長」、山尾庸三「工部卿(工業の父)」、伊藤博文「初代内閣総理大臣」、井上 勝「鉄道庁長官(鉄道の父)」と、それぞれの分野で活躍しました。

藤田 伝三郎 (1841~1912)



酒造業を営む藤田半右衛門の四男として、南片河町に生まれました。若くして醤油醸造業を営みましたが、多くの志士に交わり家業をなげうって尊王攘夷運動に奔走しました。維新後は大阪で軍靴製造を始め、1876年(明治9)、2人の兄、藤田鹿太郎・久原庄三郎と共に藤田伝三郎商社を設立し、後、藤田組と改称して鋳業を中心に発展させました。

1885年(明治18)には、大阪商法會議所会頭となり関西財界の指導者として活躍しました。

渡辺 蒿蔵 (1843~1939)



別名、天野清三郎。大組士渡辺小五郎の弟として川島に生まれました。幼くして天野家の養子となり、15歳の時に松下村塾に入門し、松陰から大きな期待を寄せられました。久坂玄瑞らと行動を共にし、奇兵隊にも加わっています。維新後に渡辺家に戻り、蒿蔵と改めました。1867年(慶応3)に、河北義次郎らと共に米国、英国に渡り、造船学を修め、明治初年に帰国してからは、長崎造船局長として活躍しました。

退職後は帰郷して、村塾保存事業に地元有志代表として尽力しました。

高島 北海 (1850~1931)



藩医、高島良台の次男として、江向八丁に生まれました。明倫館に学び、維新後、生野鋳山学校で、F. コアニエにフランス語・植物学・地質学などを学びました。その後、農商務省に入り、1884年(明治17)にヨーロッパへ派遣され、フランスのナンシー高等森林学校に留学、1887年まで留まり、その間、アール・ヌーヴォー・ナンシー派のエミール・ガレらに請われて日本画を描き、和風の繊細な美術様式を紹介しました。53歳で画業への専念を決意し、日本画壇において指導的役割を果たしました。

その他、日本大学と国学院大学を創立した山田顕義、拓殖大学を創立した桂太郎、東宮御所(現在の東京赤坂の迎賓館)を設計した片山東熊、日立グループの基礎をつくった久原房之助など、萩出身の人たちが各方面で活躍し、明治維新後、日本の近代化に大きく貢献しました。

5 萩市の文化財

(1) 萩市の文化財

萩市は数多くの歴史的資源に恵まれ、優れた環境を形成した、わが国有数の歴史都市です。そして、毛利氏36万石の城下町の形態や当時の古い建造物、明治維新前後の史跡など、数多くの文化財が保存されています。これら先人の残した貴重な文化遺産について、その保存継承に努めることは、私たち萩市民の使命ともいえます。萩市には現在、どこにどのような文化財があるのか見てみましょう。

所在地別文化財件数一覧		地域区分								計		
		萩	川上	田万川	むつみ	須佐	旭	福栄	市外			
国	重要文化財	建造物	7						1		8	
		絵画	1								1	
		彫刻	3								3	
		工芸品	2								2	
		書跡	1								1	
		典籍									0	
		古文書									0	
		考古資料									0	
		歴史資料								1	1	
	重要無形文化財	芸能									0	
		工芸									0	
	重要民俗文化財	有形					1				1	
		無形									0	
	記念物	史跡 ※1	12.5					0.5	1		14	
		名勝		1							1	
		名勝及び天然記念物					1				1	
		天然記念物	5	1			1				7	
	記録作成等の措置を講ずべき無形の文化財として選択されたもの ※2		1								1	
	重要伝統的建造物群保存地区		3					1			4	
登録有形文化財 ※3		3.5			2		2.5			8		
計		39	2	0	2	3	4	2	1	53		
県	有形文化財	建造物	5		1						6	
		絵画							1	1	1	
		彫刻	3	1					1		5	
		工芸品									0	
		書跡	3								3	
		典籍									0	
		古文書									0	
		考古資料	2								2	
		歴史資料	1								1	
	無形文化財	芸能									0	
		工芸	1								1	
	民俗文化財	有形									0	
		無形	1		1		1				3	
	記念物	史跡	1			2	1				4	
		名勝									0	
		天然記念物	3		1	2					6	
	計		20	1	3	4	2	0	1	1	32	
	市	有形文化財	建造物	18	1			5	1	1		26
			絵画	1	3	1		8				13
彫刻			4	2	1		1	1	8		17	
工芸品			5	1	3	1	3				13	
書跡			1	1	1						3	
典籍											0	
古文書			1								1	
考古資料			1		1						2	
歴史資料							1				1	
無形文化財		芸能									0	
		工芸	1								1	
民俗文化財		有形					3				3	
		無形	4	3	1	2					10	
記念物		史跡	16		2	1	1				20	
		名勝					1				1	
		天然記念物	8	2	4		1	1	1		17	
歴史的景観保存地区		7								7		
計		67	13	14	4	24	3	10	0	135		
合計		126	16	17	10	29	7	13	2	220		

※1 史跡 萩往還、 ※2 鹿背隧道は萩、旭地域に跨るため各地域でそれぞれ0.5ずつカウントした。

※2 萩焼 三輪邦廣(休和) 昭和32年3月30日選択

H30.4.1

(2) 萩市の指定文化財一覧

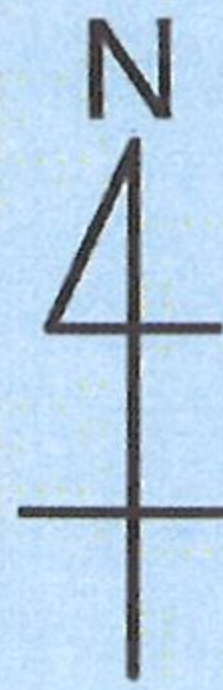
指定区分		種別	名称	地域名
国指定	重要文化財	建造物	常念寺表門 附 棟札一枚	萩
国指定	重要文化財	建造物	旧厚狭毛利家萩屋敷長屋 附 棟札一枚	萩
国指定	重要文化財	建造物	東光寺	萩
国指定	重要文化財	建造物	森田家住宅 附 貫木門一棟 塀重門一棟 塀重門左右板塀二棟 文書一通	福栄
国指定	重要文化財	建造物	菊屋家住宅 附 土塀二棟 古図一枚	萩
国指定	重要文化財	建造物	口羽家住宅	萩
国指定	重要文化財	建造物	熊谷家住宅	萩
国指定	重要文化財	建造物	大照院	萩
国指定	重要文化財	絵画	絹本著色春冬山水図 戴文進筆〔菊屋家住宅保存会〕	萩
国指定	重要文化財	彫刻	木造赤童子立像〔大照院〕	萩
国指定	重要文化財	彫刻	木造聖観音立像〔南明寺〕	萩
国指定	重要文化財	彫刻	木造千手観音立像〔南明寺〕	萩
国指定	重要文化財	工芸品	太刀 銘延吉 附 絲巻太刀拵〔志都岐山神社〕	萩
国指定	重要文化財	工芸品	太刀 銘光房 弘安三年十月日 附 革包太刀拵〔志都岐山神社〕	萩
国指定	重要文化財	書跡	雪峯東山空和尚外集 (石屏子介手沢本)〔龍蔵寺〕	萩
国指定	重要文化財	歴史資料	日明貿易船旗 高洲家文書	萩
国選択	記録作成等の措置を講ずべき無形の文化財として選択されたもの		萩焼 (種別1:工芸技術、種別2:陶芸)	萩
国指定	有形民俗文化財	有形民俗文化財	須佐宝泉寺・黄帝社奉納船絵馬	須佐
国指定	記念物	史跡	松下村塾	萩
国指定	記念物	史跡	吉田松陰幽囚ノ旧宅	萩
国指定	記念物	史跡	萩反射炉	萩
国指定	記念物	史跡	旧萩藩校明倫館	萩
国指定	記念物	史跡	伊藤博文旧宅	萩
国指定	記念物	史跡	木戸孝允旧宅	萩
国指定	記念物	史跡	旧萩藩御船倉	萩
国指定	記念物	史跡	萩城跡	萩
国指定	記念物	史跡	萩城城下町	萩
国指定	記念物	史跡	萩藩主毛利家墓所	萩
国指定	記念物	史跡	見島ジーコンボ古墳群	萩
国指定	記念物	史跡	萩往還	萩・旭
国指定	記念物	名勝	長門峡	川上
国指定	記念物	史跡	大板山たたら製鉄遺跡	福栄
国指定	記念物	史跡	恵美須ヶ鼻造船所跡	萩
国指定	記念物	名勝及び天然記念物	須佐湾	須佐
国指定	記念物	天然記念物	明神池	萩
国指定	記念物	天然記念物	笠山コウライタチバナ自生地	萩
国指定	記念物	天然記念物	見島ウシ産地	萩
国指定	記念物	天然記念物	見島のカメ生息地	萩
国指定	記念物	天然記念物	須佐高山の磁石石	須佐
国指定	記念物	天然記念物	川上のユズおよびナンテン自生地	川上
国指定	記念物	天然記念物	指月山	萩
国選定	重要伝統的建造物群保存地区		萩市平安古地区	萩
国選定	重要伝統的建造物群保存地区		萩市堀内地区	萩
国選定	重要伝統的建造物群保存地区		萩市浜崎	萩
国選定	重要伝統的建造物群保存地区		萩市佐々並市	旭
国登録	登録有形文化財	国土の歴史的景観に寄与しているもの	萩駅舎	萩
国登録	登録有形文化財	造形の規範となっているもの	明倫小学校本館	萩
国登録	登録有形文化財	国土の歴史的景観に寄与しているもの	むつみ村役場旧庁舎	むつみ
国登録	登録有形文化財	国土の歴史的景観に寄与しているもの	むつみ村役場土蔵	むつみ
国登録	登録有形文化財	国土の歴史的景観に寄与しているもの	三見橋	萩
国登録	登録有形文化財	再現することが容易でないもの	鹿背隧道	萩・旭

指定区分		種別	名称	地域名
国登録	登録有形文化財	再現することが容易でないもの	落合の石橋	旭
国登録	登録有形文化財	国土の歴史的景観に寄与しているもの	下横瀬公民館（旧明木村立図書館）	旭
県指定	有形文化財	建造物	萩学校教員室	萩
県指定	有形文化財	建造物	長寿寺十三重塔	萩
県指定	有形文化財	建造物	旧福原家萩屋敷門	萩
県指定	有形文化財	建造物	旧梨羽家書院	萩
県指定	有形文化財	建造物	花月楼	萩
県指定	有形文化財	建造物	西堂寺六角堂	田万川
県指定	有形文化財	絵画	絹本着色釈迦三尊像〔東光寺〕	市外
県指定	有形文化財	彫刻	木造釈迦如来坐像〔大照院〕	萩
県指定	有形文化財	彫刻	木造毘沙門天立像〔玉泉寺〕	川上
県指定	有形文化財	彫刻	木造不動明王立像〔長寿寺〕	萩
県指定	有形文化財	彫刻	木造文殊菩薩騎獅像〔佛光寺〕	福栄
県指定	有形文化財	彫刻	木造義翁和尚倚像〔大照院〕	萩
県指定	有形文化財	書跡	三祖師号〔東光寺〕	萩
県指定	有形文化財	書跡	木額・柱聯・榜牌・同下書〔東光寺〕	萩
県指定	有形文化財	書跡	石屏子介禅師墨蹟〔龍蔵寺〕	萩
県指定	有形文化財	考古資料	見島ジーコンボ古墳群出土品	萩
県指定	有形文化財	考古資料	円光寺古墳出土品	萩
県指定	有形文化財	歴史資料	吉田松陰関係資料(松陰神社伝来)	萩
県認定	無形文化財	工芸技術	萩焼保持者(野坂康起)	萩
県認定	無形文化財	工芸技術	萩焼保持者(波多野善蔵)	萩
県認定	無形文化財	工芸技術	萩焼保持者(岡田裕)	萩
県指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	住吉神社「お船謡」	萩
県指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	上三原の田植ばやし	須佐
県指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	友信神楽舞	田万川
県指定	史跡	史跡	萩焼古窯跡群	萩
県指定	史跡	史跡	須佐唐津古窯跡群	須佐
県指定	史跡	史跡	穴観音古墳	むつみ
県指定	史跡	史跡	奥阿武宰判勘場跡	むつみ
県指定	天然記念物	天然記念物	河内の大ムク	萩
県指定	天然記念物	天然記念物	吉部八幡宮のスギ	むつみ
県指定	天然記念物	天然記念物	三見吉広のバクチノキ	萩
県指定	天然記念物	天然記念物	志都岐山神社のミドリヨシノ	萩
県指定	天然記念物	天然記念物	田万川の柱状節理と水中自破碎溶岩	田万川
県指定	天然記念物	天然記念物	辻山のシダレザクラ	むつみ
市指定	有形文化財	建造物	旧周布家長屋門	萩
市指定	有形文化財	建造物	平安橋	萩
市指定	有形文化財	建造物	問田益田氏旧宅土塀	萩
市指定	有形文化財	建造物	旧福原家書院	萩
市指定	有形文化財	建造物	小川家長屋門	萩
市指定	有形文化財	建造物	龍蔵寺観音堂	萩
市指定	有形文化財	建造物	花江茶亭	萩
市指定	有形文化財	建造物	明倫館遺構 観徳門	萩
市指定	有形文化財	建造物	明倫館遺構 聖廟	萩
市指定	有形文化財	建造物	明倫館遺構 南門	萩
市指定	有形文化財	建造物	明倫館遺構 万歳橋	萩
市指定	有形文化財	建造物	端坊鐘楼	萩
市指定	有形文化財	建造物	円政寺内金毘羅社社殿 附 石鳥居・山門・石灯籠	萩
市指定	有形文化財	建造物	松崎八幡宮石燈籠	須佐
市指定	有形文化財	建造物	笠松神社石燈籠	須佐
市指定	有形文化財	建造物	笠松神社鳥居	須佐
市指定	有形文化財	建造物	亨徳寺三門	萩
市指定	有形文化財	建造物	奥平家長屋門	萩
市指定	有形文化財	建造物	大下阿弥陀堂内厨子	旭
市指定	有形文化財	建造物	南明寺観音堂	萩
市指定	有形文化財	建造物	玉泉寺毘沙門堂内厨子	川上

指定区分		種別	名称	地域名
市指定	有形文化財	建造物	益田館	須佐
市指定	有形文化財	建造物	明倫館遺構 聖賢堂	萩
市指定	有形文化財	建造物	育英館門 附 「育英館」扁額一枚	須佐
市指定	有形文化財	建造物	佛光寺楼門	福栄
市指定	有形文化財	建造物	旧久保田家住宅	萩
市指定	有形文化財	絵画	紙本墨画出山釈迦図〔大湊寺〕	須佐
市指定	有形文化財	絵画	長州安武郡江津浦畧圖〔個人〕	田万川
市指定	有形文化財	絵画	絹本着色釈迦涅槃図〔大湊寺〕	須佐
市指定	有形文化財	絵画	紙本墨画着色人物鶴龍図	須佐
市指定	有形文化財	絵画	紙本着色足利義昭像〔個人〕	須佐
市指定	有形文化財	絵画	絹本着色吉川元春像〔個人〕	須佐
市指定	有形文化財	絵画	紙本着色束帯天神像(崇竺筆)〔個人〕	須佐
市指定	有形文化財	絵画	絹本着色束帯天神像〔個人〕	須佐
市指定	有形文化財	絵画	紙本墨画十六羅漢像〔大湊寺〕	須佐
市指定	有形文化財	絵画	西国三十三観音霊場絵馬(四番札所、五番札所)〔実相寺〕	川上
市指定	有形文化財	絵画	実相寺天井絵	川上
市指定	有形文化財	絵画	発昌寺襖絵(高島北海筆) 附 高島北海書状一通	川上
市指定	有形文化財	絵画	西国三十三観音霊場絵馬(十番札所)〔個人〕	川上
市指定	有形文化財	彫刻	木造薬師如来坐像〔広厳寺〕	萩
市指定	有形文化財	彫刻	木造隨身倚像〔松崎八幡宮〕	須佐
市指定	有形文化財	彫刻	木造二天立像	旭
市指定	有形文化財	彫刻	木造毘沙門天立像脇立吉祥天女像〔玉泉寺〕	川上
市指定	有形文化財	彫刻	木造毘沙門天立像脇立善日童子像〔玉泉寺〕	川上
市指定	有形文化財	彫刻	木造釋迦如来坐像	田万川
市指定	有形文化財	彫刻	立木薬師如来像〔願行寺〕	福栄
市指定	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来立像〔願行寺〕	福栄
市指定	有形文化財	彫刻	木造延命地藏菩薩立像〔宝宗寺〕	福栄
市指定	有形文化財	彫刻	木造弘法大師立像〔信盛寺〕	福栄
市指定	有形文化財	彫刻	木造金剛力士像〔佛光寺〕	福栄
市指定	有形文化財	彫刻	木造釈迦如来立像〔信盛寺〕	福栄
市指定	有形文化財	彫刻	木造不動明王立像〔宝宗寺〕	福栄
市指定	有形文化財	彫刻	木造如意輪観世音菩薩坐像〔願行寺〕	福栄
市指定	有形文化財	彫刻	木造扁額「實相山」〔信盛寺〕	福栄
市指定	有形文化財	彫刻	木造聖観世音菩薩立像	福栄
市指定	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来立像〔信盛寺〕	福栄
市指定	有形文化財	工芸品	大湊寺梵鐘	須佐
市指定	有形文化財	工芸品	讃岐坊梵鐘	萩
市指定	有形文化財	工芸品	見島八幡宮鰐口	萩
市指定	有形文化財	工芸品	太刀 銘長州住人藤原口重・寛永二十一甲申八月口日〔松崎八幡宮〕	須佐
市指定	有形文化財	工芸品	端坊梵鐘	萩
市指定	有形文化財	工芸品	不動明王立像〔南明寺〕	萩
市指定	有形文化財	工芸品	須佐唐津焼青磁釉銅器写花瓶	須佐
市指定	有形文化財	工芸品	梅岳寺銅鐘	川上
市指定	有形文化財	工芸品	武氏八幡宮懸仏	田万川
市指定	有形文化財	工芸品	武氏八幡宮神輿	田万川
市指定	有形文化財	工芸品	片俣八幡宮懸仏	むつみ
市指定	有形文化財	工芸品	中嶋善磨作 竹籠〔個人〕	田万川
市指定	有形文化財	工芸品	宇津観音寺鰐口	萩
市指定	有形文化財	書跡	紙本墨書年徳の書	萩
市指定	有形文化財	書跡	古川久輝 書〔個人〕	田万川
市指定	有形文化財	書跡	山本又兵衛法号記〔梅岳寺〕	川上
市指定	有形文化財	古文書	大井八幡宮文書	萩
市指定	有形文化財	考古資料	元寇の礎石〔個人〕	萩
市指定	有形文化財	考古資料	塚穴古墳出土品	田万川
市指定	有形文化財	歴史資料	益田家歴代領主肖像画群 附 紙本墨書益田就恒賛一幅〔個人〕	須佐
市認定	無形文化財	無形文化財	須佐唐津焼保持者(土谷一史)	須佐

指定区分		種別	名称	地域名
市指定	有形民俗文化財	有形民俗文化財	松原祇園車	須佐
市指定	有形民俗文化財	有形民俗文化財	本町中祇園車	須佐
市指定	有形民俗文化財	有形民俗文化財	海上信仰資料黄帝社社殿	須佐
市指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	木間「神代の舞」	萩
市指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	玉江浦「天狗拍子」	萩
市指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	越ヶ浜「巫女の舞」	萩
市指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	越ヶ浜「大綱声」	萩
市指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	笹尾義民おどり	川上
市指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	遠谷神楽舞	川上
市指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	中ノ原的まつり	川上
市指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	大江後神楽舞	田万川
市指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	下領神楽舞（神笑座）	むつみ
市指定	無形民俗文化財	無形民俗文化財	野田の柱松	むつみ
市指定	記念物	史跡	萩城下街割原標石	萩
市指定	記念物	史跡	村田清風別宅跡	萩
市指定	記念物	史跡	玉本文之進旧宅	萩
市指定	記念物	史跡	円光寺穴観音古墳	萩
市指定	記念物	史跡	八橋検校の碑	萩
市指定	記念物	史跡	小倉四賢墓所	萩
市指定	記念物	史跡	吉田松陰の墓ならびに墓所	萩
市指定	記念物	史跡	菊ヶ浜土塁（女台場）	萩
市指定	記念物	史跡	野山獄・岩倉獄跡	萩
市指定	記念物	史跡	吉見正頼息女の墓	むつみ
市指定	記念物	史跡	益田家墓所	須佐
市指定	記念物	史跡	須佐地古墳	田万川
市指定	記念物	史跡	塚穴古墳	田万川
市指定	記念物	史跡	旧湯川家屋敷	萩
市指定	記念物	史跡	長添山古墳	萩
市指定	記念物	史跡	桂太郎旧宅	萩
市指定	記念物	史跡	伊藤博文旧宅地 附 伊藤博文別邸	萩
市指定	記念物	史跡	吉田松陰誕生地	萩
市指定	記念物	史跡	宇津観音寺観音堂	萩
市指定	記念物	史跡	旧明倫小学校	萩
市指定	記念物	名勝及び天然記念物	弥富猿屋の柱状節理（猿屋の滝）	須佐
市指定	記念物	天然記念物	指月山のミカドアゲハ	萩
市指定	記念物	天然記念物	大照院の大フジ	萩
市指定	記念物	天然記念物	椿瀬のツバキ	川上
市指定	記念物	天然記念物	野登呂のシラカシ	川上
市指定	記念物	天然記念物	須佐のシダレアカマツ	須佐
市指定	記念物	天然記念物	尊正寺のエドヒガン	田万川
市指定	記念物	天然記念物	武氏八幡宮社叢	田万川
市指定	記念物	天然記念物	三明のイトザクラ	田万川
市指定	記念物	天然記念物	妙権寺のイブキ	田万川
市指定	記念物	天然記念物	笠山虎ヶ崎タチバナ自生北限地およびコウライタチバナ自生地	萩
市指定	記念物	天然記念物	笠山ハマボウ自生北限地	萩
市指定	記念物	天然記念物	紫福の一本スギ	福栄
市指定	記念物	天然記念物	笠山のホソイノデ・カサヤマイノデ・カタホソイノデ混生地	萩
市指定	記念物	天然記念物	櫃島八幡宮のリウキュウエノキ	萩
市指定	記念物	天然記念物	見島日崎のタダムシオイガイ・ミシマヒメベッコウおよびその棲息地	萩
市指定	記念物	天然記念物	笠山虎ヶ崎ヤブツバキ群生林	萩
市指定	記念物	天然記念物	佐々並のウラジロガシ	旭
市選定	歴史的景観保存地区		藍場川および藍場川周辺	萩
市選定	歴史的景観保存地区		今魚店地区	萩
市選定	歴史的景観保存地区		大照院付近	萩
市選定	歴史的景観保存地区		東光寺および吉田松陰誕生地付近	萩
市選定	歴史的景観保存地区		堀内地区	萩
市選定	歴史的景観保存地区		南明寺境内および参道	萩
市選定	歴史的景観保存地区		藍玉座跡土堀	萩

(3)文化財マップ1



《世界遺産》

- ★ 萩城下町
- ★ 萩反射炉
- ★ 恵美須ヶ鼻造船所跡
- ★ 大板山たたら製鉄遺跡
- ★ 松下村塾

★ 世界遺産
 ● 国指定文化財
 ● 県指定文化財
 ○ 市指定文化財

(●○内はページ番号。
 1ページに2点記載がある場合、
 左を枝番1、右を枝番2とした。)

— 萩往還

田万川地域

- 【国指定有形文化財】
- ⑥(建造物) 西堂寺六角堂
- 【県指定無形民俗文化財】
- ⑤友信神楽舞
- 【県指定天然記念物】
- ⑤田万川の柱状節理と水中自破砕溶岩

- 【市指定有形文化財】
- ⑫(絵画) 長州安武郡江津浦畷圖
- ⑬(彫刻) 木造 釋迦如来坐像
- ⑭(工芸品) 武氏八幡宮懸仏
- ⑮(工芸品) 武氏八幡宮神輿
- ⑯(工芸品) 中嶋善庵作 竹籠
- ⑰(書跡) 古川久輝 書
- ⑱(考古資料) 塚穴古墳出土品

- 【市指定無形民俗文化財】
- ⑰-2 大江後神楽舞
- 【市指定史跡】
- ⑱須佐地古墳
- ⑲塚穴古墳

- 【市指定天然記念物】
- ⑳-2 尊正寺のエドヒガン
- ㉑武氏八幡宮社叢
- ㉒-1 三明のイトザクラ
- ㉒-2 妙権寺のイブキ

須佐地域

- 【国指定有形民俗文化財】
- ⑳須佐宝泉寺・黄帝社奉納船絵馬
- 【国指定名勝及び天然記念物】
- ④須佐湾

- 【国指定天然記念物】
- ④須佐高山の磁石石

- 【県指定無形民俗文化財】
- ③上三原の田植ばやし

- 【県指定史跡】
- ⑦須佐唐津古窯跡群

- 【市指定有形文化財】
- ⑪(建造物) 松崎八幡宮石燈籠
- ⑬-1 (建造物) 笠松神社石燈籠
- ⑬-2 (建造物) 笠松神社鳥居
- ⑰(建造物) 益田館
- ⑱(建造物) 育英館門 附「育英館」扁額
- ⑳(絵画) 紙本墨画山出山釈迦図
- ㉑(絵画) 絹本着色釈迦涅槃図
- ㉒(絵画) 紙本墨画着色人物鶴龍図
- ㉒-1 (絵画) 紙本着色足利義昭像
- ㉒-2 (絵画) 絹本着色吉川元春像
- ㉓-1 (絵画) 紙本着色東帯天神像(崇竺筆)
- ㉓-2 (絵画) 絹本着色東帯天神像
- ⑳(絵画) 紙本墨画十六羅漢像
- ㉑(彫刻) 木造 隨身倚像
- ㉒(工芸品) 大蘊寺梵鐘
- ⑮(工芸品) 太刀 銘長州住人 藤原□重・寛永二十一年甲申八月□日
- ⑮(工芸品) 須佐唐津焼青磁軸銅器写花瓶
- ⑯(歴史資料) 益田家歴代領主肖像画群

- 【市指定有形民俗文化財】
- ⑯-1 松原祇園車
- ⑯-2 本町中祇園車
- ⑰海上信仰資料黄帝社社殿
- ⑱彌富猿屋の柱状節理(猿屋の滝)

- 【市指定史跡】
- ⑳益田家墓所

- 【市指定天然記念物】
- ㉒-1 須佐のシダレアカマツ

むつみ地域

- 【国登録有形文化財】
- ⑥-1 むつみ村役場旧庁舎
- ⑥-2 むつみ村役場土蔵

- 【県指定史跡】
- ⑧穴観音古墳
- ⑩奥阿武宰判勘場跡

- 【県指定天然記念物】
- ⑫吉部八幡宮のスギ
- ⑬辻山のシダレザクラ

- 【市指定有形文化財】
- ⑮(工芸品) 片俣八幡宮懸仏

- 【市指定無形民俗文化財】
- ⑰下領神楽舞(神笑座)
- ⑰野田の柱松

- 【市指定史跡】
- ⑳吉見正頼息女の墓

福栄地域

- 【国指定重要文化財】
- ⑦(建造物) 森田家住宅

- 【国指定史跡】
- ⑨大板山たたら製鉄遺跡

- 【県指定有形文化財】
- ⑦(彫刻) 木造文殊菩薩騎獅像

- 【市指定有形文化財】
- ⑳(建造物) 佛光寺楼門
- ⑭-1 (彫刻) 立木薬師如来像
- ⑭-2 (彫刻) 木造阿弥陀如来立像
- ⑭-1 (彫刻) 木造延命地藏菩薩立像
- ⑭(彫刻) 木造金剛力士像
- ⑭-2 (彫刻) 木造不動明王立像
- ⑭(彫刻) 木造如意輪観世音菩薩坐像
- ⑭(彫刻) 木造扁額「實相山」
- ⑭(彫刻) 木造聖観世音菩薩立像

- 【市指定天然記念物】
- ⑳-1 紫福の一本スギ

川上地域

- 【国指定名勝】
- ⑫長門峡

- 【国指定天然記念物】
- ④川上のユズおよびナンテン自生地

- 【県指定有形文化財】
- ⑨(彫刻) 木造毘沙門天立像

- 【市指定有形文化財】
- ⑰(建造物) 玉泉寺毘沙門堂内厨子
- ⑳(絵画) 西国三十三観音霊場絵馬(四番札所、五番札所)
- ⑬(絵画) 実相寺天井絵
- ⑭(絵画) 西国三十三観音霊場絵馬(十番札所)
- ⑬-1 (彫刻) 木造毘沙門天立像脇立吉祥天女像
- ⑬-2 (彫刻) 木造毘沙門天立像脇立善日童子像
- ⑮(工芸品) 梅岳寺銅鐘
- ⑯(書跡) 山本又兵衛法号記

- 【市指定無形民俗文化財】
- ⑰-1 笹尾義民おどり
- ⑰-2 遠谷神楽舞
- ⑰-1 中ノ原的まつり

- 【市指定天然記念物】
- ⑳-1 椿瀬のツバキ
- ⑳-2 野戸呂のシラカン

旭地域

- 【国指定史跡】
- ④萩往還

- 【伝統的建造物群保存地区】
- ③萩市佐々並市

- 【国登録有形文化財】
- ⑤鹿背隧道
- ⑤落合の石橋
- ⑥下横瀬公民館(旧明木村立図書館)

- 【市指定有形文化財】
- ⑰(建造物) 大下阿弥陀堂内厨子
- ⑱(彫刻) 木造二天立像

- 【市指定天然記念物】
- ⑰佐々並のウラジロガシ

萩地域

- 【国指定重要文化財】
- ⑲(工芸品) 太刀 銘延吉
- ⑲(工芸品) 太刀 銘光房
- ⑲(書跡) 雪峯東山空和尚外集

- 【国指定史跡】
- ④見島ジーコンボ古墳群
- ④萩往還

- 【国指定天然記念物】
- ④見島ウシ産地
- ④見島のカメ生息地

- 【国登録有形文化財】
- ⑦三見橋
- ⑦鹿背隧道

- 【県指定天然記念物】
- ③河内の大ムク
- ③三見吉広のバクチノキ

- 【市指定有形文化財】
- ⑬(絵画) 発昌寺襖絵 附 高島北海書状一通
- ⑭-2 (彫刻) 木造弘法大師立像
- ⑭-1 (彫刻) 木造釈迦如来立像
- ⑭(彫刻) 木造阿弥陀如来立像
- ⑭(工芸品) 讃岐坊梵鐘
- ⑮(工芸品) 見島八幡宮鐺口
- ⑯(工芸品) 宇津観音寺鐺口
- ⑯(書跡) 紙本墨書年徳の書
- ⑯(古文書) 大井八幡宮文書
- ⑯(考古資料) 元寇の礎石

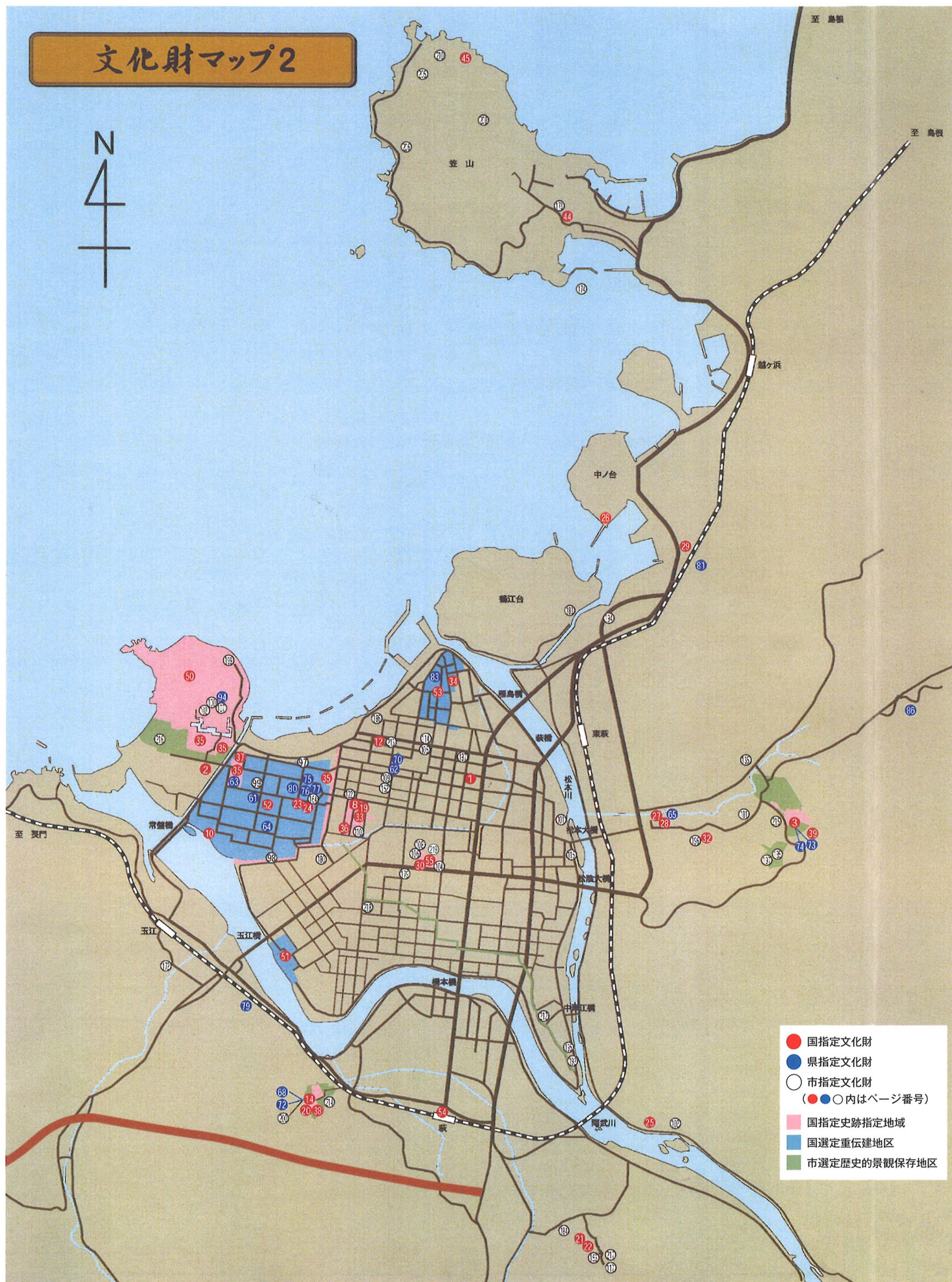
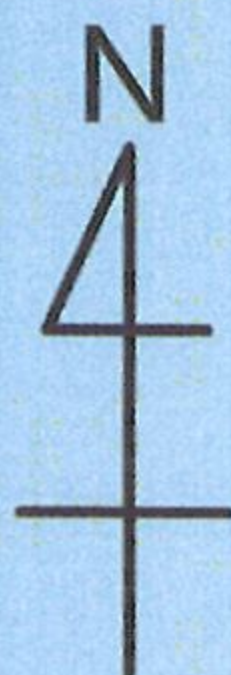
- 【市指定無形文化財】
- ⑯須佐唐津焼保持者 土谷一史

- 【市指定無形民俗文化財】
- ⑰木間「神代の舞」

- 【市指定史跡】
- ⑱円光寺穴観音古墳
- ⑱宇津観音寺観音堂

- 【市指定天然記念物】
- ⑳-2 櫃島八幡宮のリウキュウエノキ
- ⑳見島日崎のタダムシオイガイ・ミシマヒメベッコウおよびその棲息地

文化財マップ2



- 国指定文化財
- 県指定文化財
- 市指定文化財
(●○内はページ番号)
- 国指定史跡指定地域
- 国選定重要伝建地区
- 市選定歴史的景観保存地区

国指定文化財

【重要文化財】

- ① (建造物) 常念寺表門
- ② (建造物) 旧厚狭毛利家萩屋敷長屋
- ③ (建造物) 東光寺
- ④ (建造物) 菊屋家住宅
- ⑩ (建造物) 口羽家住宅
- ⑫ (建造物) 熊谷家住宅
- ⑭ (建造物) 大照院
- ⑲ (絵画) 絹本著色春冬山水図
- ⑳ (彫刻) 木造赤童子立像
- ㉑ (彫刻) 木造聖観音立像
- ㉒ (彫刻) 木造千手観音立像

【史跡】

- ㉔ 恵美須ヶ鼻造船所跡
- ㉕ 松下村塾
- ㉖ 吉田松陰幽囚ノ旧宅
- ㉗ 萩反射炉
- ㉘ 旧萩藩校明倫館
- ㉙ 伊藤博文旧宅
- ㉚ 木戸孝允旧宅
- ㉛ 旧萩藩御船倉
- ㉜ 萩城跡
- ㉝ 萩城城下町
- ㉞ 萩藩主毛利家墓所
- ㉟ 天樹院
- ㊱ 大照院
- ㊲ 東光寺

【天然記念物】

- ㊳ 明神池
- ㊴ 笠山コウライタチバナ自生地
- ㊵ 指月山

【重要伝統的建造物群保存地区】

- ㊶ 萩市平安古地区
- ㊷ 萩市堀内地区
- ㊸ 萩市浜崎

【登録有形文化財】

- ㊹ 萩駅舎
- ㊺ 明倫小学校本館

県指定文化財

【有形文化財】

- ㊻ (建造物) 萩学校教員室
- ㊼ (建造物) 長寿寺十三重塔
- ㊽ (建造物) 旧福原家萩屋敷門
- ㊾ (建造物) 旧梨羽家書院
- ㊿ (建造物) 花月楼
- ㋀ (彫刻) 木造釈迦如来坐像
- ㋁ (彫刻) 木造不動明王立像
- ㋂ (彫刻) 木造義翁和尚倚像
- ㋃ (書跡) 三祖師号
- ㋄ (書跡) 木額・柱聯・榜牌・同下書
- ㋅ (書跡) 石屏子介禪師墨蹟
- ㋆ (考古資料) 見島ジーコンボ古墳群出土品
- ㋇ (考古資料) 円光寺古墳出土品

【無形文化財】

- ㋈ (工芸技術) 萩焼保持者 野坂康起
- ㋉ (工芸技術) 萩焼保持者 波多野善藏
- ㋊ (工芸技術) 萩焼保持者 岡田 裕

【無形民俗文化財】

- ㋋ 住吉神社「お船謡」

【史跡】

- ㋌ 萩焼古窯跡群

【天然記念物】

- ㋍ 志都岐山神社のミドリヨシノ

市指定文化財

【有形文化財】

- ㋎ (建造物) 旧周布家長屋門
- ㋏ (建造物) 平安橋
- ㋐ (建造物) 問田益田氏旧宅土堀
- ㋑ (建造物) 旧福原家書院
- ㋒ (建造物) 小川家長屋門
- ㋓ (建造物) 龍蔵寺観音堂
- ㋔ (建造物) 花江茶亭
- ㋕ (建造物) 明倫館遺構 観徳門
- ㋖ (建造物) 明倫館遺構 聖廟
- ㋗ (建造物) 明倫館遺構 南門
- ㋘ (建造物) 明倫館遺構 万歳橋
- ㋙ (建造物) 明倫館遺構 聖賢堂

- ㋚ (建造物) 端坊鐘楼
- ㋛ (建造物) 円光寺内金毘羅社社殿
- ㋜ (建造物) 亨徳寺三門
- ㋝ (建造物) 奥平家長屋門
- ㋞ (建造物) 南明寺観音堂
- ㋟ (建造物) 旧久保田家住宅
- ㋠ (彫刻) 木造薬師如来坐像
- ㋡ (工芸品) 端坊梵鐘
- ㋢ (工芸品) 不動明王立像

【無形民俗文化財】

- ㋣ 玉江浦「天狗拍子」
- ㋤ 越ヶ浜「巫女の舞」
- ㋥ 越ヶ浜「大綱声」

【史跡】

- ㋦ 萩城下街割原標石
- ㋧ 村田清風別宅跡
- ㋨ 玉木文之進旧宅
- ㋩ 八橋検校の碑
- ㋪ 小倉四賢墓所
- ㋫ 吉田松陰の墓ならびに墓所
- ㋬ 菊ヶ浜土塁(女台場)
- ㋭ 野山獄・岩倉獄跡
- ㋮ 旧湯川家屋敷
- ㋯ 長添山古墳
- ㋰ 桂太郎旧宅
- ㋱ 伊藤博文旧宅地 附 伊藤博文別邸
- ㋲ 吉田松陰誕生地
- ㋳ 旧明倫小学校

【天然記念物】

- ㋴ 指月山のミカドアゲハ
- ㋵ 大照院の大フジ
- ㋶ 笠山虎ヶ崎タチバナ自生北限地およびコウライタチバナ自生地
- ㋷ 笠山ハマボウ自生北限地
- ㋸ 笠山のホソイノデ・カサヤマイノデ・カタホソイノデ混生地
- ㋹ 笠山虎ヶ崎ヤブツバキ群生林

【歴史的景観保存地区】

- ㋺ 藍場川および藍場川周辺地区
- ㋻ 今魚店地区
- ㋼ 大照院付近
- ㋽ 東光寺および吉田松陰誕生地付近
- ㋾ 堀内地区
- ㋿ 南明寺境内および参道
- ㊀ 藍玉座跡土堀



松陰誕生地から萩市を眺めて

第2部 萩市のすがた（地理編）

活用にあたって

対馬海流の影響を受けた温暖な気候、代表的な風景とされる土塀と夏みかん、多くの先賢者を輩出した風土、伝統産業萩焼……。

こうした一つ一つの事象が互いに影響しあって、私たちの「ふるさと萩」が形づくられているのです。

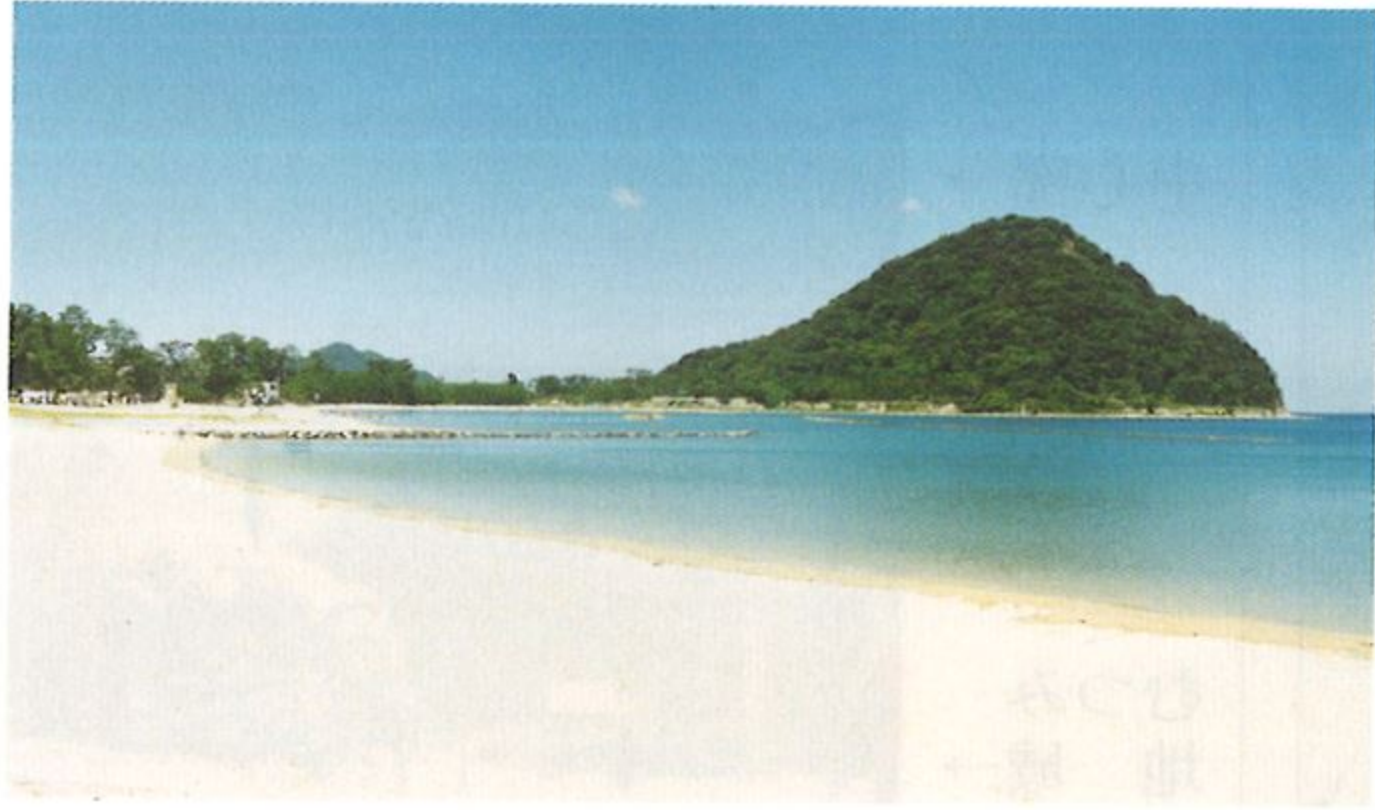
この地理編には、様々な面からの最新の資料がたくさん掲載されています。みなさんがこの資料の中から興味・関心のあるものを選び、その活用の方法を考え、創意工夫を生かして積極的に郷土学習に取り組めるようにと考えて編集しました。ふだんよく知っているつもり地域でも、くわしく調べたり別の角度から眺めてみたりすると、新たな発見が次々と生まれてくるものです。

さあ、「ふるさと萩」の野外調査に出かけてみましょう。

1 自然のようす

(1) 位置・範囲・面積

① 菊ヶ浜から見た指月山



③ 須佐の畳岩(砂岩と泥岩が重なる地層)



② 山あいの里 木間



④ 空から眺めた佐々並



(1) 位置

方位	地点	極限経緯度	隣接地
東端	下小川高森山	東経 130° 43' 39"	益田市
西端	見島西端	東経 131° 07' 37"	日本海
南端	佐々並西鳳翽山	北緯 34° 12' 37"	山口市
北端	見島北端	北緯 34° 47' 55"	日本海

(2) 地区別面積

(単位：km²)

地区別	面積	地区別	面積
総計	698.31	むつみ地域	69.66
萩地域	138.26	須佐地域	87.15
川上地域	93.22	旭地域	134.04
田万川地域	78.21	福栄地域	98.30

(平成27年10月1日現在)

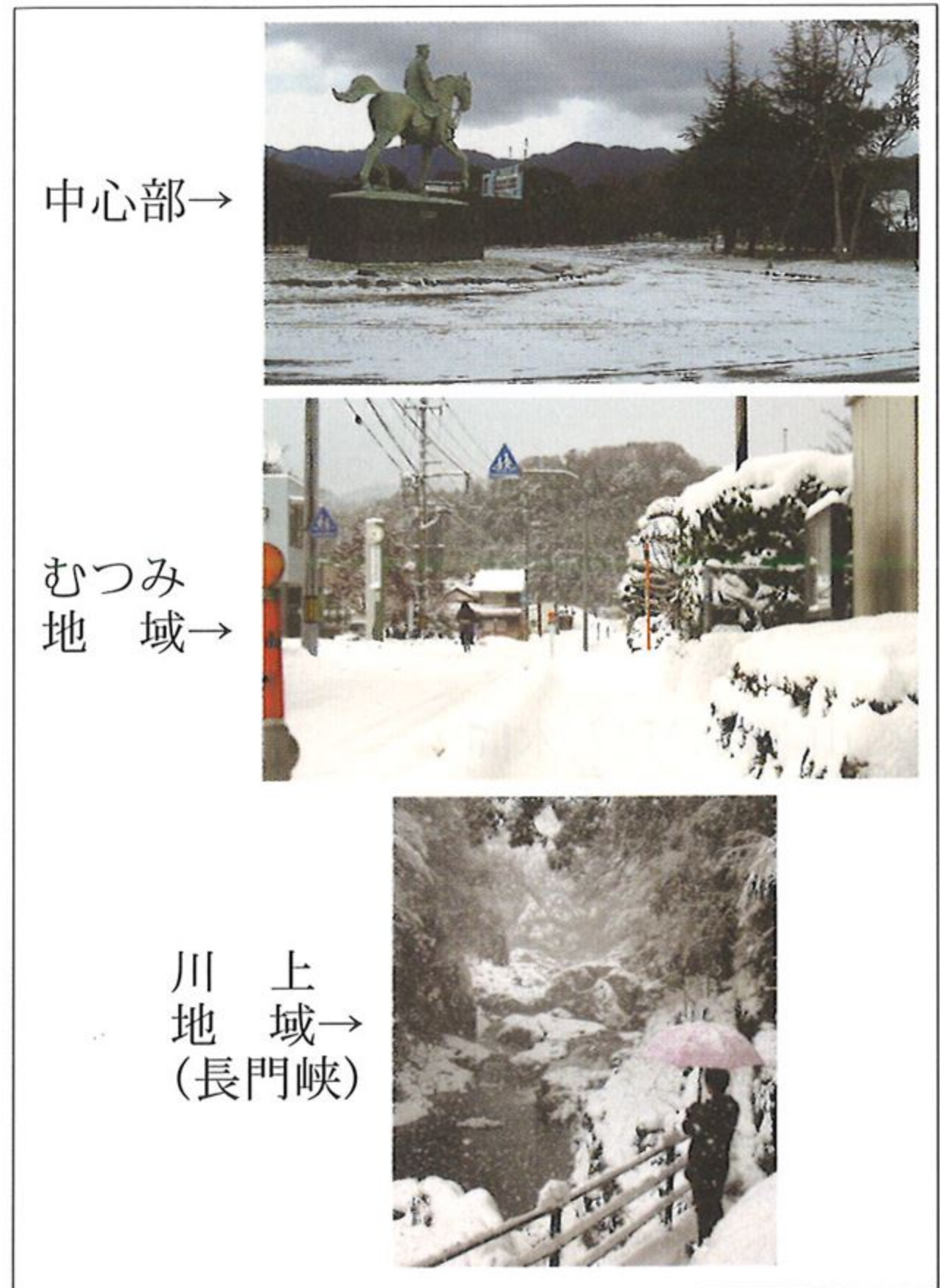
※ 資料提供：平成29年度版「ふるさと萩のすがた」

(2) 気 候

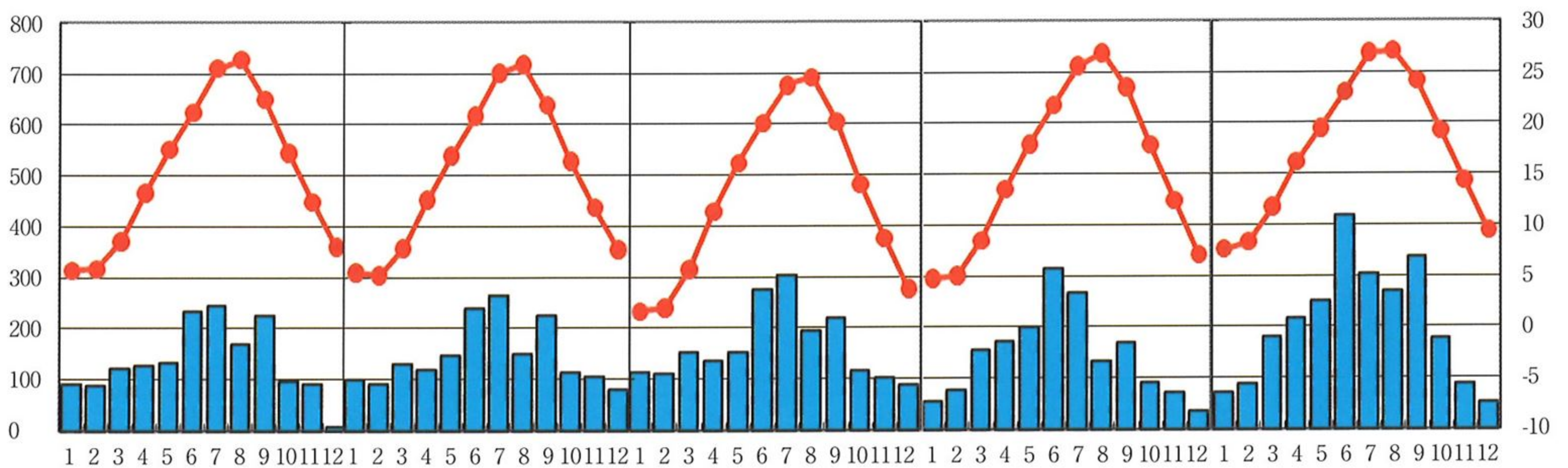
1 山口県の気候区分



2 萩市の冬の風景



3 雨温図



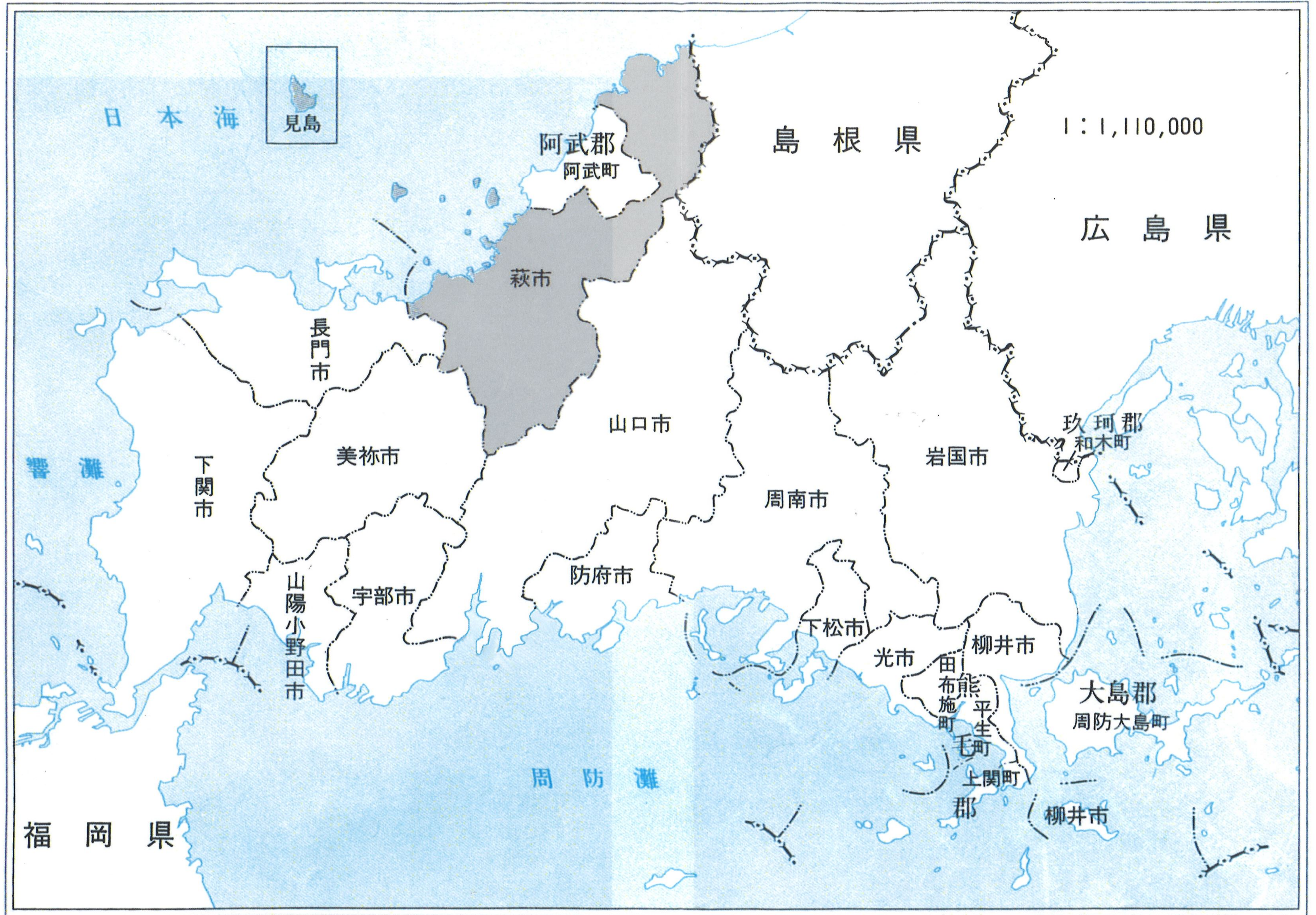
萩市中心部	須 佐	徳 佐	柳井市	宮崎市
年平均気温 15.3℃	14.8℃	12.7℃	15.4℃	17.2℃
年降水量 1700.7mm	1773.4mm	1971.3mm	1752.2mm	2457mm

山口県の気候は、日本海沿岸地方、中国山地地方、瀬戸内海沿岸地方の3つの地域に区分されます。萩市は日本海沿岸地方・中国山地地方に区分されます。気候は、沿岸部においては対馬海流の影響を受けて、比較的温暖であり、中山間部においては盆地特有の気候で、変化に富んだ自然の豊かな環境を有しています。季節風が強いため、気温の割には体感温度は低く感じます。

見島・相島・大島などでは、冬の季節風が強いときには定期船が欠航することもあります。しかし、土地が狭く高い山がないので、冬の降水量は少ないです。

対馬海流の影響を受けない中山間部では、冬は冷え込み、中心部より雪が多く積もります。

(3) 萩市位置図略図





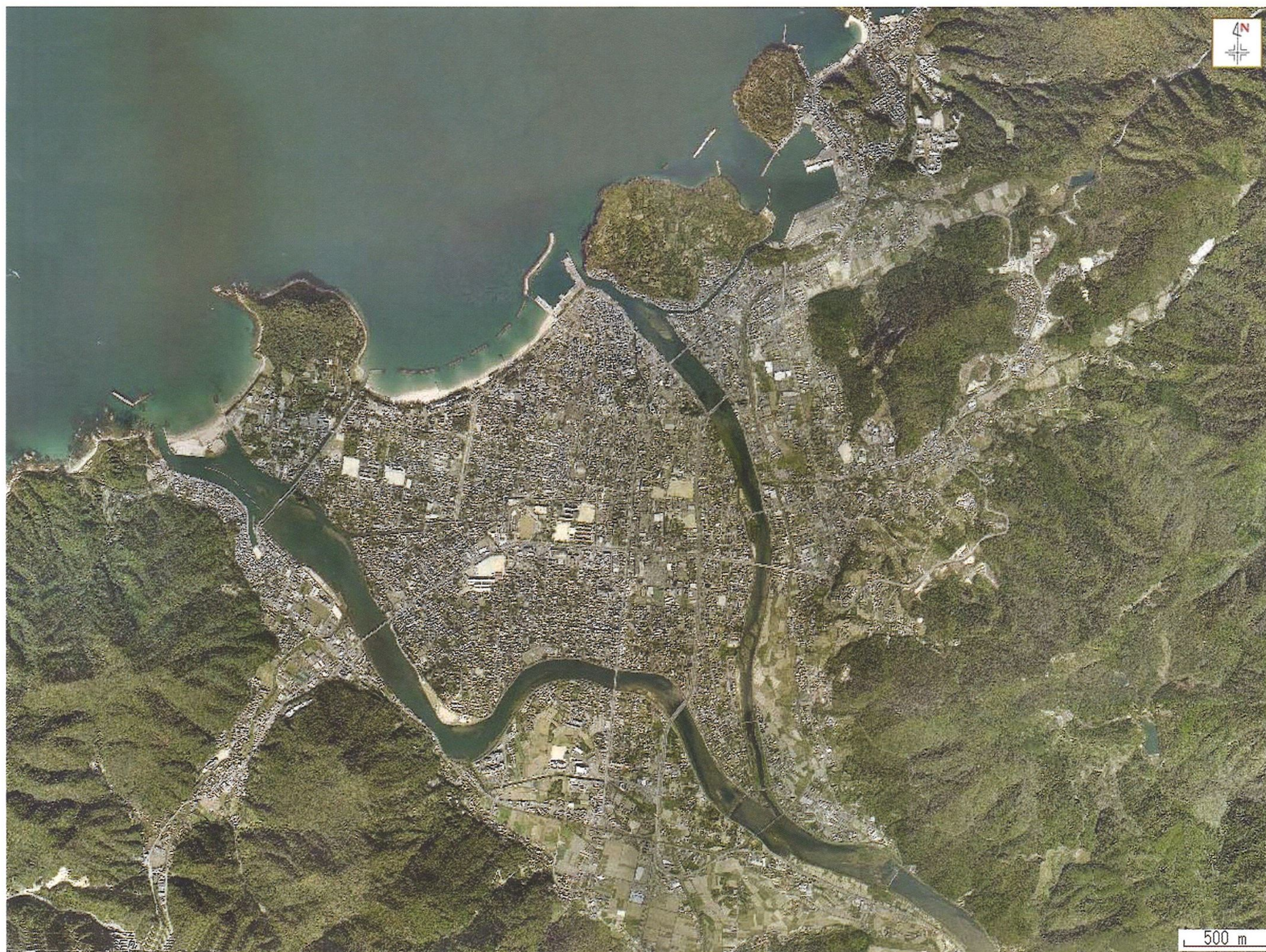
(4) 航空写真

萩市三角州

1947年(昭和22)

アメリカ軍撮影

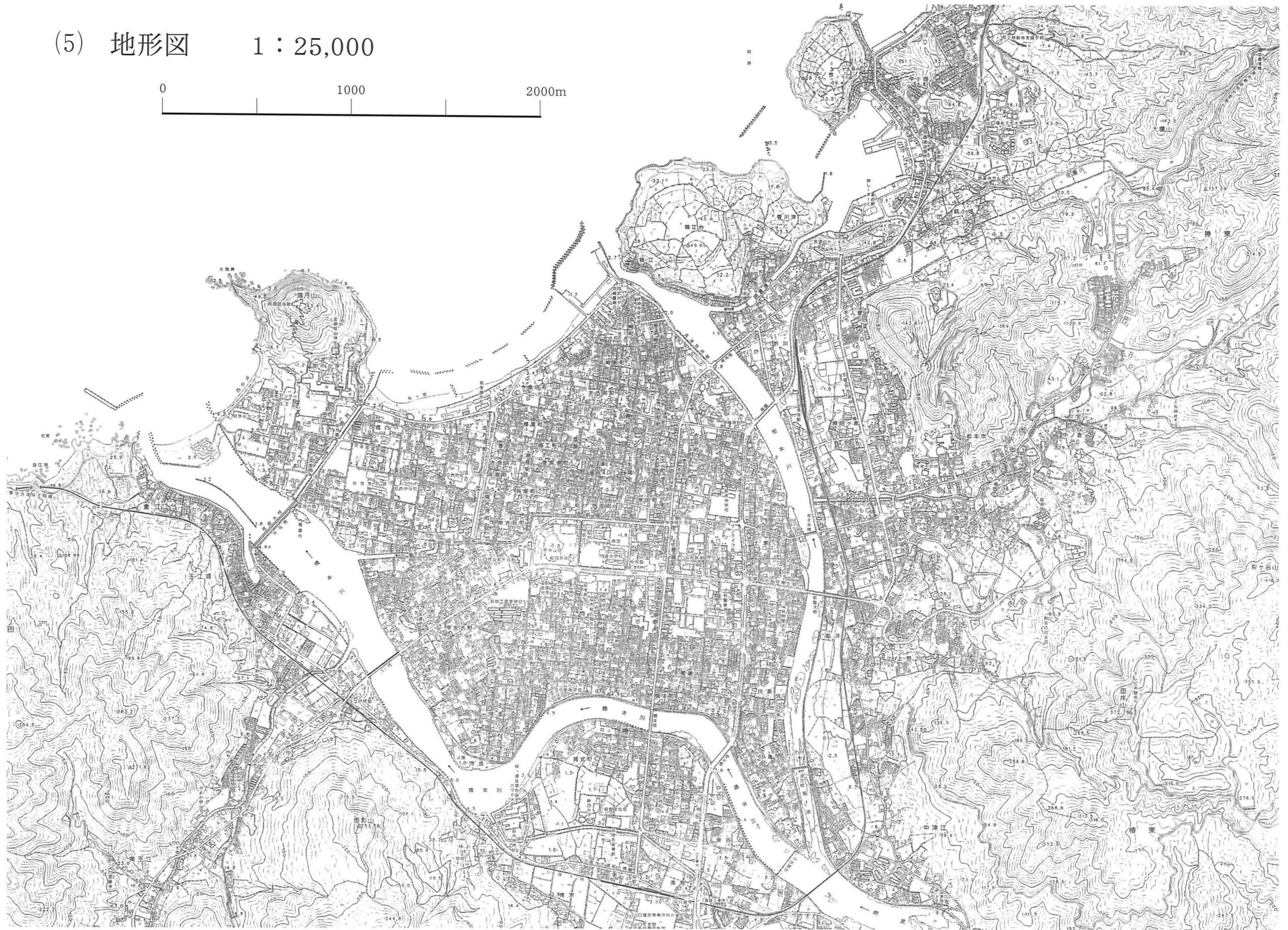
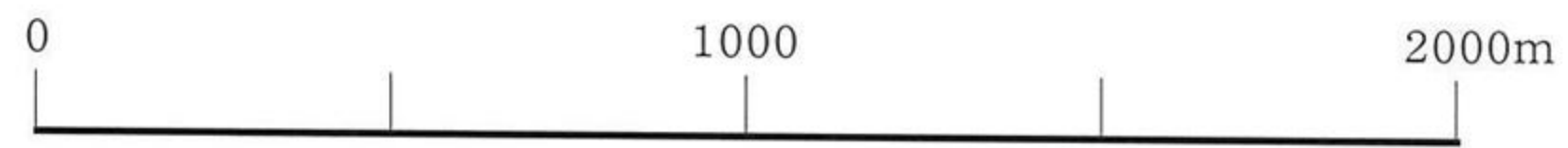
(国土地理院蔵)



萩市三角州

2010年(平成22)

(5) 地形図 1 : 25,000



(6) 地区別航空写真

見島



大島

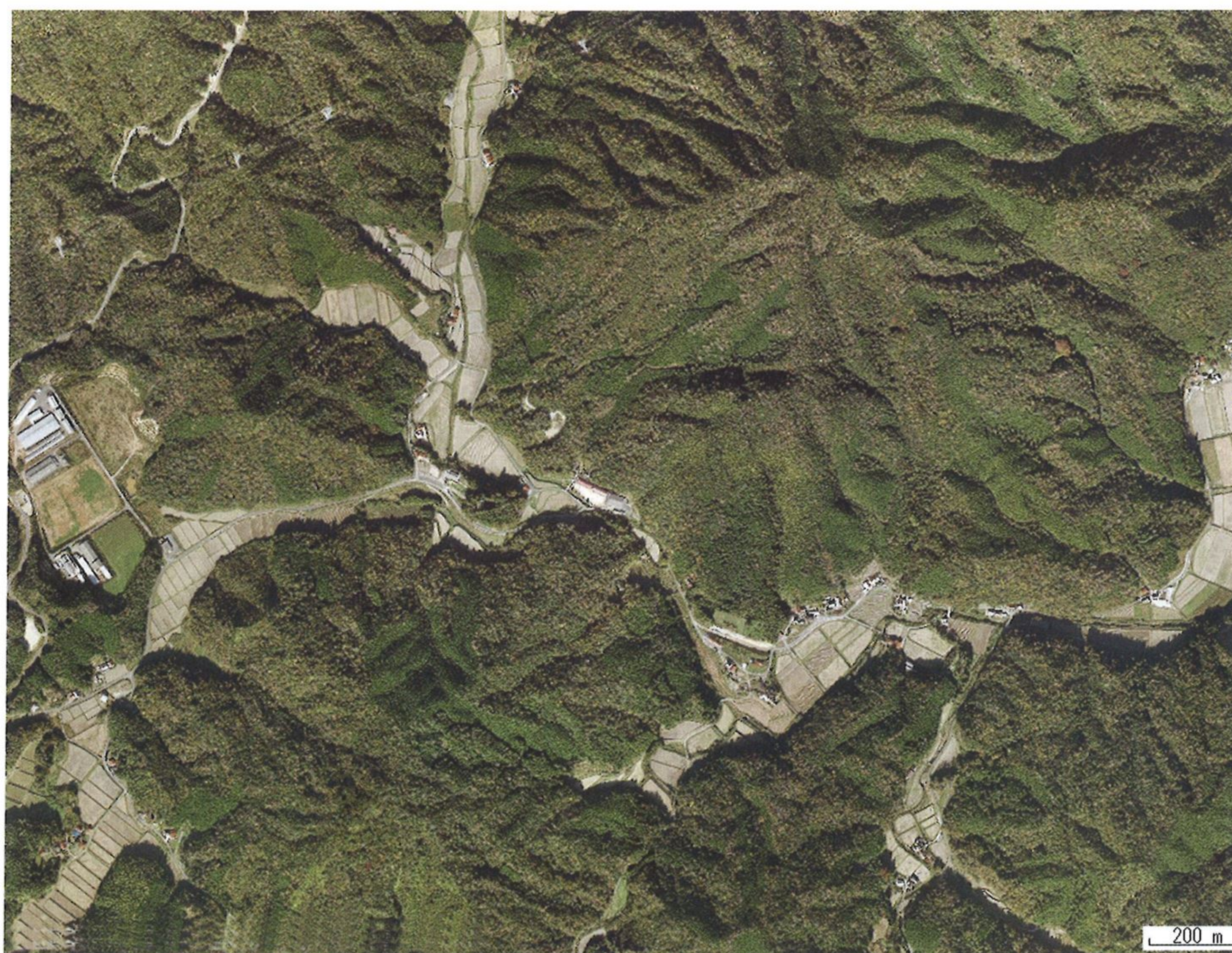


※航空写真の縮尺はすべて異なります。

相島



木間



川上



むつみ



福栄（福川地区）



福栄（紫福地区）



旭 (明木地区)



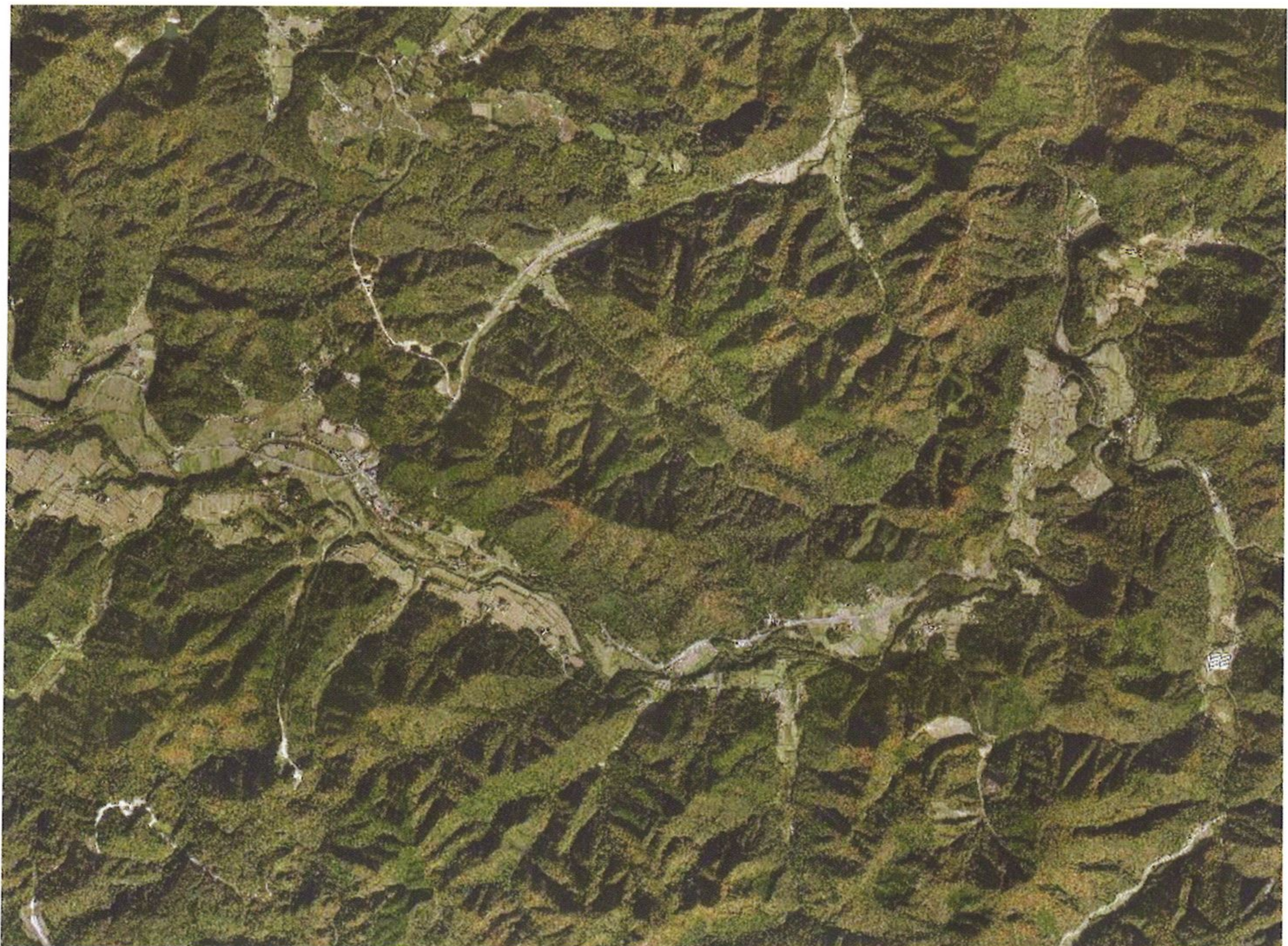
旭 (佐々並地区)



須佐 (須佐地区)



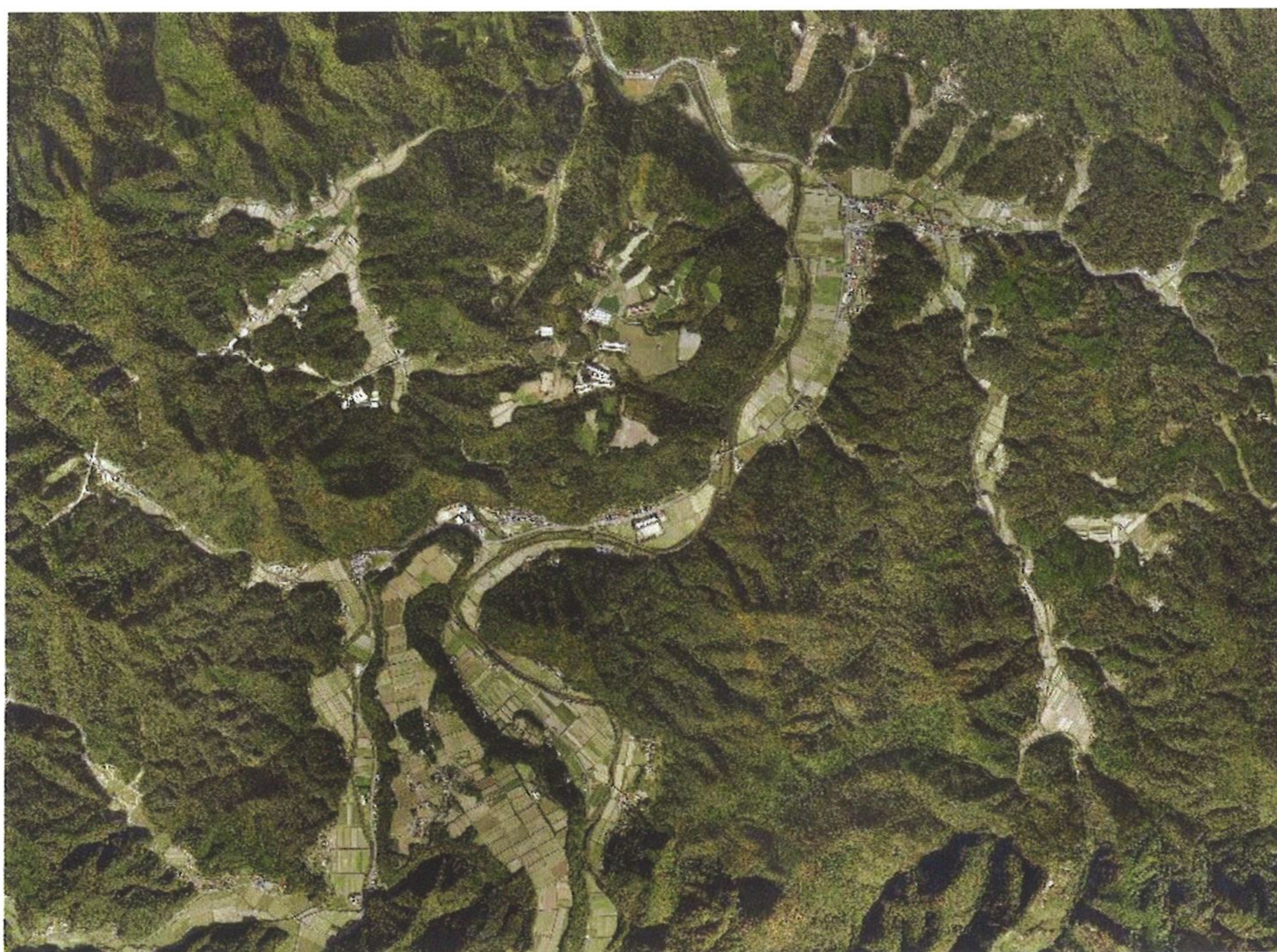
須佐 (弥富地区)



田万川（江崎地区）

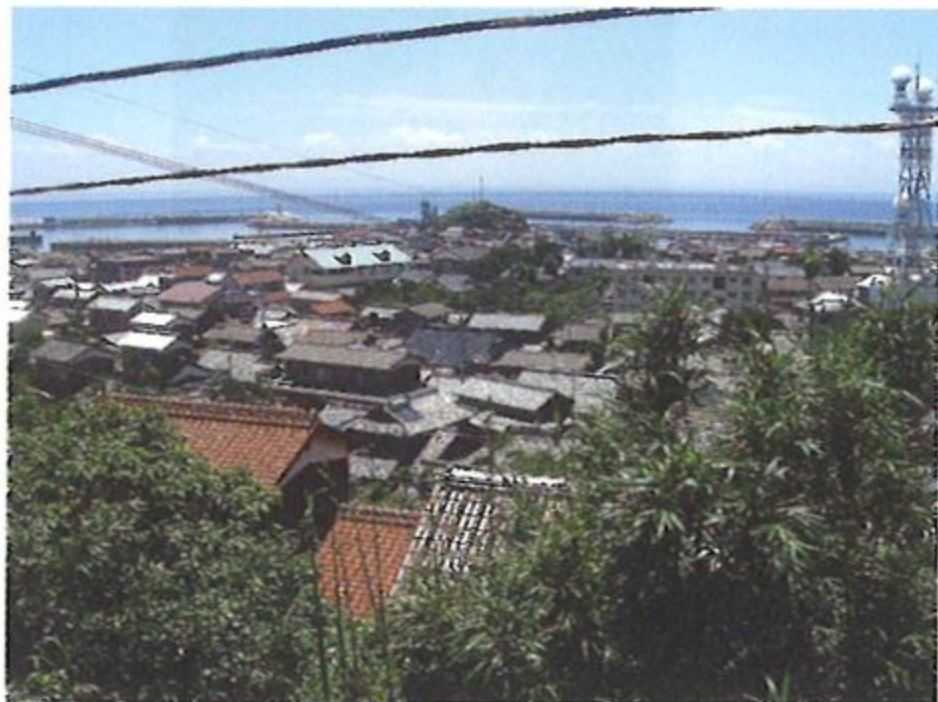


田万川（小川地区）



(7) 各地域のようす

萩地域（見島）



集落のようす



見島ダム



子どもの成長を祈り正月にあげる鬼揚子



見島牛



ジーコンボ古墳群



石垣で囲まれた墓地

<歴史>

見島は、縄文時代から人が住み、奈良時代初期から大陸との交易で栄えた古い歴史を持ちます。本土を望む海岸には、ジーコンボ古墳群が分布しています。これは奈良時代後半から平安時代初期にかけての防人の指揮官の墓と考えられています。（7ページ参照）大陸に近い防衛拠点としての役割は長く、明治時代以降は海軍、終戦後は連合軍、現在では自衛隊が基地を置いています。

<自然と産業>

見島は萩市の三角州より広く、面積は7.76km²で萩市で最も大きい島です。他の島は平らな形をしていますが、見島は形成された時期が異なるため、平地が少なく山がちです。本村と宇津の2地区に分かれ、814人（平成29年9月末日現在）が住んでいます。海が荒れる冬場を除いて観光や釣り、ダイビング、バードウォッチング等の来島者でにぎわいます。

見島には天然記念物が2つあります。見島牛は、離島で生育しているため他の種類のウシと混血することがなく、日本で最も古い和牛と言われています。小柄ですが力が強く、昔は役牛として農耕用に使われていました。また、見島のカメ（イシガメ、クサガメ）は、見島が本州から離れた頃から生き続ける生物の一つです。

おもな産業は、農業と漁業です。地形が山がちのため、昔の人々は棚田を作って山の奥まで利用してきました。また、大きな川がないのでため池を作り、農業用水を確保しました。しかし、水不足に悩んだり、干ばつにおそわれることが多く、苦勞が絶えませんでした。2002年（平成14）に完成した見島ダムは、農業用水や生活水の確保に大きく役立っています。

農業では稲作だけでなく、きゅうりの栽培もさかんです。平均気温が高いためビニルハウスの暖房がいらず重油代がかからない一方、出荷に船賃がかかるため他の産地より値段が高くなるという欠点があります。しかし、年2回収穫したり、病気や連作に強いかぼちゃの苗に接ぎ木して育てたり、輸送中に品質が落ちないように鮮度保持用袋を用いるなど、品質で他の産地との競争に勝つ工夫をしています。

見島沖には、水深が浅い八里ヶ瀬というよい漁場があります。また島の周辺でもよく魚がとれ、ブリ、イカ、アマダイ、マグロ等の漁がさかんです。また、ウニやサザエ、アワビの素潜り漁もさかんです。しかし、他県や韓国の漁船も八里ヶ瀬で漁をするため、漁獲量の減少が心配されています。

萩地域（大島）



集落のようす



しちみょう
七名塚



江戸時代中頃(1740年)の大島
(山口県文書館蔵)



葉たばこの収穫



まき網漁



歳祝い（厄払いの行事）

<歴史>

いつごろ大島に人々が定住し始めたのかはわかりませんが、大島八幡宮は792年（延暦11）に豊前国（現在の^{かんじょう}大分県）の宇佐八幡宮から勧請されたと伝えられています。

大島には、下関の壇ノ浦で源氏に敗れた平家の武士7人が鎌倉時代の初めに流れ着いたという「大島の七名」^{しちみょう}伝説が語り継がれています。この七名は、豊田・貞光・池部・国光・長岡・刀祢・吉光とあって、今でも大島には多い名字です。

また、1740年(元文5)に描かれた古地図からは、当時は農業中心の生活だったことがわかります。

<自然と産業>

大島は萩六島（大島、尾島、^{ひつしま}櫃島、羽島、肥島、相島）のうち最大の島で面積が2.99 km²あり、人口およそ700人あまりの半農半漁の島です(平成29)。島はテーブル状になっていて、本土側斜面に民家が密集し、テーブルの上にあたる台地は農地として利用されています。2002年（平成14）には、本土からの上水道の海底送水が完成し、生活がより便利になりました。

おもな農産物は、葉たばこ、ブロッコリー、たまねぎです。葉たばこの栽培は1939年（昭和14）に始まりました。今では県内有数の葉たばこの産地となっています。周囲を海で囲まれているために温暖で1日の温度変化が少ない気候と、アルカリ性で水はけがよい土壌が葉たばこの栽培に適しているのです。近年では、葉たばこの需要は減っていますが、逆に、品質のよいものを生産することで他の産地との競争に勝ち、収入は増えています。

大島の漁業生産額は約11億円で、県内の離島では最高額です。中型まき網漁業によるアジ漁がさかんで、7～8隻の漁船に20～23人が乗り組み、船団を組んで見島沖や相島沖に出かけて漁をします。また、萩沖の浅瀬で獲れるアジを「萩の瀬つきあじ」と名づけ、ブランド化して売り出しています。栽培事業では、マダイ・カサゴ・アワビ・赤ウニ等の種苗の放流事業を積極的に実施し、水産資源の増殖に努めています。その結果、漁業従事者1人あたりの漁業生産額は他地域よりも高くなっています。

近年、全国的に漁業従事者の高齢化が進み、後継者不足が課題となっています。山口県漁協大島支店では、大阪や福岡などの漁業就業者支援フェスタに参加して漁師になりたいという若者を積極的に募集しています。また、ニューフィッシャー確保育成支援事業を活用して島外から4家族の受け入れも行いました。その結果、他地区に比べて若い漁業従事者の割合が多くなっています。このように、大島は離島という環境にも関わらず、活気にあふれた島となっています。

萩地域（相島）



港のようす



スイカの出荷



葉たばこの栽培



集落のようす



壮観な段々畑



相島小・中学校

<歴史>

いつごろ相島に人々が定住し、生活を始めたのか正確な資料はありませんが、相島中村家所有の記録によると、平安時代の末期に島の西の海上に大日如来像とその他の仏像が漂着し、この仏像を安置するために大日如来堂が建てられたと伝えられています。また、1508年(永正5)の記録には、相島という地名が初めて現れます。しかし、相島ではなくて「優島」と記されています。「優」とは、「かすかに見える」という意味です。1889年(明治22)の市町村制施行により六島村のひとつとなり、1955年(昭和30)に六島村が萩市と合併し、現在に至っています。

<自然と産業>

相島は萩六島(大島、尾島、^{ひつしま}櫃島、羽島、肥島、相島)のうち萩港から最も遠いところにあり、片道で14.6kmあります。テーブル状をなしている相島は、そのほとんどが安山岩で形成されており、周囲は断崖絶壁です。北長門海岸国定公園に属しており、ライオン岩、^{とおりがはな}通ヶ鼻に代表されるように奇岩絶景の宝庫とも呼ばれています。島の面積は2.37km²、人口は152人(平成29年9月末日現在)で、住宅のほとんどが中央部にあります。フィッシングスポットとしても有名で、釣りを楽しみに来る人も多く見られます。

おもな産業は農業と漁業で、多くの世帯が半農半漁で生計を立てています。農業ではスイカの栽培が有名です。5月下旬から8月下旬にかけて県内外へ糖度の高いスイカが出荷されます。連作障害などの問題も抱えていますが、品種の改良や日々のたゆまぬ努力により生産を維持しています。スイカと並んで葉たばこの栽培も行われています。その他、さつまいもやブロッコリーなどの農作物の栽培もさかんに行われています。

漁業は本島沿岸から見島周辺に及んでいます。経営種類は、たて網やもぐりが主で一本釣も取り入れられており、イカ、ウマヅラハギ、ブリ(ワカナ)、マグロ、サザエ、アワビ、ウニなど豊富な魚介類が水揚げされます。しかし、他の地域と同様、相島においても漁獲量の減少が心配されています。

また、少子高齢化にともない、島で農業や漁業に従事する人が減少している中で、相島で栽培されたさつまいもを使用した「はぎ芋焼酎あいしま」の販売や「いも掘りフェスタ」「相島スイカ作りオーナー制度」等、新しい事業に取組み、島の活性化のために工夫をしています。

萩地域（木間）



田園風景



モーモーファームの牛舎



ビニルハウスでのネギ栽培



冬のようす



おちうど
平家の落人伝説と女屋敷



かみよ
神代の舞

<歴史>

木間には、平安時代末期に下関の壇ノ浦で源氏に敗れた平家の武士や女官^{によかん}たちが逃れて来て隠れ住んだという落人^{おちうど}の里伝説があります。また、女屋敷という集落は、女性の長者が屋敷を構えていたためこの名がついたといわれています。

毎年、春、夏、秋には若宮神社に神代^{かみよ}の舞が奉納されます。これは江戸時代に京都や大阪から習い伝えられた、農作物の豊作を祈る舞です。地区内の幼・小・中学生の男子も舞子として踊ります。

<自然と産業>

木間は美祢市と長門市に境を接し、面積のほとんどを山林が占めています。山間にいくつかの集落が点在しており、121人（平成29年9月末現在）ほどが住んでいます。2012年（平成24）現在、高齢者の割合が52.0%（萩市全体では35.5%）と高いのが特徴です。

おもな産業は農業で、稲作が中心です。2002年（平成14）には国・県・市が協力して建設した萩木間畜産団地（愛称HAGI-KOMAモーモーファーム）が完成しました。ふんを乾燥させて牛の寝床に再利用する設備や、干し草を丸めて発酵させる大型機械、乳牛から自動的に乳を搾る設備など、牛乳・牛肉を大規模で効率よく生産するための設備が整っており、畜産団地としては県内最大規模のものです。2010年、乳牛を飼育する農家、肉牛を飼育する業者、肉牛用の子牛を飼育する農家が1軒ずつ入居しました。また、2007年には、稲・大豆栽培を中心に地域の農業経営を維持・発展させるための農事組合法人「木間の郷」が設立されました。

ビニルハウスを使ってねぎを水耕栽培する農家もあります。水耕栽培とは、土ではなく、栄養や水質を調節した水で植物を育てることをいいます。この農家では、地下水をくみ上げ、ビニルハウス2棟を使ってねぎを栽培しています。ねぎは、夏は40日、冬は90日ほどで出荷できる大きさに成長するため、1つの栽培用ベッドで1年に6～7回収穫できる生産効率のよい野菜です。また、木間は山間部なので夏は涼しく、暑さを嫌うねぎに適した生育環境にあります。寒さの厳しい真冬以外は、ほぼ1年中収穫し、「木間里のねぎ^{こまり}」としておもに萩や山口の市場に出荷しています。この新しい取組は、山口県では長門市三隅や木間周辺の農家が集まって始めたもので、萩木間畜産団地とともに、木間の農業を活性化する取り組みとして注目されています。

川上地域



阿武川ダム



カヌー教室



長門峡



実相寺天井絵



阿武川温泉ふれあい会館



白上運動公園

<歴史>

川上地域は高瀬地区付近（ダムのため水没）から石鏃^{せきぞく}が発掘され、縄文・弥生時代には開けていたと考えられています。平安時代末期に壇ノ浦で敗れた平家一門が落ちのびたと伝えられ、平家山・一ノ谷などいくつかの地名が残っています。また、東大寺再建大勧進・俊乗坊重源が柚^{そま}どりのためにやってきたと言われています。江戸時代末期の天保年間に制作された実相寺の天井絵をはじめ文化財も数多く残されています。1975年（昭和50）には、電源開発や治水を目的として県営では日本最大級の阿武川ダムが完成しました。8集落が水没して多くの人々が住み慣れた土地をあとにしましたが、地域内の中央部に生まれた人造湖によって下流域での水害を防ぐことができました。

<自然と産業>

川上地域の土地総面積は93.22km²ありますが、森林面積は約83km²で、川上地域総面積の約90%を占めています。また、森林の約45%にあたる約38km²が人工林で、阿武川林業圏の中核としてスギやヒノキなどの植栽が行われ、その多くが利用できる大きさになっています。（平成26年現在）

川上地域の中心を流れる清流阿武川は、渓谷を刻み、奇岩の連なる長門峡県立自然公園を創り出し、新緑や紅葉のシーズンには観光客も訪れます。かつては船による水上交通が物流の中心で、阿武川も萩と周辺地域を結ぶ主要交通路として利用され、様々な物資の集積によって賑わいをもたらしていました。この地域の人々は、その多くが阿武川の水産資源や山林資源を生かして川漁や薪炭業等を生業として生活をしていました。

農業では、明治時代から始まった養蚕業が、大正・昭和初期にかけて栄えました。養蚕業の生産量は県下有数でしたが、日中戦争以後は産業構造や生活の変化にともない、徐々に衰退していきました。現在は、稲作が中心ですが、この地区に自生する天然記念物の柚子^{ユズ}の振興が図られ、特産物として様々な加工品も作られています。

むつみ地域



むつみひまわりロード



平成28年1月の大雪



阿武東カントリーエレベーター



穴観音古墳



むつみ昆虫王国



「森林の教室」での森林保全活動

<歴史>

むつみ地域には、縄文時代にはすでに人が住み始めたと思われる遺跡が残されています。また古墳時代の遺跡として穴観音古墳があり、同じ様式の古墳が出雲地方（島根県）に多く見られることから、当時出雲地方とのかかわりが深かったことが考えられます。10世紀になり、「宅佐」（旧むつみ村高佐の由来）の地名が初めて文献に現れます。江戸時代の初めには、萩藩18宰判のひとつである奥阿武宰判の勘場（代官所）が置かれました。そして、1955年（昭和30）には、旧吉部村・高俣村が合併して、全国で初めてのひらがなの村名として「むつみ村」が誕生しました。

<自然と産業>

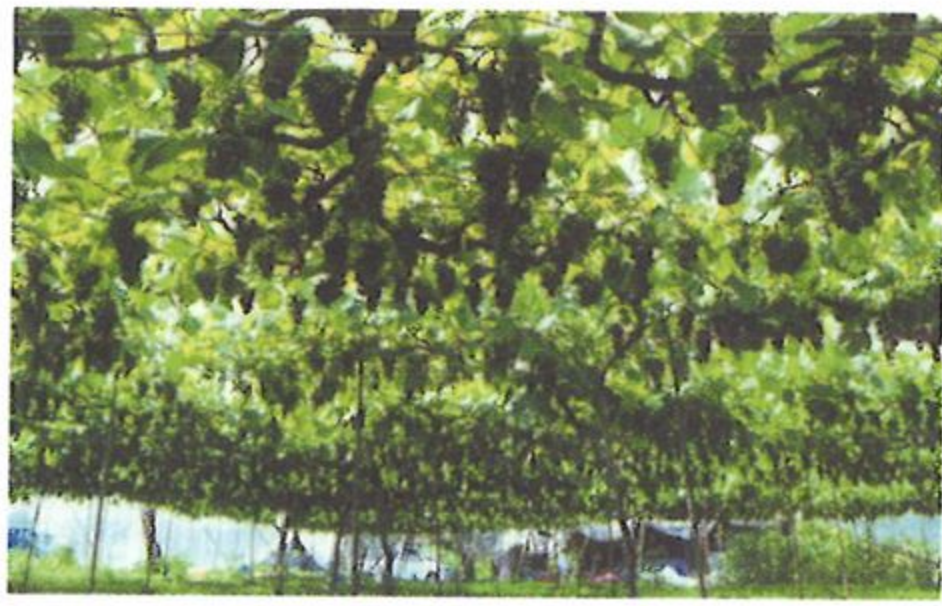
むつみ地域は、周囲を山々に囲まれた山間の地であり、阿武川の支流蔵目喜川地域に平地や丘陵が開けています。地域の平均標高が360mと比較的高いため冷涼な気候であり、冬にはかなりの降雪があります。

主な産業は農業で、農家1戸当たりの耕地面積は県内でも有数の広さです。作物は水稻が主体で、肥沃な土地からは良質な米が生産されてきました。さらに、米の生産調整が行われるなか、水田転作作物として、トマトの栽培も取り入れ、生産の拡大を図っています。トマトは夏と秋にかけて収穫され、そのトマトを利用したソフトクリームなどとともに地域の特産品として消費者の人気を得ています。このほか、肉用牛の飼育やだいこんの生産も盛んです。千石台地区は県内最大のだいこん産地ですが、近年、じゃがいも、人参の生産にも取り組んでいます。また、地域の総面積の約70%を森林が占めており、その52%にあたるスギやヒノキなどの人工林の多くが利用できる大きさになっています。

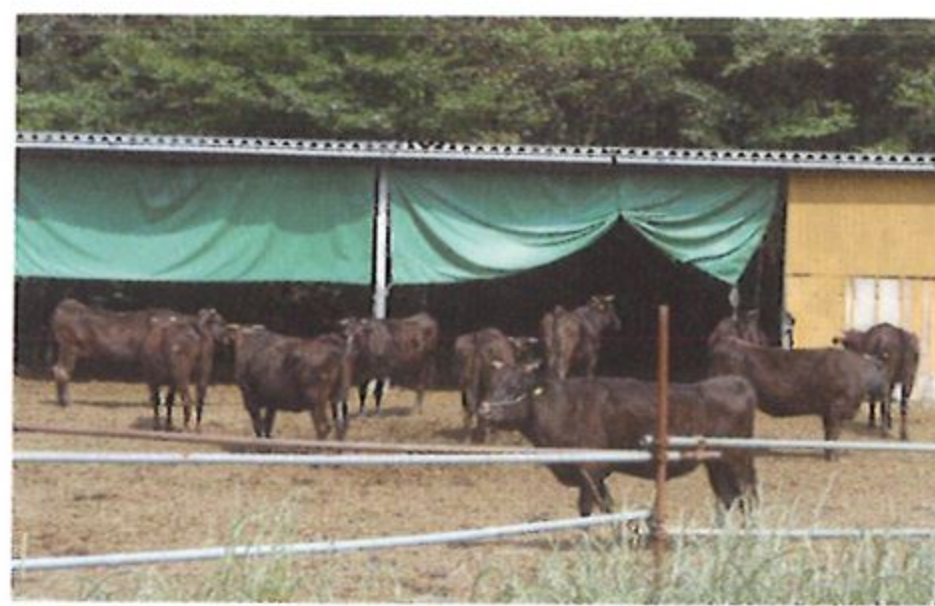
あわせて、地元のむつみ中学校では、旧高俣中学校だった昭和50年代からまつたけ狩りが学校行事として実施され今も引き継がれています。まつたけ山の整備をはじめ、林道・学校林の草刈り、植樹・間伐などの森林保全活動「森林の教室」を地元林業振興会の方の指導のもと毎年継続して実施しています。

また、このような豊かな自然を生かして、平成11年には「むつみ昆虫王国」がオープンし、県内外から観光客が訪れています。

福栄地域



ぶどう畑



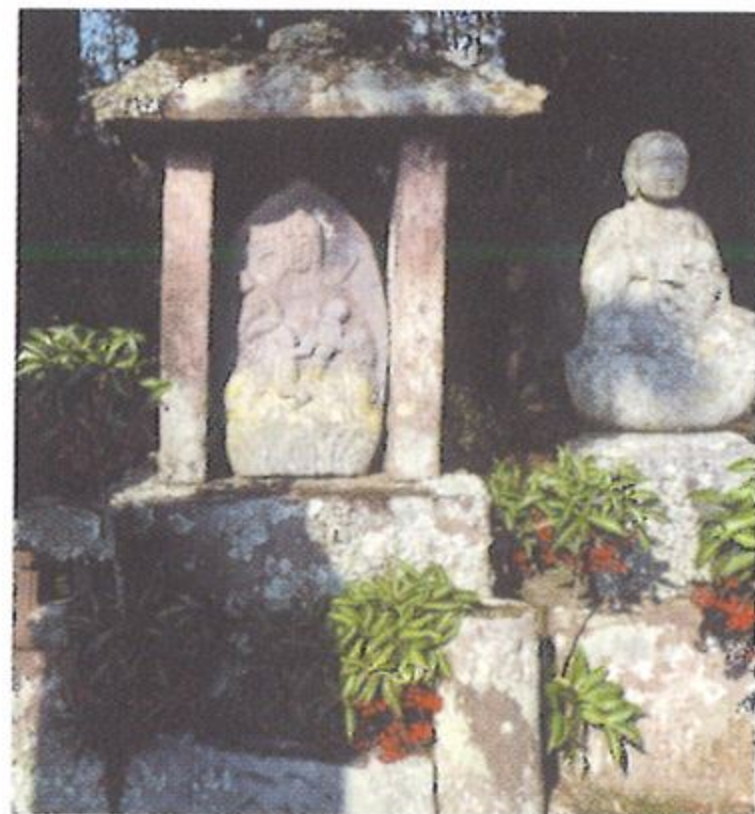
長沢台での肉用和牛の飼育



道の駅「ハピネスふくえ」



無人ヘリコプターによる害虫駆除



マリア観音像



大板山たたら太鼓

<歴史>

福栄の地名は、福川村と紫福村が合併して命名された名前です。室町時代には、大内氏滅亡により、多くのカトリック信者がこの地域に移り住んだと伝えられ、信者たちが残したと思われる墓標が数多く残されています。またこの福栄地域は、明治維新とのかかわりも深く、1843年(天保14)には、羽賀台というところで、維新改革の先駆けとなった長州藩の大操練が藩主毛利敬親の号令のもと行われました。特筆すべきは、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の資産として登録された「たたら製鉄遺跡」が現存しています。ここで作られた鉄は幕末に長州藩が建造した軍艦にも使用されたという記録があります。

<自然と産業>

福栄地域は、多くの火山性台地に囲まれており、起伏に富んだ地形をしています。そのため、古くから谷間や山の斜面を切り開き、水を引くための努力をくり返して耕地を増やしてきました。現在では、この地域の中心を流れる大井川の流域に沿って広々とした耕地が広がっています。

福栄地域は、古くから良質米の産地として知られていますが、内陸の山間地で昼夜の温度差が大きいいため、糖度の高い果実や野菜の栽培が可能で、メロン・ぶどう・白菜・キャベツなどの栽培もさかんに行われています。このほか、畜産では、長沢台生産組合が飼育している肉用和牛が「長萩(ちょうしゅう)和牛」というブランド名で販売され、一大産地となっています。シクラメンなどの施設園芸も行われています。また、地域の総面積の約80%を森林が占めており、その53%にあたるスギやヒノキなどの人工林の多くが利用できる大きさになっています。

平成9年には、道の駅「ハピネスふくえ」が完成しました。ここは、地域でつくられた新鮮な農産物や鉢花等の特産品を販売する直売所、イベントが行われる広場などが設置され、地域の住民、観光客などの相互交流の場として活用されています。

地域の課題は、主産業である農業における従事者の高齢化や担い手不足です。そこで、農作業の受委託調整等を推進することで、時代の変化に対応した新しい農業のしくみづくりを進めています。受託作業として、夏季の無人ヘリコプターによる農薬散布等の作業があります。農業担い手不足の対策としては、新しく農業に従事しようという意欲をもって福栄地域にやってきた人たちを地域ぐるみで支援する体制をつくるなど、積極的な取り組みを行っています。

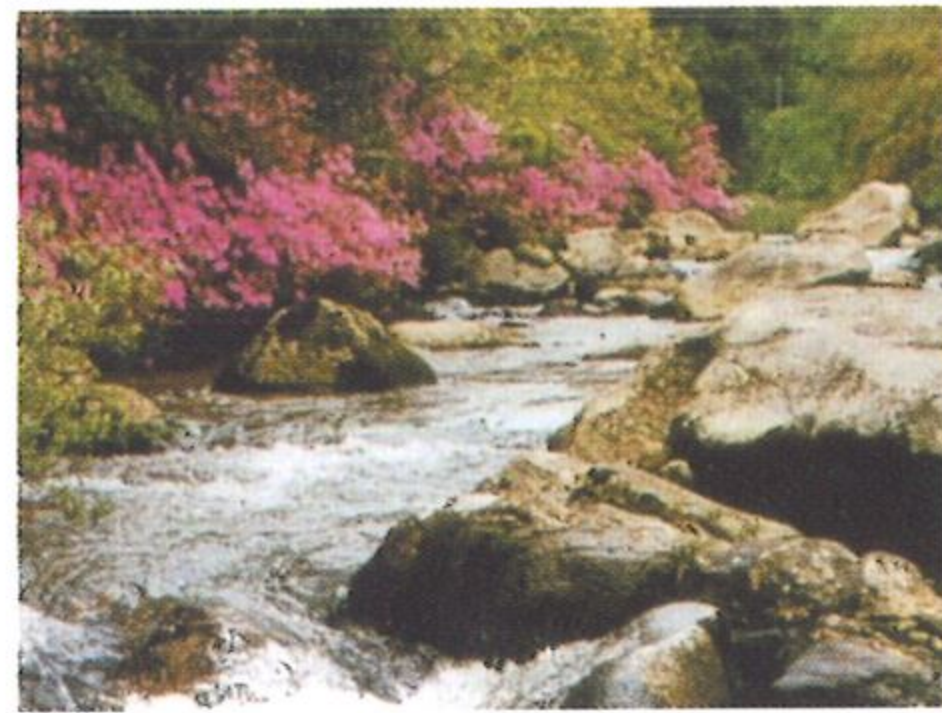
旭地域



萩往還（一升谷の石畳み）



上横瀬の棚田



佐々並川上流の岸つつじ



冬のようす



地域木材を活用した団地



萩アクティビティパーク

<歴史>

旭（明木村と佐々並村が合併して命名された名前）地域は、鎌倉時代から南北朝時代にかけて、断片的ながら文書に現れてきます。江戸時代の1635年（寛永12）に参勤交代が制度化され、藩主の江戸への往復や支藩主の出萩のために三田尻～山口～萩を結ぶ経路「萩往還」が整備され、明木・佐々並両宿は交通の要衝となりました。一升谷の石畳や長瀬一里塚をはじめ、多くの史跡が残されている「萩往還」は、平成元年に国指定史跡、平成8年に歴史の道百選に選ばれました。

<自然と産業>

旭地域は山口県のほぼ中央にあり、山口市、美祢市に境を接しています。面積の約90%を森林が占め、佐々並川と明木川によって形成された谷底平野に集落が点在しています。気候は寒暖の差が激しく、特に冬季は低温となり、寒さが厳しい地域です。

このような自然環境の中で営まれてきた農業は、米の単作経営を中心とし、少ない耕地面積で効率的な経営を行い、生産性を高めていく取り組みが続けられてきました。最近では、道の駅などの直売所を拠点として、少量多品目野菜の販売や化学肥料や農薬を減らした、健康と環境保全を重視した農業に取り組んでいる農家もあります。

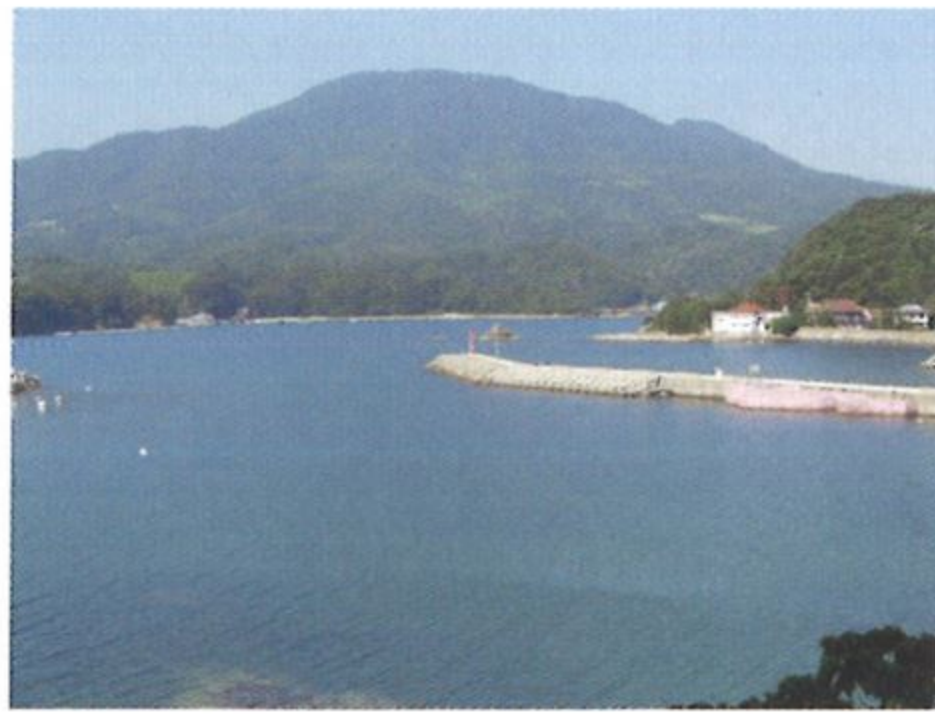
林業は地域の中核となる産業でしたが、木材価格の低迷や林業従事者の高齢化、後継者不足など、課題が多いのが実情です。立地は木材の育成に適しており、古くからスギ、ヒノキが育成されており、人工林の割合は44%を占め、その多くが利用できる大きさとなっています。

食料品製造業、陶器製造業などの地場産業は、個人事業主が主体のため、人口流出の防止や雇用確保のために、企業誘致に取り組んでいます。また、交流人口の増加を目的に、体験を主体とした「萩アクティビティパーク」の活用を呼びかけたり、宿駅のまちなみを活用した「明木・技展」を開催したりするなど、多方面から取り組んでいます。

須佐地域



畳岩 (砂岩と泥岩が重なる地層)



高山



畳ヶ淵



永代家老益田家屋敷



ロシア兵収容地記念碑



三原台の菊栽培

<歴史>

須佐の地名は、ヤマタノオロチを退治した神話で知られる須佐之男命すさのおのみことが、出雲の国から朝鮮半島に行こうとした時、須佐の山から海路を望んだことから、その山を神山こうやま（今は高山）といい、この地を須佐というようになったと伝えられています。

須佐が栄えはじめたのは、関ヶ原の戦い後、毛利輝元に従った益田元祥もとよしが家臣と共に石見国の益田から長門国の須佐の地に移り住んでからです。輝元は財政の立て直し等に功があった益田氏を永代家老とし、須佐は次第に町並みを整えながら発展しました。

益田元道もとみちは、1735年（享保20）郷校育英館を創り、儒教を中心に地元の教育に力を注ぎました。益田親施ちかのぶの時代になると、学舎の増築も行われ、遠方から著名人を招いて武芸の修行なども行われました。幕末には、吉田松陰との親交もあり、塾生の行き来が生まれました。1905年（明治38）日露戦争最後の決戦であった日本海海戦では、沈没した軍艦から脱出したロシア兵33名を法隆寺に収容し、救護しました。

<自然と産業>

須佐地域は、海岸部の須佐地区と山間部の弥富地区からなっています。海岸部には北長門海岸国定公園内にある須佐湾やホルンフェルス、山間部には六角形の敷石が並ぶ畳ヶ淵などの名勝があります。

おもな産業は、農業と漁業です。漁業では、従来はまき網等の漁業が中心でしたが、あじやいわし等の減少により現在はイカの一本釣りが中心となっています。そして、ケンサキイカのブランド化を推し進め、「須佐男命みこといか」として出荷販売の拡大を図っています。

農業では、稲作のみに頼る農業からの脱却を図るため、収益性の高い花（菊）の栽培を推し進めており、三原台にチャレンジ農場を設置し担い手の育成を図ってきました。そして、国内最大規模の単独施設の完成により菊の生産基地としての期待が高まっています。

また、地域の活性化のために、須佐地区では、古代米「赤米」の栽培、弥富地区では、「そば」の栽培に力を入れており、「赤米フェスタ」「そばの花祭り」等のイベントを開催したり、特産品として販売したりしています。

田万川地域



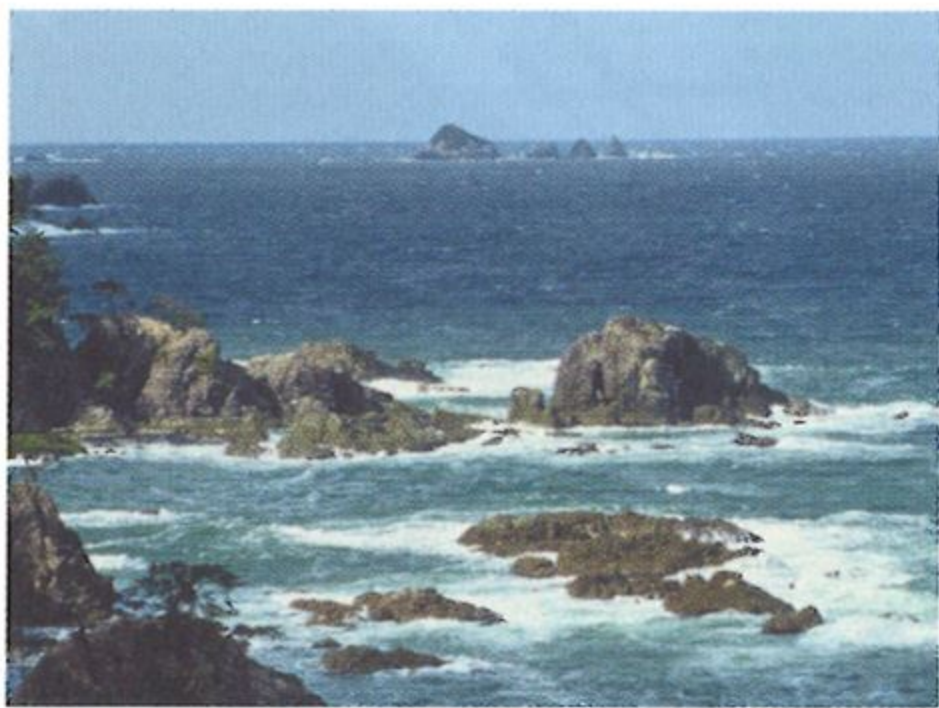
西堂寺



龍鱗郷



小川なし



北長門国定公園



田万川中学校



田万川温泉

<歴史>

5世紀頃に作られたとされる須佐地古墳があり、この頃から人が集まり始めたものと考えられます。大井の円光寺古墳やむつみ地区にある穴観音古墳と同様の古墳も見られ、これらの地域とのつながりも考えられます。田万・小川の地名は延喜式に見ることができ、現在の田万川の呼称も、この2つの地名に由来しています。室町時代末における吉見氏・益田氏の領有争いのあとが出城・山城として各地に見られます。江戸時代には、北前船の寄港地としても知られるようになりました。また、四境戦争の石州口の戦いでは、大村益次郎らが活躍した舞台ともなっています。1955年(昭和30)、いわゆる「昭和の大合併」で江崎町と小川村が合併し、田万川町が誕生しました。

2003年(平成15)多磨中学校と小川中学校が統合し、田万川中学校が新設された時には、山口県初の教科教室型校舎が建設され、県内外の注目を集めました。

<自然と産業>

田万川地域は、山口県の最北端に位置し、東は島根県益田市・津和野町と、南と西は須佐と接しています。北は日本海で北長門海岸国定公園の一角をなすリアス式の奇岩に富んだ美しい海岸線となっています。

地域内は、田万川・江崎湾の2つのカルデラによって、周囲の台地が形成され、伊良尾山(阿武町)の噴火によってできた柱状節理が見られます。また、中央部を地域と同じ名前の田万川が北流し、山・丘陵・平地・川・海と変化に富んだ地形が続きます。海岸部では、釣り場や海水浴場・キャンプ場などもあり、観光客も訪れます。

産業は、自然を活かした第1次産業がさかんで、海岸部では水産業が、山間部では林業・果樹栽培が主として行われています。

水産業では、アジなどの活魚漁のほか、ちりめんじゃこ・いりこといった水産加工もさかんに行われています。

山間部には、標高150~270mのところ平山台果樹団地があり、年平均気温16℃、年間降水量1,950mmの条件を生かして、もも・なし・くり・ぶどう・リンゴ等が栽培されています。特に、ももは、県内最大産地となっています。最近は出荷だけでなく、観光農園も開かれており、観光資源としても注目されています。

2 人口のようす

(1) 萩市の人口の推移

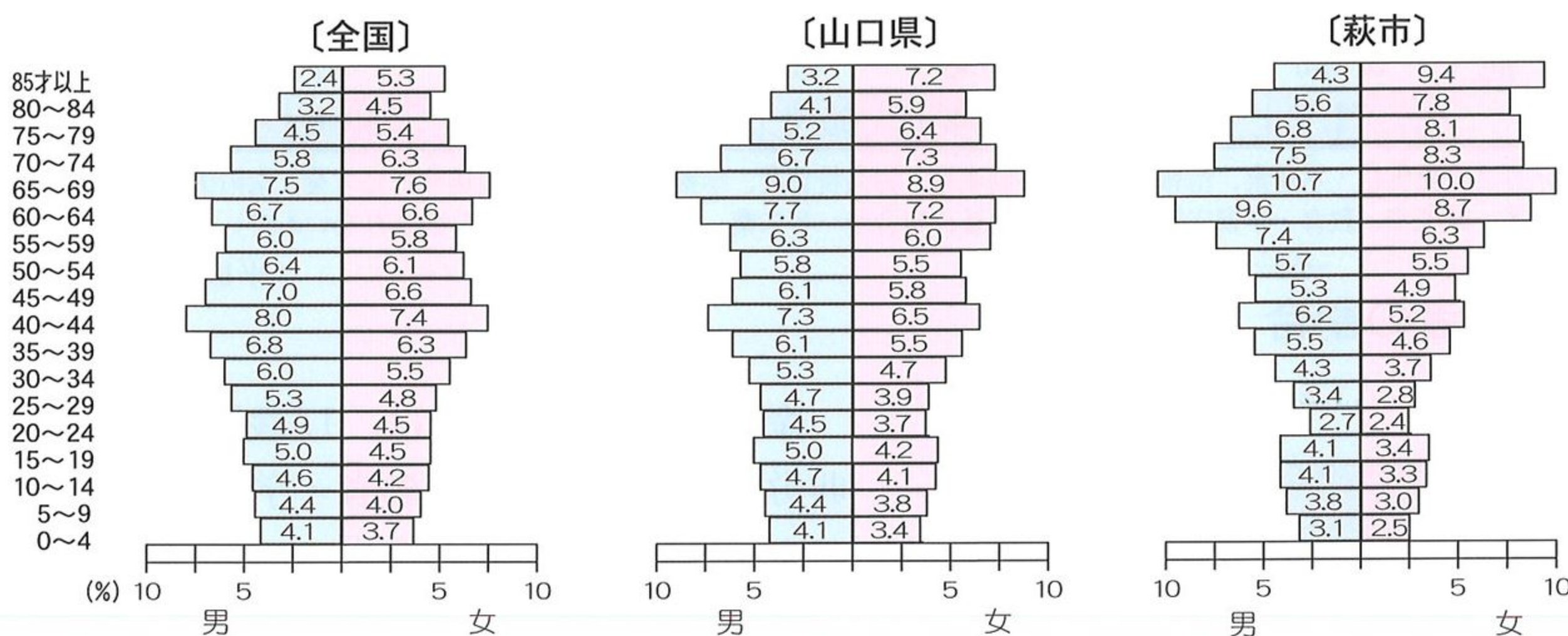
1 萩市の人口 (2018年8月31日) (単位:人)

	総数	男	女
合計	47,925	22,111 (46.1%)	25,814 (53.9%)

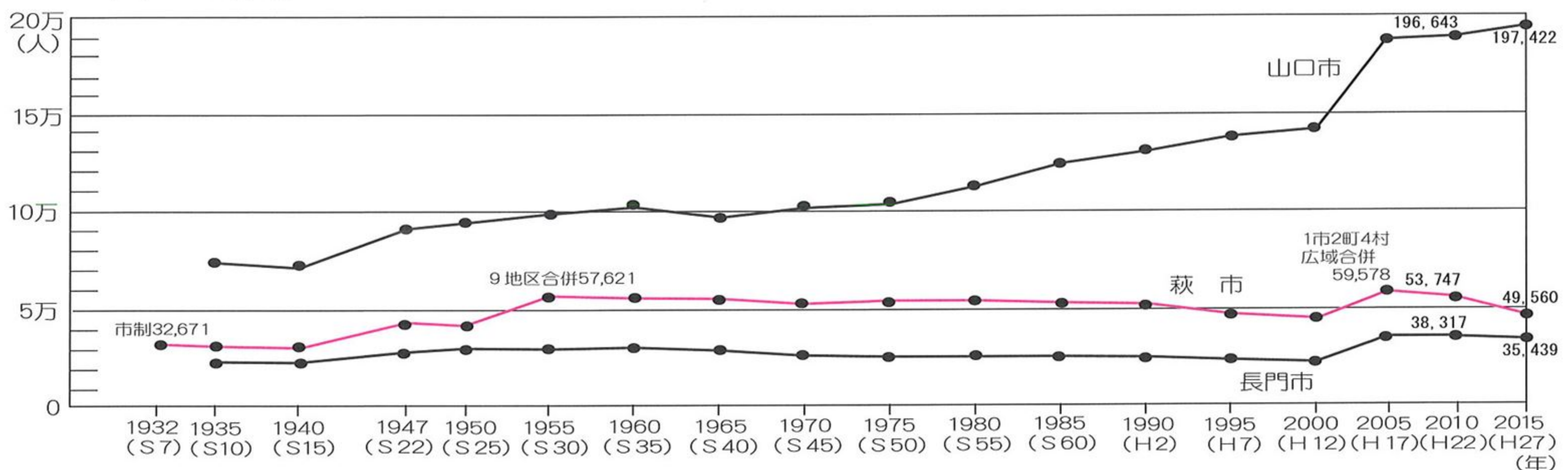
○ 地域別人口 (2018年)

地域名	人口	地域名	人口
萩地域	37,186	須佐地域	2,517
川上地域	836	旭地域	1,590
田万川地域	2,629	福栄地域	1,717
むつみ地域	1,450		

○ 人口ピラミッド「5歳階級男女別分布」(平成27年 国勢調査)



2 人口の推移



※資料提供：萩市役所総合政策部企画課統計係

萩市が1932年(昭和7)に市政をしいた時の人口は32,671人でした。1955年(昭和30)、近隣の9地区が合併した時、57,621人となりピークを迎えますが、以後徐々に減少し、1995年(平成7)の国勢調査ではついに5万人をわかりました。2005年(平成17)に、川上村、田万川町、むつみ村、須佐町、旭村、福栄村の1市2町4村が広域合併し、新萩市の人口は59,578人になりましたが、その後も減少傾向は続いています。

人口ピラミッドは、その形から国や地域の年齢別の人口構成の特色が読み取れます。日本は、第二次世界大戦までは典型的な「富士山型」でしたが、戦後出生率・死亡率が低下したことにより「つりがね型」となり、自然増加の著しく少ない状態が続き、「つぼ型(紡錘形)」となりました。

萩市は人口流出が多く、20~30歳代が少ない「ひょうたん型」と読み取れますが、ひょうたんの上部がふくらんだ「逆さひょうたん型」といえます。近年の少子高齢化を反映した形であり、将来的には、さまざまな問題が出てくることが予想されます。

(2) 産業別人口

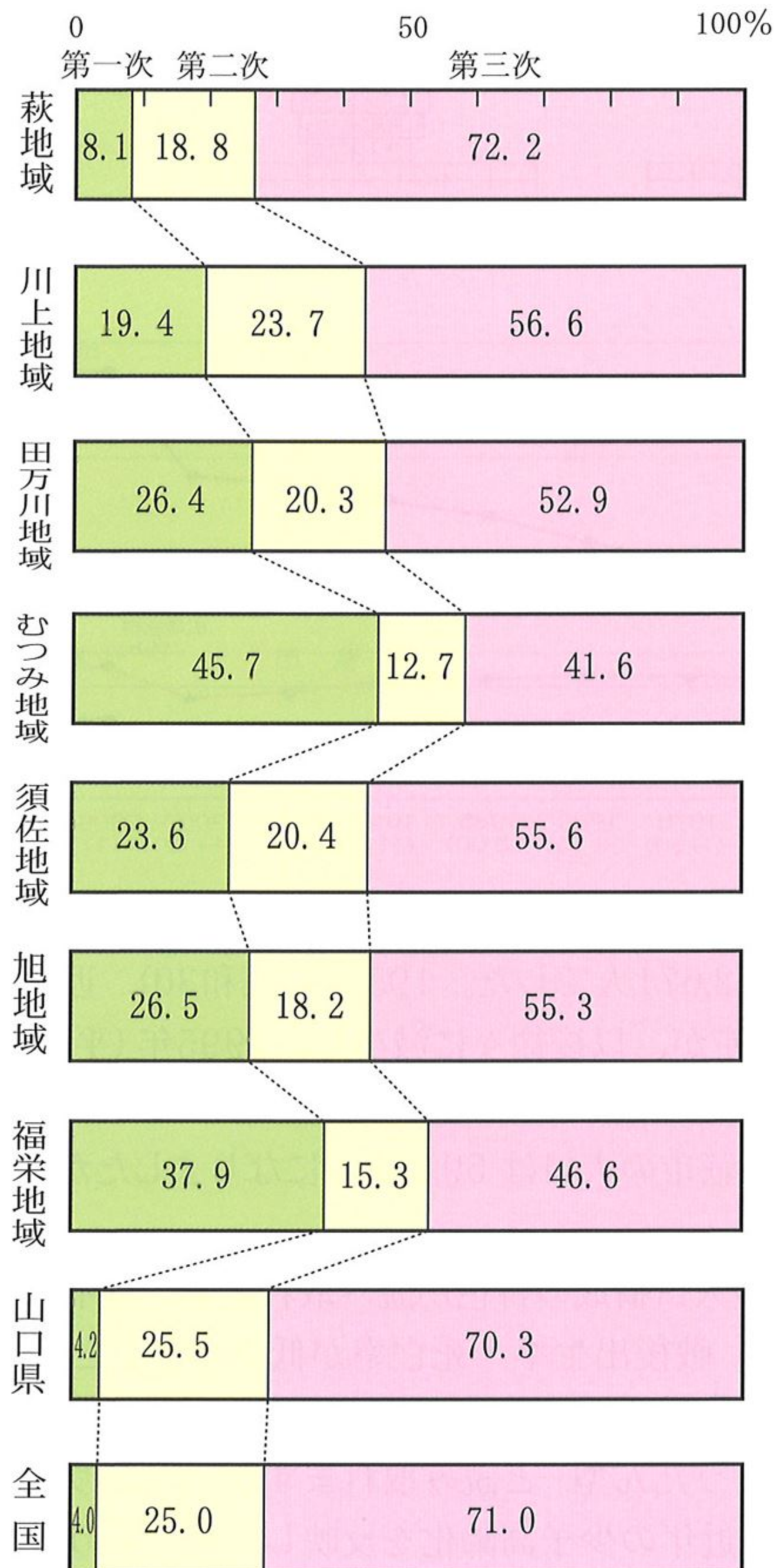
1 産業別人口 (15歳以上)

※各年度：国勢調査
※資料提供：総合政策部

調査対象	全国(千人)	山口県(人)	萩地域	川上地域	田万川地域	むつみ地域	須佐地域	旭地域	福栄地域	
15歳以上の就業人口	58,919	645,035	18,844	438	1,363	840	1,287	835	979	
第一次産業	農林業	2,068	27,149	861	85	304	382	241	221	369
	水産業	154	3,862	670	0	56	2	63	0	2
	%	4.0	4.2	8.1	19.4	26.4	45.7	23.6	26.5	37.9
第二次産業	建設業	4,341	57,235	1,623	48	116	60	141	87	77
	製造業	9,557	107,396	1,911	56	160	45	122	65	73
	%	25.0	25.5	18.8	23.7	20.3	12.7	20.4	18.2	15.3
第三次産業	卸売小売	9,001	99,231	3,131	49	174	67	150	101	100
	金融関係	1,429	12,856	382	3	9	1	16	7	8
	運輸通信	3,045	34,085	852	14	39	28	36	28	17
	※サービス	20,924	260,844	8,311	131	454	218	471	278	300
	その他	5,188	41,957	1,098	25	51	35	47	48	33
	%	71.0	70.3	72.2	56.6	52.9	41.6	55.6	55.3	46.6

※サービス：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、複合サービス業、サービス業（他に分類されないもの）等
(平成27年国勢調査)

2 産業別就業者の割合



(平成27年国勢調査)

産業別就業者の割合は、15歳以上の人口から非労働力人口（主に高齢者・学生）をひいた人口をもとに表した比率です。

上の統計資料から、萩市全体では、第一次産業に従事する人口は13.2%で、全国、山口県と比較して、かなり高いことがわかります。これは、昔から萩市は、農業、漁業、林業が産業の中心であったからです。とくに、むつみ地域、福栄地域はその割合が高いことが、左のグラフからわかります。

また、第二次産業の比率、とりわけ製造業の比率が低いというのが特徴です。これは、萩市に工業製品をつくる企業が少ないからだといえるのですが、その原因として、工場を誘致する土地や、高速交通網等の環境が整っていないためと考えられます。

また、第三次産業の割合がどの地域においても高いことがわかります。これは、観光地特有の宿泊業や飲食業、遊戯・娯楽業の増加が原因と考えられます。また近年では、社会福祉施設が増加し、医療や福祉関連の産業の伸びが注目されます。第三次産業は、全国的に高い割合を占めており、萩市においても、今後さらに伸びていくことが予想されます。

3 産業や生活のようす

(1) 農業

萩市は農業がさかんな地域です。米の他にも野菜や果実、工芸作物 ※1 の生産が目立っています。特産物としては、萩市のシンボルともいえる夏みかんを始め、後述するさまざまな物が挙げられます。しかし近年は、他地域同様、農家数や就業者数が激減し、後継者不足が深刻になってきています。

※1 工芸作物とは、収穫した後、加工して利用される農作物のことをいいます。たとえば、「葉たばこ」、「こんにゃく」、「サトウキビ」、「薬用にんじん」などがあります。

1 水稻

萩市内で農地の約7割を占めているのは水田です。数多くある作物の中で、水稻は市内全域で作付されており、売り上げも一番です。山口ブランド米の中心産地として中山間地域では、「コシヒカリ」を中心に、沿岸部では「ヒノヒカリ」「ひとめぼれ」の作付を推進しています。



紫福稲刈り



※2 カントリーエレベーター

※2 カントリーエレベーター：稲刈りをした「もみ」を乾燥・調整しサイロに保管します。お米が必要な時にもみ摺りをして出荷するため、新米とほとんど変わらない品質を保ち、栄養分の損失、脂質の酸化をおさえ、微生物の発生や害虫の発生を防ぐことができます。

2 大島のたばこ畑



大島のたばこ畑

乾燥機

葉たばこは4月頃に定植し、6～8月にかけて収穫されます。収穫された葉たばこは、100～120℃の火力乾燥作業を行った後、日本たばこ産業（J T）に納入されます。

3 トマト（むつみ地域）

平成17年に阿東町（現山口市）と萩市の夏秋トマト産地が統合して、中国山地最大級の産地となりました。品種は「桃太郎エイト」「桃太郎ファイト」等があり、「山口あぶトマト」のブランドで県内外の市場へ出荷されています。



トマト（桃太郎）



選果風景

4 田万川地域平山台の果樹栽培



選果風景



実り



選果場

県内外との産地間競争に向けて、品質向上のために、以下のような努力をしています。

- たい肥と土壌改良資材の施用を行い、土づくりを行っています。
- 糖度の高い桃・なしを作るため、無袋栽培に取り組んでいます。
- 平成16年産より選果機を一新し、果実に識別記号を印字して、生産履歴等の情報開示に努めています。

作業内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
 桃	●●● 〔剪定〕	●● 〔剪定〕	▲▲ 〔摘蕾・摘花〕	〔開花〕 ◎ ▲ 〔摘花〕	▼▼▼ 〔摘果〕	▼▼▼ 〔摘果〕	〔収穫・出荷〕 安定出荷期					

(2) 漁業

1 萩市の漁業の概要

萩市の漁業は、日本海の良い漁場に恵まれ、古くから沿岸の漁業とともに、東シナ海などのトラフグを中心とした遠洋延縄（はえなわ）漁業の基地として栄えてきました。近年、外国漁船との漁場の競合や資源の減少などにより遠洋延縄漁業は撤退しました。しかし、萩市では、沿岸で年間を通して多種多様な漁業が営まれており、山口県で、もっとも沿岸の漁業がさかんな地域となっています。

漁業種類は、おもに須佐、大井湊地区のイカ一本釣り漁業、越ヶ浜地区のフグ、アマダイ延縄漁業、大島地区のアジまき網漁業、小畑地区のタイ、ヒラメなどの底引き網漁業、大井浦、相島、見島地区などのアワビ、サザエなどの採介藻漁業、定置網漁業などがあります。また、阿武川、大井川、田万川ではアユ漁が営まれています。市場に水揚げされる魚の種類は、マアジ、ケンサキイカ、アマダイ、トラフグ、イサキなど約100種類になります。特に、「萩の瀬つきあじ」、「萩のあまだい」、「萩のけんさきいか」、「萩の真ふぐ」及び「萩の金太郎」は日本海・萩沖の逸品で、萩のブランド魚として知られています。近年、萩市の「八里ヶ瀬」（対馬暖流をさえぎるような延長22 kmの海底山脈）漁場は、錨を降ろして、220kgから300kgのクロマグロの一本釣りができる漁場として、全国的に知られるようになりました。

しかし水揚げは、漁業資源の減少などにより年々減少しており、漁業を取り巻く環境は厳しくなっています。そのため、水産関係者が一体となって、漁礁の整備や稚魚の放流など漁業資源を増やすための事業などを進めています。



明け方、漁船から卸売市場に次々と魚が水揚げされていきます。水揚げされた魚は一匹ずつ手作業で種類別に仕分けされます。

2 年間水揚げの推移

(単位: t、万円(税抜))

年次	区分 地域	計		魚 類		貝 類		水産動物		藻 類	
		数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
平成25年度	萩 地 域	5,496	310,479	4,562	225,913	546	40,465	385	43,500	3	601
	田万川地域	158	18,851	120	15,150	17	1,729	21	1,969	0	3
	須佐地域	141	15,280	67	3,270	12	1,431	61	10,447	1	132
平成26年度	萩 地 域	5,716	328,172	4,539	227,337	651	48,114	523	52,241	3	480
	田万川地域	174	18,815	141	15,570	17	1,698	16	1,542	0	5
	須佐地域	143	15,195	76	4,181	13	1,502	54	9,453	0	59
平成27年度	萩 地 域	5,698	334,516	4,463	227,013	597	48,080	636	59,010	2	413
	田万川地域	132	20,916	83	16,507	21	1,906	27	2,504	0	0
	須佐地域	160	18,438	66	3,849	9	1,266	84	13,283	0	40
平成28年度	萩 地 域	6,398	333,409	5,573	248,468	392	34,074	431	50,471	2	396
	田万川地域	158	18,848	126	15,903	16	1,226	16	1,718	0	0
	須佐地域	126	13,553	68	3,930	7	902	51	8,722	0	0
平成29年度	萩 地 域	5,481	300,706	4,701	222,944	394	32,652	383	44,603	2	507
	田万川地域	296	26,475	250	22,179	14	998	33	3,297	0	0
	須佐地域	112	11,736	61	2,908	6	763	45	8,065	0	0

資料:市水産課

3 山口県漁協萩地方卸売市場



車両の乗り入れ防止（段差）と靴底消毒用プール

2001年（平成13）、萩市と阿武郡の14の漁業協同組合が合併して、山口はぎ漁協が誕生しました。

2002年（平成14）、漁協は山口はぎ水産物地方卸売市場（現在の山口県漁協萩地方卸売市場）を整備し、市場の運営、魚価の安定に努めてきました。

さらに2005年（平成17）、県内の漁協が合併し、山口県漁協が誕生すると、山口はぎ漁協は、山口県漁協・山口はぎ統括支店となりました。

この市場は、消費者に安心・安全な水産物を供給するため、鳥の侵入防止対策、市場内への一般車両の進入防止策、車両消毒施設や海水ろ過・殺菌装置の設置など、県内ではもっとも衛生管理体制に配慮した市場となっており、先進的な取り組みとして全国に紹介されています。

4 萩の春の風物詩「シロウオ漁」



シロウオは、体長5 cmほどのハゼ科の魚です。春の訪れとともに産卵のために川に上がってきます。

四手網（よつであみ）を使った伝統的な漁法で漁獲されます。

春に行われる「萩・しろ魚まつり」では、シロウオを生きたまま水洗いして「すいち（酢醤油）」につけて食べる「おどりぐい」の無料サービスや、シロウオを使った雑炊やうどんなどの料理を楽しむことができます。また、四手網を使った漁を体験することもできます。

漁業地域別就業者数および年齢構成

単位：人

漁協地区名	計	19才以下	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70才以上
江崎	63	—	—	—	5	4	25	29
須佐	65	—	—	1	2	12	27	23
大井湊	56	—	—	3	—	7	22	24
大島	189	3	22	33	28	48	34	21
萩越ヶ浜	143	—	4	7	14	23	51	44
萩小畑	71	—	3	6	8	18	25	11
萩萩	62	—	—	3	3	20	19	17
玉江浦	48	1	—	5	3	2	10	27
三見島	48	—	1	2	5	1	11	28
見島津	76	—	—	1	3	9	33	30
宇津	53	—	—	—	—	10	33	10
その他地域	28	—	—	—	—	6	11	11
萩市合計	902	4	30	61	71	160	301	275

（資料：2013年漁業センサス 山口県の漁業）

(3) 林業

1 萩市の林野のようす

萩農林事務所管内（萩・阿武）の平成26年度の森林総面積は66,339 haで、林野率は、山口県内にある8つの農林事務所の中で、一番高い82%となっています。また、萩市の森林総面積は56,562 haで、林野率は81%です。

萩市の森林の内訳を見てみると、国有林428 haに対して私有林56,134 haとなっています。私有林の内容を詳しく見てみると、私有林が45,158 ha、さらに私有林のうち個人所有林が34,312 haとなっており、個人所有林が多いという萩市の林野の特色がわかります。また、萩市の私有林のうち人工林が占める割合は45%で、スギ、ヒノキ、マツ類、広葉樹などが植林されています。

[平成28年度山口県森林・林業統計要覧]

※林野率：総土地面積に占める林野の割合、1 ha=10,000m²

2 林業の仕事

林業には、苗木生産、造林、素材生産、製炭、特用林産物生産などさまざまな仕事があります。山から木材を切り出す仕事は、基本的に年間を通じて行いますが、9月から翌年3月までの7ヶ月間が最も適しています。

林業の仕事は、「森林を守り、育て、未来の森林をつくっていくことです。」



【季節ごとの仕事の流れ】

春	<ul style="list-style-type: none">○ 苗木を山に植え付ける。(植 栽)○ 冬の間降り積もった雪の重みでしなった木々を引っばって元に戻す。(雪起こし)
---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

夏	<ul style="list-style-type: none">○ 植え付けた木の間で茂った雑草を刈り取ったり、木の幹にからんだつるを切る。(下刈り・つる切り)
---	--------------------------------------------------------------------------------------------------

秋	<ul style="list-style-type: none">○ まっすぐに良質な木を育てるために余分な枝を切る。(枝打ち)○ 木へ日の光を十分にあたえるために余分な木を切る。(除間伐)
---	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

冬	<ul style="list-style-type: none">○ 木へ日の光を十分にあたえるために余分な木を切る。(除間伐)○ 立木を切り倒した跡地を整理して、植栽ができるように準備する。(地ごしらえ)
---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) 商業



買い物客でにぎわう市の中心部



街の中にあるコンビニエンス・ストア



観光客の多い土産店



古風な萩焼販売店



郊外に広がる店舗

城下町として発展してきた萩市は、今も「樽屋町」「米屋町」「塩屋町」など、昔ながらの地名を残しています。江戸時代の商業の中心は、現在の呉服町周辺であったといわれています。以後、東田町周辺へ移ってきました。最近では広い駐車場をもつ大規模な小売店が進出し、その周囲には多くの専門店が集まり、商業の中心地となっています。また、24時間営業のコンビニエンス・ストアも進出し、スーパーの中にも24時間営業する店舗もでてきました。

漁業がさかんな萩市は、新鮮な魚介類や塩干物、伝統工芸の萩焼を販売する店舗が多いことが特色です。これらの店舗の中には、大型バスが入る広い駐車場をもつ観光客めあての店舗や工場を一体化し、工場内を見学できるような店舗も少なくありません。自動車の普及とともに商業も大きく様変わりしてきたといえます。また、伝統的建造物が多く残る堀内地区では、周囲の景観を配慮した古風な萩焼販売店や喫茶店もあります。



現在の田町商店街のようす

田町商店街の方にインタビュー



田町イベント広場

田町商店街は昭和の時代、萩市の中心商店街として繁栄してきました。1987年に第二回目のアーケードを設置して、カラー舗装とイベントホール等を新設し、お客様が便利に買い物ができる様にしました。しかしながら、市内に新しい道路ができ、大型店が進出して商業地が分散し、競争も激しくなっています。商店街としても夏の土曜夜市、七夕祭り、萩・田町萩焼祭り、スタンプセール、駐車場の整備等々努力しており、少しずつですが新しい店舗や若い人が出店し、商店街も新たな時代に入ってきています。



1980年頃までは、田町商店街は買い物客でにぎわっていました。しかし、大規模な小売店の進出により閉店する店舗も増えてきました。そのため、田町商店街は復興のための努力をしていますが、アーケードという立地条件のもとでは大幅な改装や店の拡張が難しいなどの問題も多くかかえています。また、土原商店街も市の中心部にあるものの、閉店したり、大規模小売店内の一角に店をかまえるなどの傾向があります。理由としては田町商店街と似た面があり、復興が期待されています。

このように、萩市の商業は観光業を軸にしながら、市民のニーズ（要求）にも対応しているという両面をもっているといえます。この傾向は今後も続くものと思われ、同時に活性化に向けてさまざまな取り組みをしている田町商店街の復興も市民に期待されています。

(5) 工業



さかな水産加工業



柑橘類の加工場



夏みかん加工製造のようす



代表的な水産加工製品「かまぼこ」

水産業や観光業が中心であるため、工業はかまぼこなどを製造する水産加工業や土産品の製造が主です。生産から販売を一体化した観光客めあての大規模な水産加工業の店舗もあります。「えそ」を使ったかまぼこは絶品で県内を中心に販売されています。また、「萩の焼き抜きかまぼこ」は元祖といわれ、初代藩主毛利秀就の時代から、萩名産の一つです。道の駅「しーまーと」では水産加工品だけでなく新鮮な魚介類が販売されており、観光客だけでなく地域の人々も多く利用し、いつもにぎわっています。

夏みかんと土塀は萩の象徴です。萩市はわが国で初めて夏みかんの経済栽培をし、産業の中心として発展してきました。現在、夏みかんの栽培は以前に比べて下火となったものの、夏みかん畑は市内の各所に見受けられます。加工品の中でも丸漬け、ジュース、マーマレードなどは全国的に有名で、東京や大阪の大都市や遠くは東北地方へも出荷している企業もあります。

山陽側とは異なり、萩市は原材料や、製品の輸送に不便なため、重工業はあまり発達していません。第二次産業に従事している人口の割合が少ないのも、このためです。高速交通網が整備されると、先端工業の進出などが期待され経済の活性化につながっていくものと思われます。

(6) 伝統産業「萩焼」



職人による萩焼づくり

萩焼の歴史

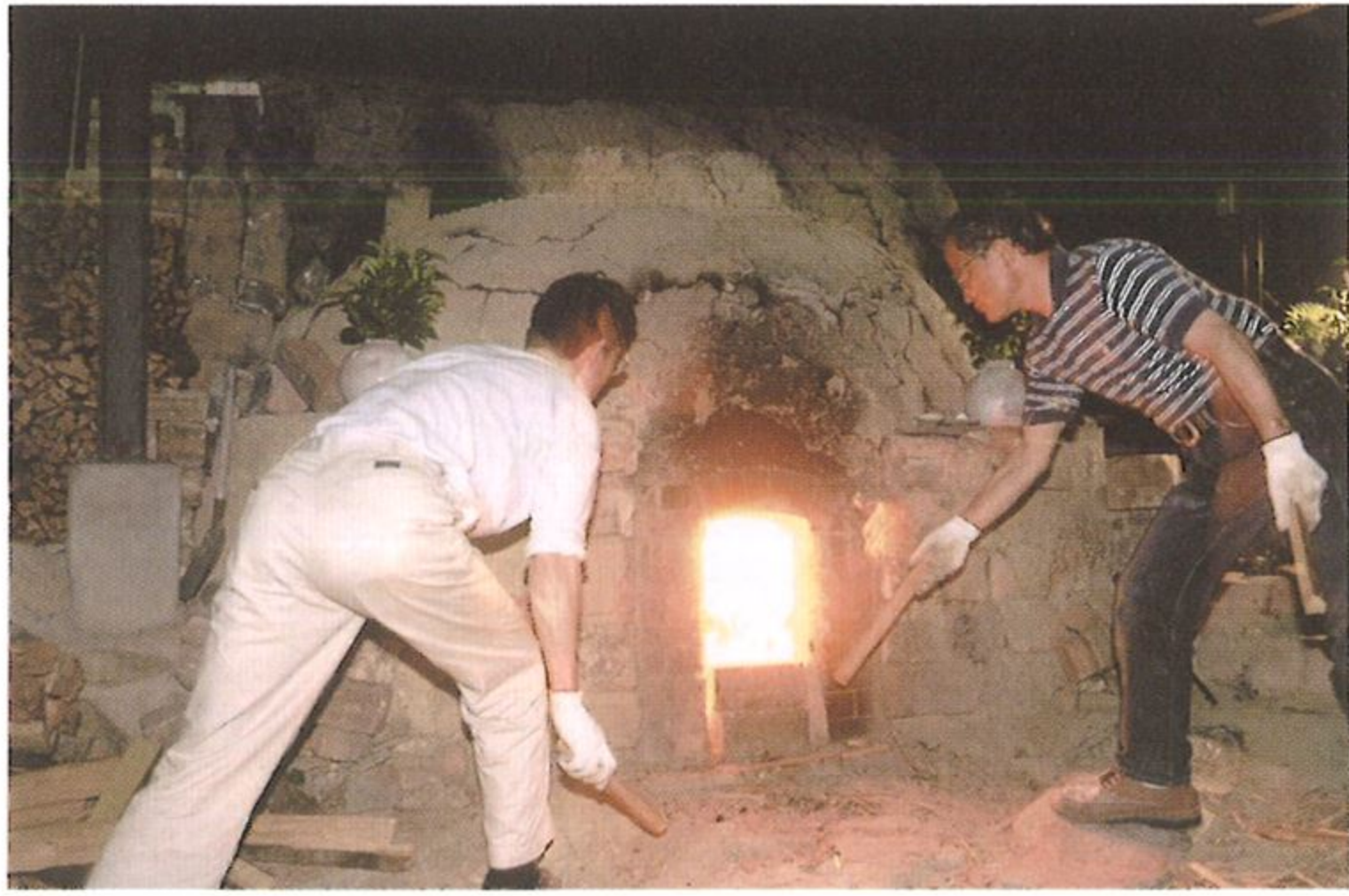
1593年(文禄2)	朝鮮の陶工「李勺光」が日本に連れて来られる。
1604年(慶長9)	この頃松本中ノ倉に李勺光・李敬が藩の御用焼き物所を開窯する。
1625年(寛永2)	李敬(日本名:坂助八)は藩主より「坂高麗左衛門」の名をたまわる。
1663年(寛文3)	三輪忠兵衛利定(初代の三輪休雪)が藩に召し抱えられる。
1717年(享保2)	この頃から大道土(防府市の土)が萩焼に用いられるようになる。
1956年(昭和31)	山口県指定無形文化財萩焼保持者として、12代坂倉新兵衛、10代三輪休雪が認定される。
1970年(昭和45)	三輪休和(10代休雪)が重要無形文化財萩焼保持者(人間国宝)に指定される。
1982年(昭和57)	吉賀大眉が芸術院会員となる。
1983年(昭和58)	三輪壽雪(11代休雪)が重要無形文化財萩焼保持者(人間国宝)に指定される。
1990年(平成2)	吉賀大眉が文化功労者に選ばれる。
1993年(平成5)	萩陶芸家協会が設立される。
2000年(平成12)	「萩焼400年展」パリで開催。
2001年(平成13)	「萩焼400年展」東京、京都、福岡、萩で開催。
2002年(平成14)	萩焼が国の伝統的工芸品に指定される。
2010年(平成22)	伝統的工芸品月間国民会議全国大会が萩市で開催される。
2017年(平成29)	「茶陶の現在-2018萩」展を山口県立萩美術館・浦上記念館で開催。

「一楽二萩三唐津」という有名な言葉があるように、萩焼はわが国屈指の焼き物です。色などで飾り立てることもなく、火で焼かれた土の色合いという素朴さが特徴です。表面はつややかで淡紅色を帯び、枯淡さと重厚感にあふれています。茶器・酒器・花瓶等が作られていますが、特に茶器が優れ、使えば使うほど細かいひび割れに茶がしみ込み、しだいに色に変化していきます。これを「七化け」とよんでおり、萩焼の魅力になっています。

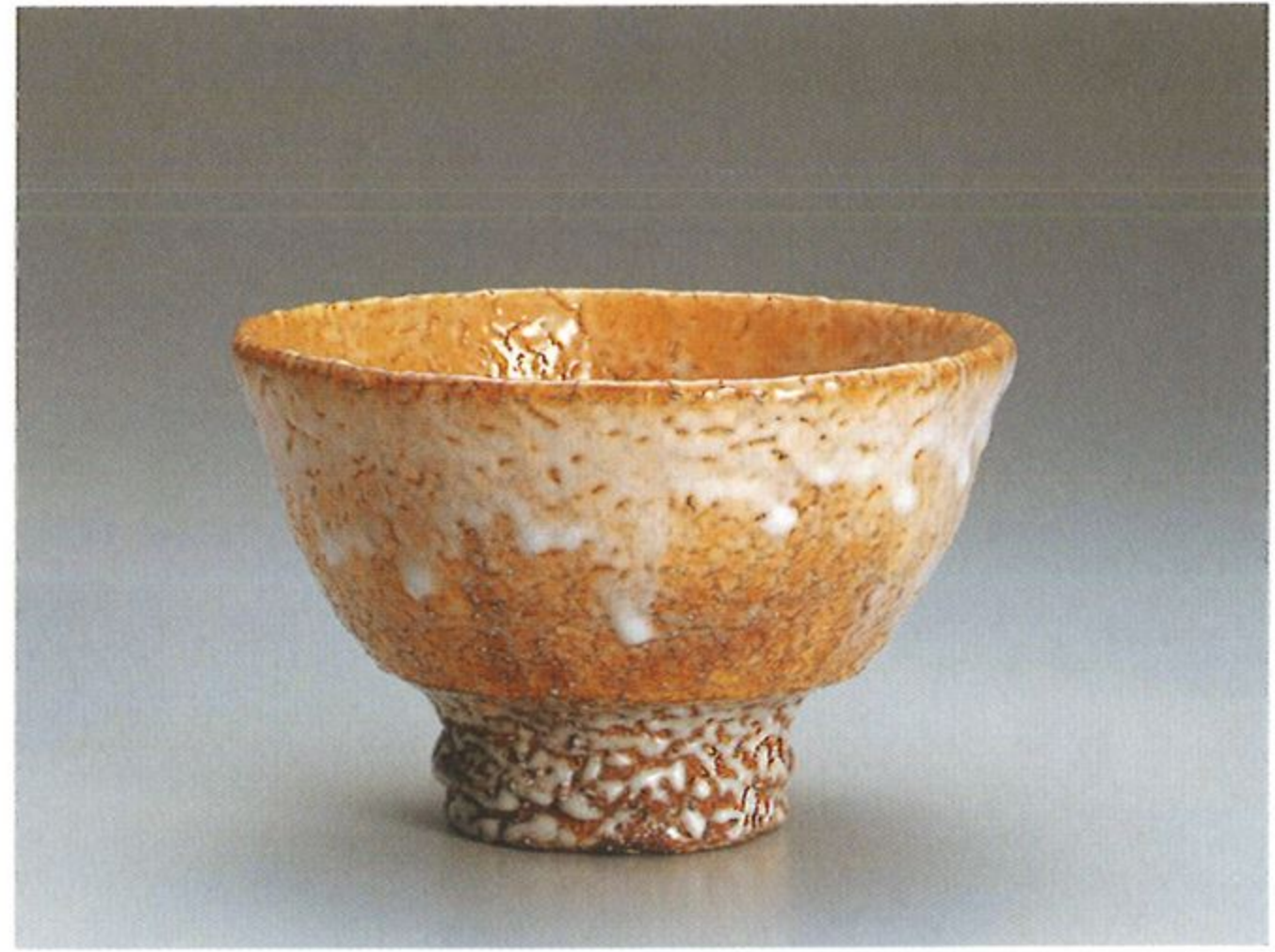
萩焼発祥の地である松本中ノ倉で焼かれたものを「松本焼」と称し、後に設けられた長門深川三之瀬の窯で焼かれたものを「深川焼」と称し、さらに近年になって両者を「萩焼」と称するようになりました。藩の御用窯であったため、一般庶民に普及するのは後のこととなります。

明治になり、藩の保護が断ち切られた旧御用窯は苦境に立たされました。また、瀬戸や有田で陶磁器の大量生産が開始されたことや、明治以降の不況にも見舞われ、第二次世界大戦が終わるまで、萩焼にとって苦しい時代が続きました。

戦後、昭和30年代の高度経済成長のもとで、国民の生活にも少しゆとりがでてきました。茶道の広まりに伴う萩焼の需要の増大は、萩焼ブームを巻き起こし、萩市内の窯元もにわかに増え続け



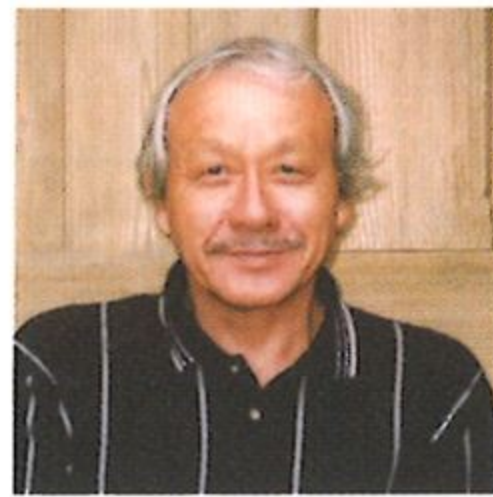
登り窯のようす



できあがった作品

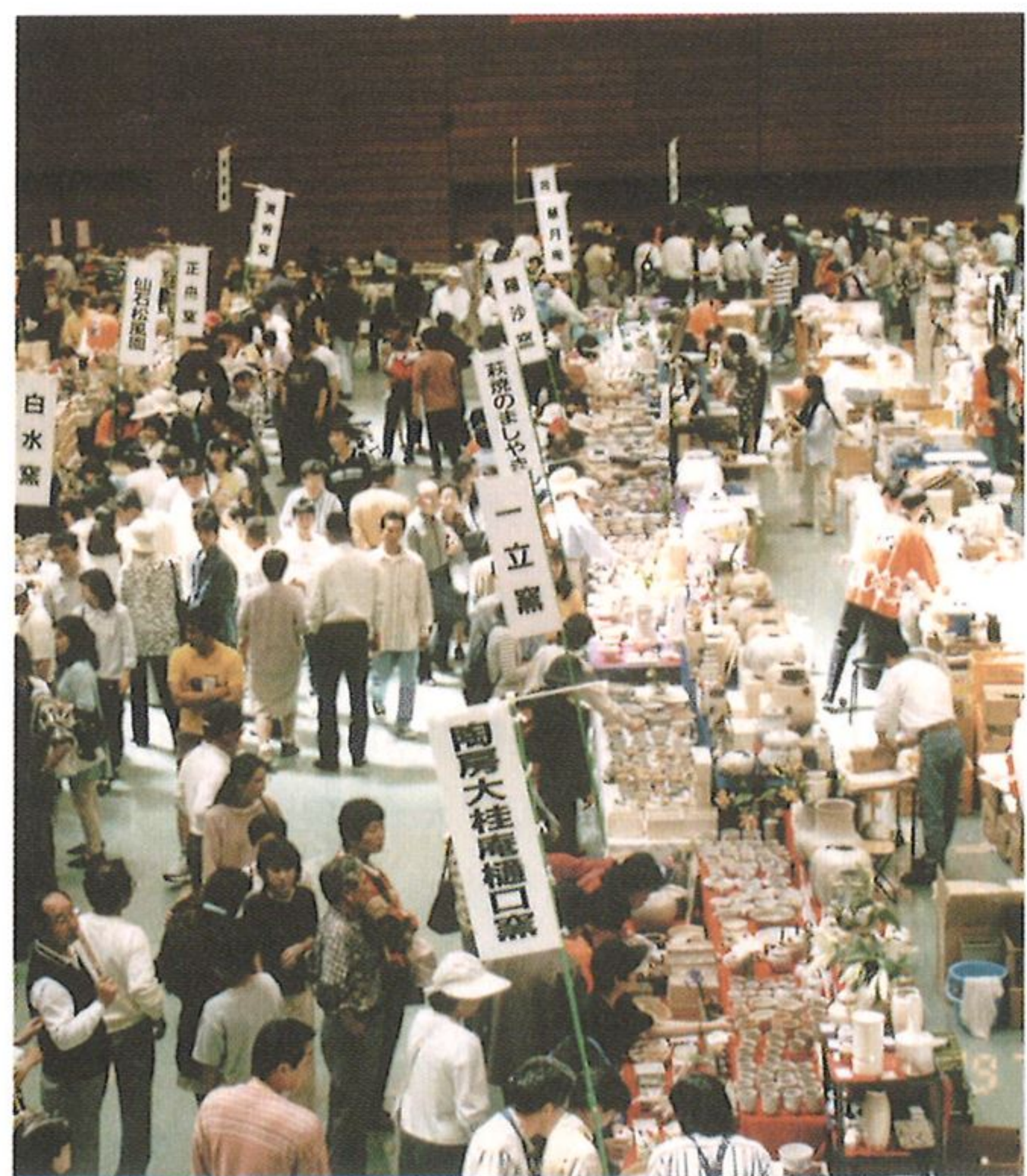
萩焼の陶芸家にインタビュー

萩焼独自の土味を生かしながらも、自分なりの「かたち」を創り上げ、釉薬を含めた炎の妙味の追求を心がけています。



萩焼の陶土は、焼き上がるまでに約20%収縮します。中でも、砂入りの陶土（鬼萩土）は特に粘り気も少なく、ロク口形成では熟練を要します。また、焼き上げる際の炎のあたり具合で発色も異なります。特に、登り窯は、その日の風の方向や強さ、湿度などでも焼き上がりが左右されるので注意が必要です。今まで100回以上登り窯を炊きましたが、一度も同じ条件で炊き終えたことはありません。いつも、神に祈りつつ、火を入れています。

今後、生活に即した新しい用（実用性のあるもの）の美も求めていきたいと思っています。



萩焼まつりのようす

ました。このような萩焼人気と萩焼市場の拡大を支えたのが、技術の向上をめざす陶芸家の人たちの取り組みでした。

1970年（昭和45）には、萩焼が国の重要無形文化財に指定され、その技術保持者（人間国宝）として三輪休和（10代休雪）が認定されました。三輪休和は、萩焼の源流である高麗茶碗の研鑽を深めることで独自の世界をつくり、茶陶としての萩焼の評価をゆるぎないものにしました。また、三輪壽雪は、伝統を受け継ぎながらも、すぐれた造形力と個性的な感覚で萩焼に新風をもたらし、1983年（昭和58）人間国宝に認定されました。さらに、2002年（平成14）には、萩焼が国の伝統的工芸品に認定され、2010年（平成22）には、萩市において伝統的工芸品の全国大会が開催されました。

現代の萩焼は、伝統的な茶陶の制作だけでなく、陶芸家によっては、新しい作風で鑑賞陶芸やオブジェなどの前衛的陶芸にも取り組んでおり、その作品も多様化しています。

萩焼の販売店は市内各所にあり、多くの観光客が萩観光の記念として、また、おみやげ品として萩焼を買って帰ります。5月の大型連休中には市内の販売店を一堂に集めた大即売市「萩焼まつり」（5月1日～5日）が開催され、毎年県内外からの多くの人々でにぎわっています。このように、400年の歴史をもつ萩焼は、萩を最も代表する特産物の一つになっているのです。

(7) 観光



松下村塾を訪れた観光バスと観光客



萩八景遊覧船

観光客数の推移

(単位：千人)

萩地域	年次	観光客数				県外数						
		総数	県外客	県内客	内宿泊客	中国	四国	九州	近畿	中部	関東	その他
	平成23年度	1,418	1,271	147	461	241	25	229	216	191	330	38
	平成24年度	1,410	1,263	146	447	240	25	240	227	164	328	37
	平成25年度	1,323	1,180	142	417	247	23	212	236	141	271	47
	平成26年度	1,343	1,200	143	399	300	36	180	288	96	240	60
	平成27年度	2,002	1,736	266	441	182	36	385	365	132	533	102
	平成28年度	1,374	1,241	133	410	140	35	237	260	149	343	72
	平成29年度	1,420	1,252	168	430	200	48	227	267	126	299	81

川上地域	年次	観光客数			
		総数	県外客	県内客	内宿泊客
	平成23年度	142	14	129	3
	平成24年度	143	13	129	2
	平成25年度	121	10	110	1
	平成26年度	170	20	150	2
	平成27年度	189	23	166	3
	平成28年度	185	22	162	2
	平成29年度	195	24	170	2

田万川地域	年次	観光客数			
		総数	県外客	県内客	内宿泊客
	平成23年度	299	208	91	4
	平成24年度	321	210	90	3
	平成25年度	290	205	85	3
	平成26年度	293	204	89	6
	平成27年度	293	204	89	7
	平成28年度	258	178	79	5
	平成29年度	202	140	61	2

むつみ地域	年次	観光客数			
		総数	県外客	県内客	内宿泊客
	平成23年度	98	14	84	1
	平成24年度	97	13	83	1
	平成25年度	90	12	77	1
	平成26年度	113	18	95	1
	平成27年度	164	29	135	1
	平成28年度	194	37	156	166
	平成29年度	218	41	176	66

須佐地域	年次	観光客数			
		総数	県外客	県内客	内宿泊客
	平成23年度	72	25	47	8
	平成24年度	74	25	49	6
	平成25年度	61	19	42	8
	平成26年度	80	29	51	8
	平成27年度	84	30	54	7
	平成28年度	83	27	56	6
	平成29年度	84	28	55	7

旭地域	年次	観光客数			
		総数	県外客	県内客	内宿泊客
	平成23年度	202	2	201	2
	平成24年度	203	3	200	2
	平成25年度	203	2	200	2
	平成26年度	201	3	198	3
	平成27年度	208	4	205	3
	平成28年度	202	10	192	2
	平成29年度	190	9	180	1

福栄地域	年次	観光客数			
		総数	県外客	県内客	内宿泊客
	平成23年度	49	4	45	—
	平成24年度	103	5	98	—
	平成25年度	94	4	89	—
	平成26年度	102	5	99	—
	平成27年度	124	9	115	—
	平成28年度	118	15	103	—
	平成29年度	108	12	96	—

資料：市観光課「観光客動態調査」より

市内には、松下村塾や菊屋家住宅、大照院など、あちらこちらに国指定重要文化財や国指定史跡などが残っており、伝統的建造物群保存地区に市内4カ所が選定されるなど、今なお江戸時代の



長門峡（断魚瀑）



萩温泉郷の源泉



むつみ昆虫王国



椿群生林

典型的な城下町の町並みをとどめています。また、萩往還沿いに宿場町として栄えた旭地域の明木、佐々並には、今なお様々な遺跡を見ることが出来ます。さらにかおり風景100選にも選ばれた夏みかんと土塀、武家屋敷の織りなす風物と市内に散在する萩焼の窯元は、萩の情緒をより一層魅力的なものにしています。

また、海岸線は長門市の青海島とともに、北長門海岸国定公園に指定されており、日本海に点在する大小の島々と海岸線の美を一望できる笠山、雄大な景観を誇る須佐ホルンフェルス有し、国の名勝及び天然記念物に指定されている須佐湾、菊ヶ浜や瀬越、湊、長磯、深までかたなど多くの海水浴場などがあります。更に笠山の北端（虎ヶ崎）には、10haの広さの中に約25,000本のヤブツバキが自生する椿群生林があり、紅葉や渓谷美のすばらしい川上地域の国指定名勝長門峡や美しい日本のむら景観100選にも選ばれているむつみ地域の伏馬とそこに広がるひまわりロード、雲海のきれいな平蔵台など景観に恵まれています。その他、博物館、歴史資料館や萩アクティビティパーク、須佐湾エコロジーキャンプ場などのキャンプ場、むつみ昆虫王国、観光農園など、観光施設も充実しており、更には、海の幸、山の幸、川の幸などの豊富な食材があります。

このように自然の作り出した美しい景観と明治維新胎動の舞台となった町並み、豊富な食材に恵まれた萩市は、全国的にも有名な観光地であり、毎年全国から多くの観光客が訪れます。観光雑誌にもいろいろな形で萩市が紹介されており、旅行会社の企画するツアー旅行の中にも萩観光を中心にしたものが数多くあります。観光客を相手にする観光業は、萩市の産業収入の中でも重要な役割を占めており、まさに「観光の町、萩」といえることが出来ます。

また2004年（平成16）に越ヶ浜中学校の校地内で温泉の採掘に成功し、2005年（平成17）には施設が整備され、はぎ温泉が市内のホテルや旅館に供給されるようになりました。このため阿武川温泉、田万川温泉を初めとした8つの日帰り入浴施設を含み市内の15施設で温泉を楽しむことが出来るようになり、萩温泉郷として集客が期待されています。



萩の歴史を見守ってきた松の古木



土堀から顔を出す夏みかん



萩博物館の外観



萩博物館の内部

「土堀から顔を出す夏みかん」「古い町家が続く町並み」「歴史を見守ってきた松の古木」などが残る萩市は、今でも「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」です。

城下町全体が当時の姿のままで残されており、さらに、そのかたわらで近世そのままの空間が市民によって住みこなされ、いたる所に息づいているという優れた都市遺産は、日本国内はもちろん、世界にも誇るべきものです。こうしたまち全体を屋根のない広い博物館ととらえる観光地づくり、まちづくりが「まちじゅう博物館構想」です。2004年（平成16）、「萩まちじゅう博物館条例」が施行され、全国の模範となるような先駆的な取り組みが大胆に推進されています。

2004年（平成16）に開館した萩博物館は、まちじゅうにある文化財の中核施設としての役割があります。また、萩地域の特質、萩地域にかかわりのある事らなどについて、様々な分野から総合的に調査研究を行い、データの蓄積や発信を行うなど「萩学」のセンター的役割を担うことが期待されています。萩学展示室・萩再発見ギャラリー・高杉晋作展示館・企画展示室・まちじゅう博物館情報センターなどのコーナーが設けられており、毎日多くの観光客等来館者が訪れ、まちじゅう博物館の出発点になっています。また、市内には7ヶ所の道の駅があり、それぞれが観光拠点として、情報発信、休憩所、特産品販売所などの役割を果たしています。

2004年（平成16）には、川と海から山紫水明の「水の都・萩」の景観を楽しむため、萩八景遊覧船が就航し、多くの観光客に利用されています。

さらに、まちじゅう博物館といえるこの萩の魅力をも十分に伝えるために、市内の観光ガイドを行うボランティア団体も活躍しています。

萩・明倫学舎

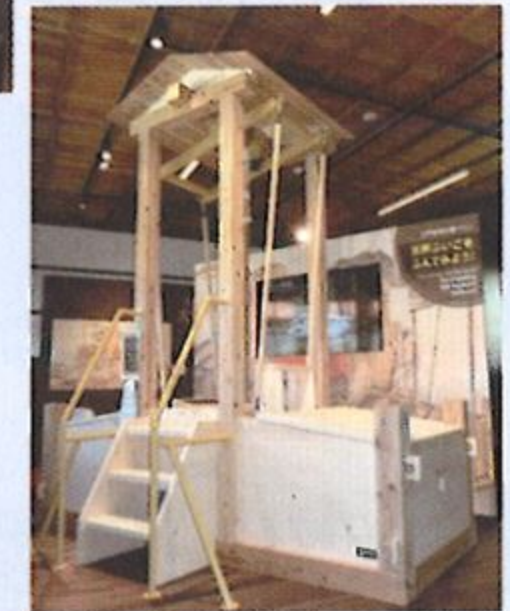
「萩・明倫学舎」は、旧明倫小学校（1935年〔昭和10〕開校）を保存整備しました。藩校の跡に建つ木造校舎としては日本最大級のものであり、多くの萩の子どもたちが巣立った学び舎です。藩校明倫館の伝統を受け継ぐ、この歴史ある校舎で藩校や世界遺産など、わかりやすい展示資料で、萩の歴史、文化、自然を学ぶことができます。

藩校明倫館展示室

萩藩校明倫館の歴史資料を中心に、萩藩の教育制度の特徴を全国の藩校と比較して紹介しています。



世界遺産ビクターセンター



「明治日本の産業革命遺産」を映像やパネルで紹介しています。

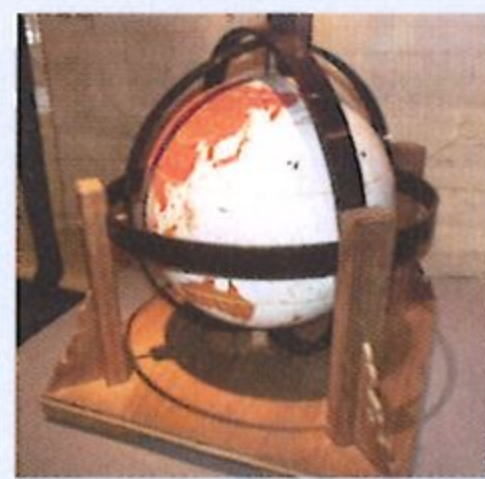
復元教室

昔懐かしい教室を復元しています。イベント会場としても利用しています。



幕末ミュージアム

江戸時代後期の歴史・科学技術史を実物資料や文献により学ぶことができます。



ジオパーク ビクターセンター

火山に育まれた萩の大地1億年の成り立ちや各ジオサイトを紹介します。



観光地である萩には、都会にはない、昔のままの変わらない風景があり、長年にわたって育まれてきた伝統や暮らしの知恵・技・人情が脈々と受け継がれています。まさに、日本の「心のふるさと」です。この「心のふるさと・萩」を訪れた人々が「もう一度萩にやって来たい」と思うような、おもてなしをまちじゅうで心をこめて推進していきたいものです。

(8) 古い町並みの保存



歴史景観保存地区「藍場川周辺」



重要伝統的建造物群保存地区（堀内）
「旧益田家物見矢倉周辺」



萩往還「明木の赤瓦集落」



萩景観賞「景観形成部門」受賞物件
（山口県立萩高等学校管理棟）

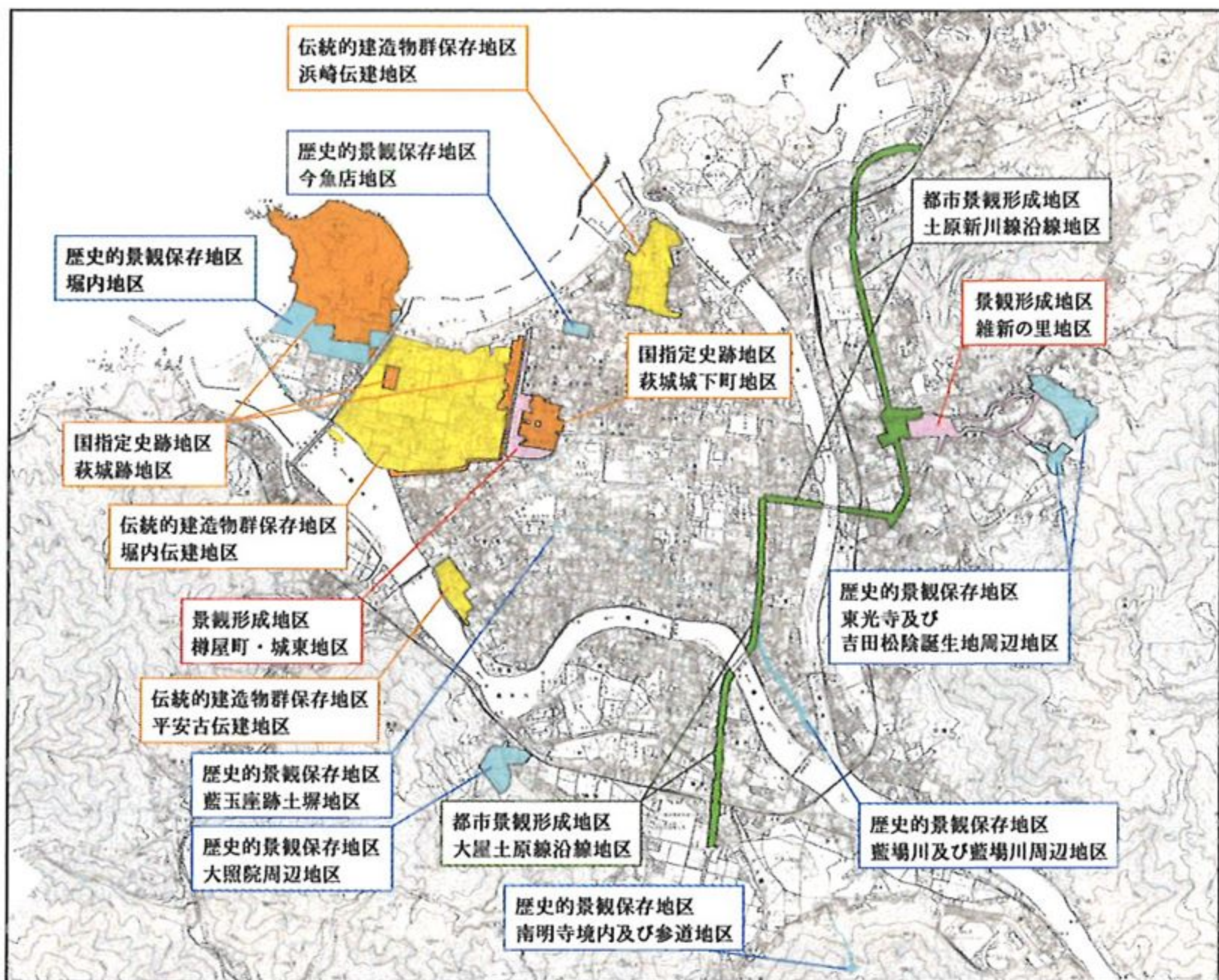
毛利氏の城下町として約260年間にわたり栄え、また、明治維新発祥の地でもある萩市には、古い町並みが残り、幕末から明治にかけて活躍した志士や政治家の旧宅や、当時の面影を伝える史跡をはじめ各時代の文化財が数多く残っています。萩が町であった頃から、その保存には力を入れてきました。1960年（昭和35）には「萩市文化財保護条例」を定め、市内にある国・県指定の文化財を保護・顕彰し、その活用を図ることにしました。これは、山口県内では初めてのことでした。

そして、1972年（昭和47）には、「萩市歴史的景観保存条例」を定め、武家屋敷や土塀の残る堀内や平安古などを歴史的景観保存地区に指定し、町並みや保存家屋などを広い範囲で保護してきました。

さらに、1976年（昭和51）には文化財保護法に基づいて「萩市伝統的建造物群保存地区保存条例」を定め、古い町並み保存と景観の保全を中心とする町づくりのために積極的な整備を進めてきました。現在、堀内地区・平安古地区・浜崎・佐々並市地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、その数はわが国の古都である京都市・金沢市とともに最多を誇ります。

指月山山麓から外堀跡までの堀内地区一帯は、江戸時代には上級武士が住んでいた所です。古びた土塀や武家屋敷の遺構が多く、重要伝統的建造物群保存地区・歴史的景観保存地区になっており、「夏みかんと土塀」という萩を象徴する景観もこの地域でよく見られます。

また、国の「文化財登録制度」が発足し、県内で初めて、『萩駅舎』『明倫小学校本館』が登録



旧萩城下町周辺の重点景観計画区域



城下町「萩」を意識した自動販売機

堀内町内会の人にインタビュー

堀内は、土壁、石垣、武家屋敷の長屋門等、昔の風情を多く残し、それ故に伝統的建造物群保存地区に選定されています。その風情を保つ為に、町内会組織の中に、伝建地区委員会を設置し、その選定に恥ないよう色々と活動しております。その結果他の都市より来萩された方々に好印象を与えています。町内会としては、大変名誉なことで、今後もこの評価に恥ないよう町内全体で美観の維持を図ってゆく所存です。



されました。これは従来の文化財保護のための法律の対象となる文化財を近現代のものまで延長するものです。また、規制の枠を少しゆるめて、ただ単に文化財をそのまま保存していくのではなく、積極的な活用を考えて、そのための現状変更をある程度は認めていこうという制度です。

このように、行政の取り組みとして、古い町並みの保存や貴重な文化財の保護が様々に行われているのです。

歴史的景観保存地区や重要伝統的建造物群保存地区において、建築物や広告物などの新築、増築、改築を行う場合は、市長や教育委員会への届出や許可が必要になります。古い町並みの中に、ひときわ目立つ高い建物があつたり、洋風づくりの家があつたり、派手な色の大きな看板があると、せっかくの景観が台無しになってしまいます。そこで、まわりの

景観と調和するように、建築物の外観、外壁、高さ、屋根などにおいて、細かい配慮が求められるのです。これには、市民や各事業所の理解と協力が欠かせません。

保存地区以外でも、萩市内の建造物を注意してよく見てみると、歴史の町としてさまざまな工夫や配慮がされていることに気づきます。例えば、街灯や地下道の入り口のデザイン、歩道の仕上げ、自動販売機やガードレールの色などにも城下町の雰囲気合ったものが使われています。

1984年（昭和59）から1987年（昭和62）にかけ、堀内の重要伝統的建造物群保存地区内の一部で道路の電柱を取り除く工事を行いました。この種の工事は県内では初めてのことで、歴史的街路にふさわしい景観がよみがえりました。

また、2004年（昭和16）年の景観法制定により、2005年（昭和17）3月に全国で10番目の景観行政団体となり、建築物や広告等に関する高さや色彩に関する基準を定めることで歴史的景観を守り、都市遺産として調和した良好な景観形成を推進しています。

毛利氏36万石の城下町としての伝統をもち、古い町並みや数多くの史跡に恵まれた萩市は、近年、生きた歴史資料の町として注目され、その美しい自然のたたずまいとともに魅力ある町として、毎年数多くの人々が訪れています。今後、これらの文化財は観光を支える貴重な観光資源という面だけでなく、萩市民の誇りとして、また、日本人の「心のふるさと」として愛護し、責任をもって次の世代に伝えていきたいものです。

(9) 郷土料理

萩
地
域



おどり食い



うにめし



のっぺい



いとこ煮

郷土料理は地域の自然の風土、特産物と深くかかわっています。季節によってもさまざまで、春のしろうおは四つ手網を使う独特な漁法で、風物詩となっています。中でもしろうおを生きたまま食べる「おどり食い」は名物になっています。産卵期の春から夏を中心としたうには、生うにだけでなく、瓶詰めの塩うに、粒うにや「うにめし」も有名です。秋には里芋などの野菜を中心に煮込んだ「のっぺい」が食べられます。「いとこ煮」は冬だけでなく冠婚葬祭の席にも出され、萩を中心とした山口県を代表する味の筆頭です。また、各地域にも次のような特色のある郷土料理があります。どんな時に食べられていたのか調べてみましょう。

旭
地
域



紅白大根なます

川
上
地
域



ゆず寒天

須
佐
地
域



だき寿司 (イカ・アジ)

田
万
川
地
域



もちなます

む
つ
み
地
域



いきなり団子

福
栄
地
域



生まんじゅう

(10) 祭と信仰

1 おしくらごう



6月に玉江浦巖島神社大祭の奉納行事として行われる船競漕。

玉江浦地区に今でも残る伝統行事で、かつては漁業後継者育成の場であった。四つの青年宿対抗で行われていた。

2 天神祭り



天神祭りとして親しまれる金谷天満宮祭礼には、江戸時代からさまざまな町内より山車や行列の奉納が行われてきました。

いわゆる大名行列と呼ばれる御備おそなえの行列もそのひとつで、華やかな所作を見るために多くの人が集り、祭りの特徴にもなっています。

3 住吉祭り



浜崎住吉神社の住吉祭りは、1650年代より城下全域の夏祭りとして行われてきました。

現在も旧城下の町内が、交代で祭りに奉仕することになっています。御船おふねや踊り車み、御輿こしなどが華やかに、また勇壮に街を練り歩きます。この御船の上で「お船謡ふなうた」がうたわれます。

4 管弦祭



越ヶ浜の巖島神社は、江戸時代(1677年)に安芸(広島県)の宮島かんじょうから勧請したと伝えられています。

現在でも旧暦6月17日の夜、御輿を乗せた船や明かりを灯した船が、連なって海上を巡航する管弦祭かんげんさい(おかげん)が行われています。

(11) 交通



萩市の中心駅、東萩駅の様子

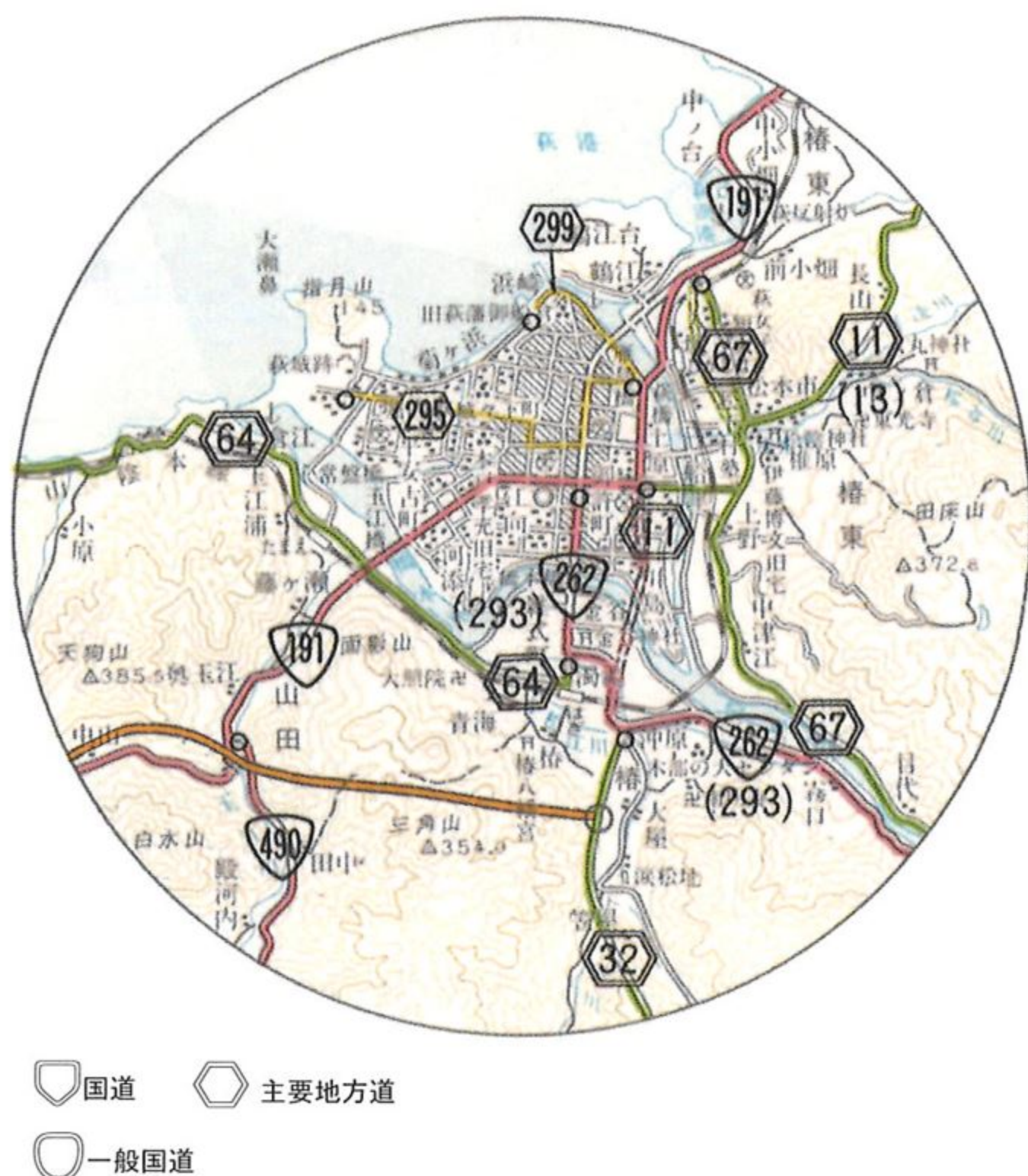


萩・三隅道路

萩市の交通のあゆみ

1912年(大正1)	萩～小郡間乗合自動車(防長自動車株式会社)が営業開始
1915年(大正4)	萩～山口間乗合自動車が営業開始
1925年(大正14)	萩～長門三隅間の鉄道が開通
1929年(昭和4)	東萩～奈古間の鉄道が開通
1933年(昭和8)	山陰本線全線が開通 東萩～山口～三田尻間国鉄バス(現在のJR)の営業開始
1956年(昭和31)	(有)萩海運設立。見島航路が営業開始
1963年(昭和38)	山陰本線に特急「まつかぜ」が運行開始
1974年(昭和49)	萩～小郡間道路の完全舗装が完了 特急バス「はぎ号」運行開始
1981年(昭和56)	常盤大橋が開通
1990年(平成2)	萩～大阪間高速バスが運行開始
1992年(平成4)	萩有料道路が開通
1993年(平成5)	萩石見空港が開港
1996年(平成8)	「松陰大橋」が完成
1998年(平成10)	見島航路に高速船「おにようず」が就航
2000年(平成12)	萩循環まあるバス(松陰先生・晋作くん)運行
2002年(平成14)	国道191号の拡幅事業が完成
2006年(平成18)	主要県道「萩・川上線」が開通
2007年(平成19)	国道262号バイパスが開通
2008年(平成20)	萩・三隅道路、明石～三隅間が開通
2010年(平成22)	萩有料道路が無料化
2011年(平成23)	萩・三隅道路、萩～三隅間が開通 萩小郡道路が開通
2015年(平成27)	防長、JRバススーパーはぎ号運行開始
2016年(平成28)	JRバス特急はぎ号廃止
2017年(平成29)	防長特急はぎ号廃止

萩市中央部の道路図



萩市には、JR山陰本線の駅が12あります。その中心駅が東萩駅で、1973年(昭和48)に城下町にふさわしいデザインで改築されました。かつての山陰本線は、北浦の人々の重要な交通手段でしたが、近年、道路が整備され、自動車が急速に普及するにつれ、列車の利用客はしだいに減ってきています。この東萩駅と新山口駅を約1時間で結んでいるのが、防長、JRバス「スーパーはぎ号」です。

山陰本線とほぼ平行に走る国道191号は、萩市と北浦の各市町を結ぶ主要幹線道路です。2002年(平成14)には、メインストリートである市役所前の拡幅事業が完成したことで、市内の交通渋滞が緩和され、走行の安全性も向上しました。また、2006年(平成18)には、松陰神社前交差点から長添山トンネルを抜け、道の駅「萩シーマート」まで結ぶ長さ1.9kmの主要県道「萩・川上線」が開通しました。さらに、2007年(平成19)には、市街地から萩有料道路を一直線に結ぶ「一般国道262号萩バイパス」が交通渋滞解消と歩行者、自転車走行の安全性の向上を目的に開通しました。国道262号は、山口市を経て防府市に通じる山陰と山陽を結ぶ、最も重要な幹線道路です。萩市街地と明木を最短距離で結ぶ萩有料道路が2010年(平成22)に無料化されたことにより、萩・山口間の所要時間が短縮され、ますます利便性が高まりました。また、2011年に開催された山口国体の際に小郡・萩間の地域高規格道路や萩・三隅間の自動車専用道路が開通し、周辺地域の移動が今まで以上にスムーズになりました。



見島と萩港を結ぶ
高速船「ゆりや」

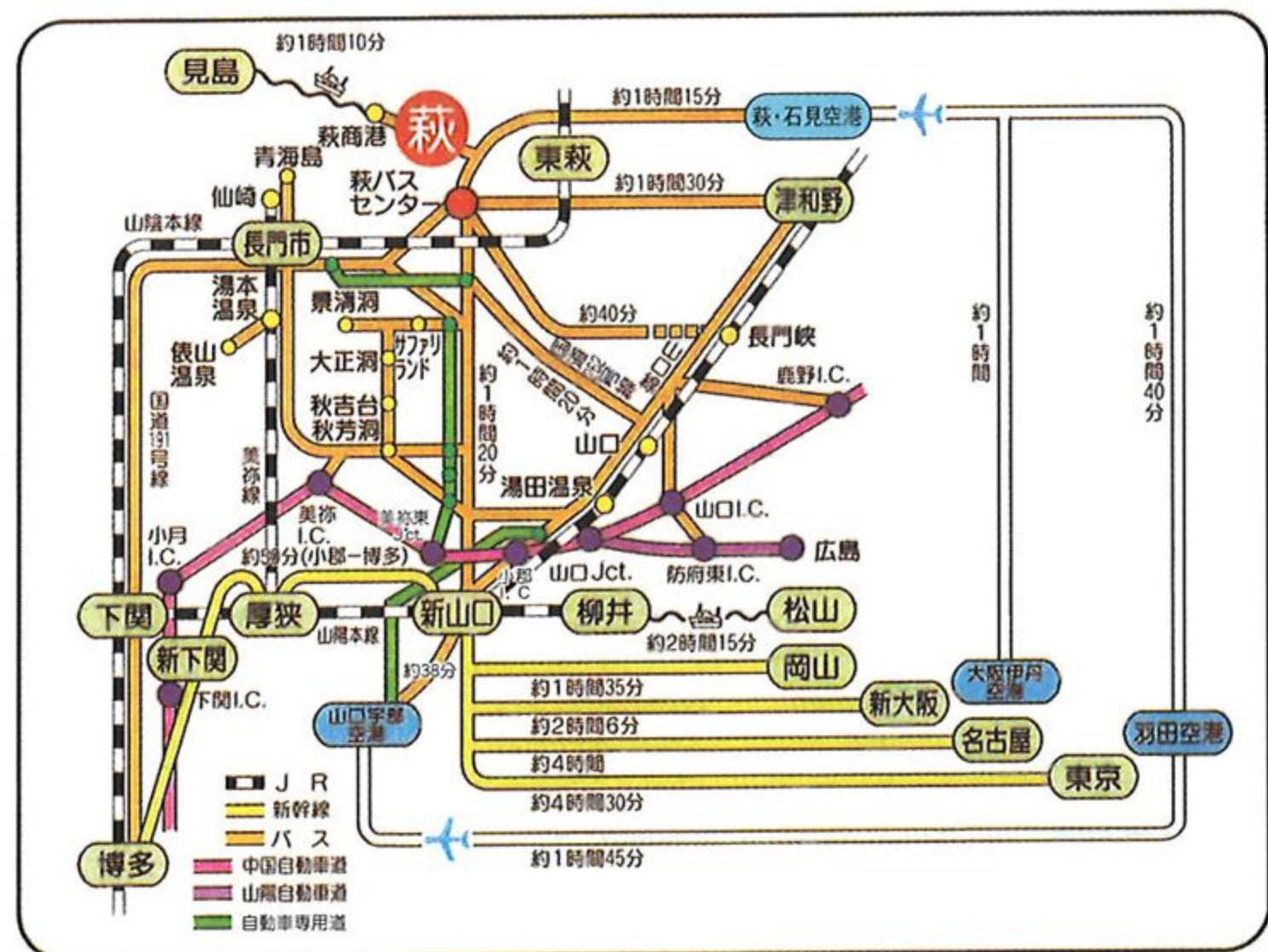


萩市民や観光客の大切な足
「萩循環まあーるバス」



東京と萩を結ぶ高速バス

萩市から主要都市や
観光地までの所要時間



日本海に浮かぶ見島、大島、相島との間には定期船が就航しており、島の人々の大切な交通手段になっています。見島航路には、1998年（平成10）より高速船「おにようず」が就航し、萩港と見島との間が約1時間10分と所要時間が大幅に短縮されました。このように、昔に比べ、ずいぶん離島と萩港を結ぶ交通は便利になってきましたが、冬場には日本海が荒れるため船が欠航する場合もあり、島の住民の生活は天候に大きく左右されます。

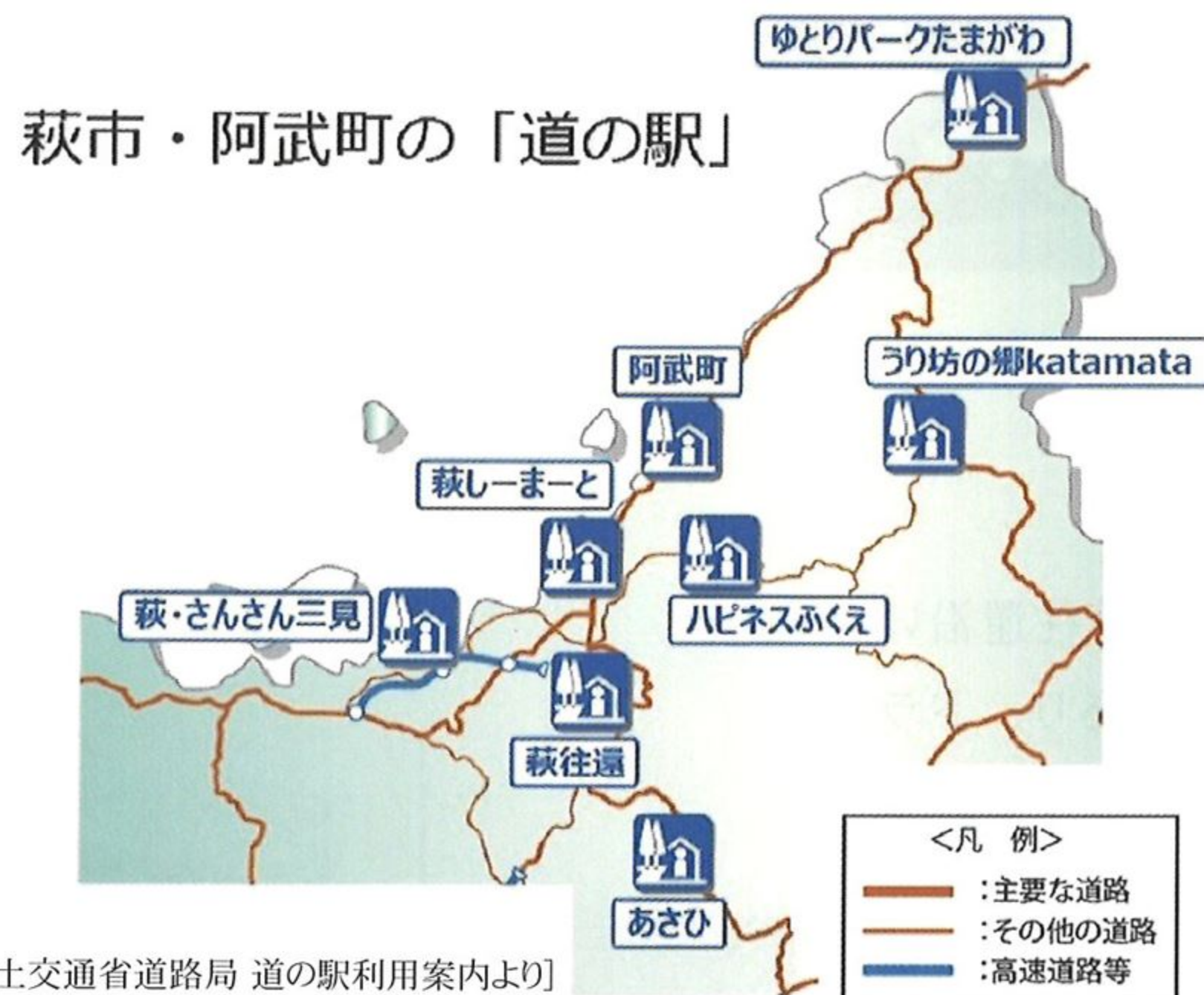
2000年（平成12）より、萩循環まあーるバスが、市民病院や老人健康施設の郊外移転に伴う不便を解消し、また、点在する観光名所を結ぶ交通手段として運行を始めました。これまで路線バスが走っていない地区や、高齢者が多い地区を走り、市役所、市民病院、防長交通バスセンターおよび市中心部のJR各駅を結んでいます。東回りコース（松陰先生）・西回りコース（晋作くん）ともに30分間隔で運行をしており、市内のあちらこちらでその姿を見かけます。誰もが気軽に利用できるように100円と運賃も安く、市民や観光客の足として大切な役割を果たしています。

萩市と大阪や東京などの大都市を直接結ぶ交通手段としては、高速夜行バスがあります。萩・大阪間を約11時間、萩・東京間を約14時間で結び、運賃も比較的安く、利用客も少なくありません。

萩市には、空の交通の拠点となる空港はありませんが、山口宇部空港を利用することができます。さらに、萩市と隣接する島根県益田市にも空港があります。「萩・石見空港」と呼ばれるこの空港とは、タクシーで約1時間10分の距離にあり、空の便を生かしての観光客の誘致が期待されています。

(12) 道の駅

「道の駅」とは、ドライバーが安心して利用できる休憩のための施設です。平成27年現在、萩市には7つの「道の駅」があります。それぞれ、地域の特色を生かした経営がなされています。あなたは、いくつの「道の駅」に行ったことがありますか。これから訪れる人もリピーターの方も、訪問を通して、それぞれの地域の特色をつかんでみましょう。



1 道の駅「萩往還」



道の駅「萩往還」は、国道に面していない道の駅であること、文化施設（松陰記念館）と併設されていることなど、全国でも類を見ない新しいタイプの道の駅です。地元特産品販売施設のほか、農産物直売所や地元食材を使った、和・洋食レストランなどがあり、多くの観光客が立ち寄ります。

2 道の駅「萩しーまーと」

漁業協同組合をはじめ、地元生産者が集結して運営している道の駅が「萩しーまーと」です。隣接する魚市場と直結することで、輸送コストや中間流通コストがかからず、新鮮な魚介類を安い価格で提供しています。観光客も、昔なつかしい市場のような雰囲気の中かで、地元価格で買い物ができるとあって、人気のスポットとなっています。



3 道の駅「ハピネスふくえ」



道の駅「ハピネスふくえ」では、この地域で育てられたメロン、ぶどう、白菜、キャベツなどの新鮮な農産物の販売所や味噌や漬け物などの特産品の直売所を開設しています。また地元の食材を使った料理が自慢の食堂も人気があります。また、周辺の自然を生かした公園もつくられており、週末には家族連れでにぎわいます。

4 道の駅「あさひ」

道の駅「あさひ」は、萩往還沿いに走る国道262号線沿いにあり、ドライブの途中の休憩エリアとして親しまれています。ここには特産品販売所が常設されており、地元産の豆腐やエリンギを求めて、遠方からの買い物客も見られます。また、旧旭村時代に姉妹縁組を結んだドイツのユーリンゲン・ビルゲンドルフにちなんだドイツグッズも多彩に品揃えをしています。



5 道の駅「ゆとりパークたまがわ」



国道191号線の島根県との県境近くにある道の駅「ゆとりパークたまがわ」は、特産物販売所では鮮魚や海産物加工品などの地元地域に密着した商品を販売しています。また、田万川地域に原木がある「長門ユズキチ」の加工品を買うことができます。

6 道の駅「うり坊の郷 katamata」

道の駅「うり坊の郷 katamata」は、島根県の津和野町と萩の城下町を結ぶ道路の中間地点に位置する、山間の豊かな緑に囲まれた道の駅です。地元の特産品販売所と食堂があり、ドライブの休憩エリアとして、地元特産品の買い物の場として親しまれています。また、うり坊（猪の子ども）の名のとおり、ここでは地元で捕れた猪肉の販売も行っています。



7 道の駅「萩・さんさん三見」

「萩・さんさん三見」は、萩・三隅道路に唯一設けられた明石パーキングエリアにあります。地元三見は豊かな自然に恵まれた農業と漁業が盛んな地域で、こうした地域資源を活用した農産物・海産物の直売所や新鮮な魚介類を使用した定食などを提供するレストランなどにより、人気のスポットになっています。



(13) 姉妹都市・友好都市との交流

ウルサン

蔚山広域市との交流の経緯（1994年以降）

1994年(平成6)	蔚山広域市よりスポーツ団来萩、中学校男子バレーボール親善試合を行う
1995年(平成7)	萩市中学校選抜軟式野球チーム訪韓
1998年(平成10)	萩市民号蔚山広域市訪問(合計76名)
2001年(平成13)	萩市・蔚山広域市交流少年サッカー大会開催
2002年(平成14)	ワールドカップ萩市民号蔚山広域市訪問(合計81名)
2002年(平成15)	蔚山広域市小学生・中学生・高校生萩市訪問
2004年(平成16)	蔚山広域市ガールスカウト78名来萩
2005年(平成17)	蔚山広域市ボランティアセンター広報大使31名と徳津面の関係者6名がふるさとまつりへ参加のため来萩
2006年(平成18)	蔚山広域市ガールスカウト113名来萩
2008年(平成20)	姉妹都市提携40周年蔚山広域市親善訪問団来萩
2009年(平成21)	蔚山広域市三湖初等学校来萩
2010年(平成22)	山口福祉文化大学との学術交流により蔚山大学校語学研修生38名来萩
2011年(平成23)	蔚山大学校語学研修生17名来萩
2012年(平成24)	蔚山大学校語学研修生20名来萩
2013年(平成25)	蔚山大学校語学研修生24名来萩
2014年(平成26)	蔚山広域市陶芸交流訪問団6名が萩陶芸家協会との交流と第24回萩焼まつりへの出展のため来萩
2015年(平成27)	蔚山科学大学が海外就業支援に関して萩市を表敬訪問
2016年(平成28)	蔚山広域市陶芸交流訪問団5名が萩陶芸家協会との交流と第26回萩焼まつりへの出展のため来萩 蔚山科学大学の学生が萩市を表敬訪問
2017年(平成29)7月	蔚山女子中学校青少年交流団が来萩し、福栄小中学校を訪問。
8月	蔚山広域市内の剣道団体がむつみ剣友会との交流及び北浦剣道大会出場のため来萩。
9月	蔚山広域市昇格20年記念式典が蔚山広域市において開催され、萩市長が出席。
2018年(平成30)4月	蔚山工芸協同組合組合長をはじめとする訪問団が、萩焼まつりへの出展と窯元視察のため来萩。
8月	蔚山広域市南区文化院処容(チョヨン)舞伝承会が、萩夏まつりへの参加のため来萩。
10月	萩市一蔚山広域市姉妹都市締結50周年記念式が蔚山広域市において開催され、萩市長をはじめとする訪問団39名が出席。



蔚山女子中学校青少年交流団との交流



姉妹都市締結50周年記念式

本州の西の端に位置し、大陸と比較的近い距離にある山口県は、古くから中国や朝鮮の文化の大きな影響を受けてきました。

萩市では、1968年(昭和43)10月、至近距離に位置する蔚山市と日韓両国においてはじめてのケースとなる姉妹都市の盟約を結びました。その後、合併により蔚山市は蔚山広域市となり、人口約118万人(2018年)の大韓民国を代表する工業都市となりました。また、2005年(平成17)3月、徳津面とも姉妹都市となりました。

大韓民国の他に、ドイツ連邦共和国のユーリンゲン・ビルゲンドルフと姉妹都市、台湾台北市土林区と友好都市になっています。



蔚山広域市南区文化院処容舞伝承会

2018年(平成30)3月末日現在で、萩市の外国人登録人口は367人で、国際化の進展により萩市を訪れる外国人観光客も少なくありません。地域の中で、国際交流および国際協力を推進し、相互理解と友好親善を深めていくことが求められています。行政面では、萩市役所に国際交流員を配置した都市・国際交流係が設置され、関係団体および市民と連携して、国際化へ向けた取り組みが行われています。



しろうお漁

第3部 これからの萩市

活用にあたって

この第3部は、「萩市の行政のはたらき」「新萩市誕生までの歩み」「萩市の将来展望」「萩市民憲章、市の木・花・果樹・生物」の四つの内容から成り立っています。

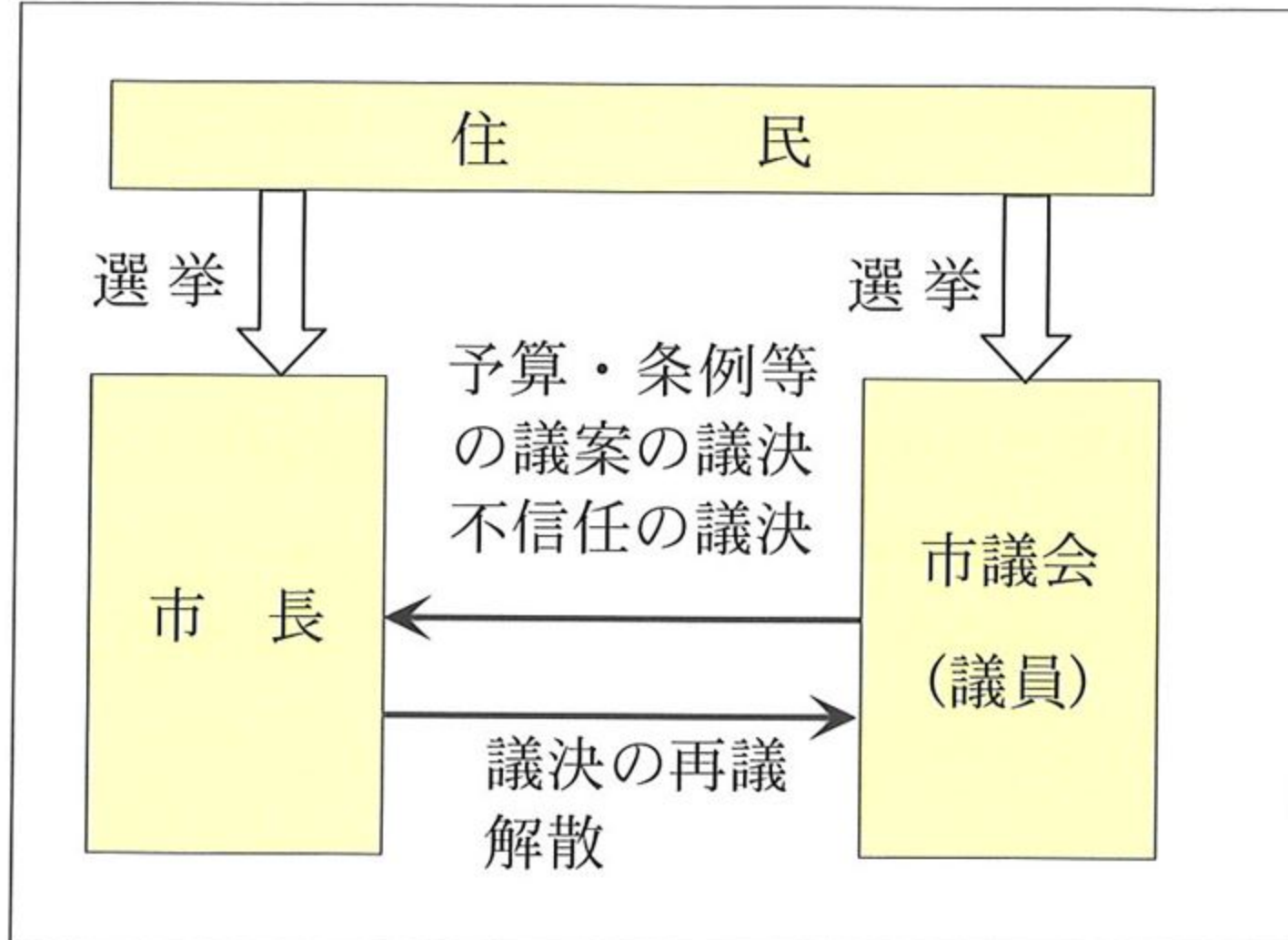
将来、みなさんは地域社会を築き支えていく一員となります。そのためにも、自分たちが生活している地域社会の政治のはたらきやしくみ、そして、地域社会が抱えている問題や力を入れて取り組んでいること、さらに、地域社会がめざしている将来像を学ぶことには大きな意味があると思います。自分なりのしっかりとした見方や考え方をもって地域づくりに参画できる、よき主権者をめざしてください。

みなさんの中には、これからもふるさと萩にとどまって生きていく人もいれば、いつかは萩の地を出て他の地域で生きていく人もいます。その生き方はさまざまでしょう。しかし、いずれにしても、みなさんにとって、萩がいつまでも大切な「心のふるさと」であることにはまちがいありません。いつまでもふるさと萩を愛する人であってほしいと願っています。

これからの萩市

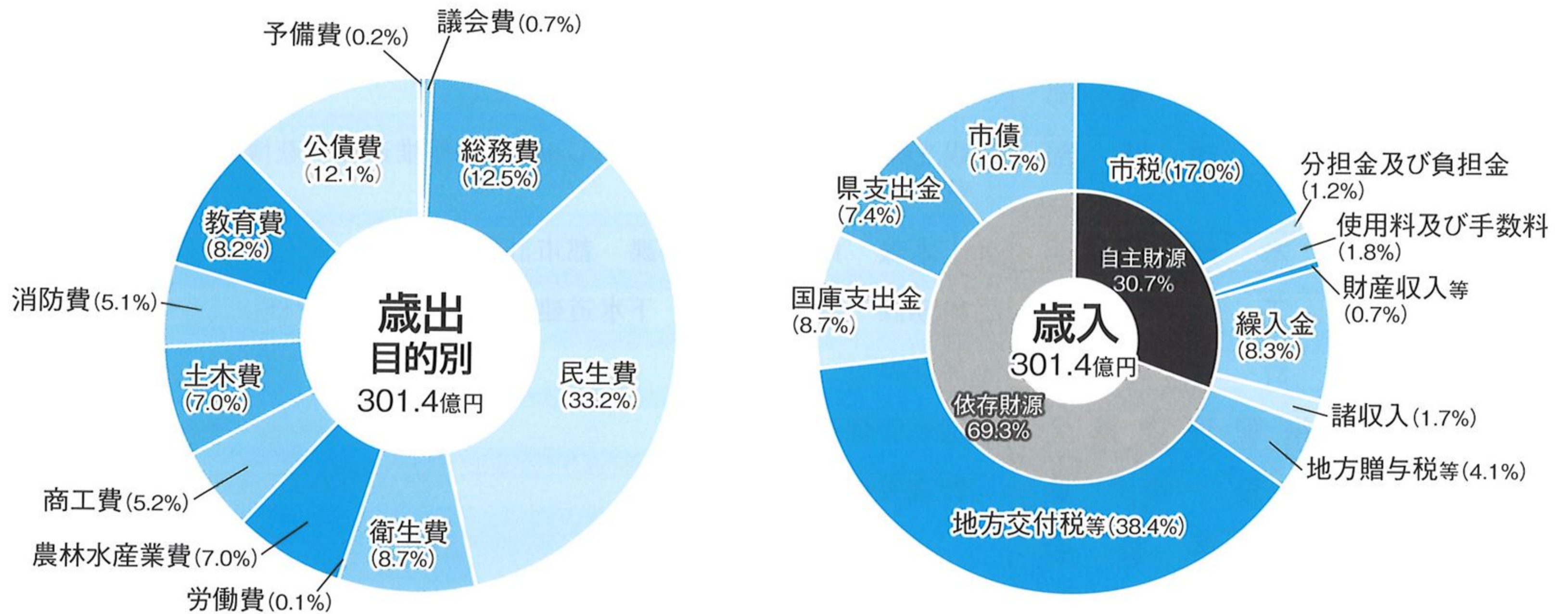
(1) 萩市の行政のはたらき

1 市長と市議会の関係図



市議会本会議のようす

2 歳入と歳出 (平成30年度一般会計当初予算)



市長は、萩市の行政の最高責任者であり、執行機関の中心として活動しています。市長が行う仕事の重要なものの一つに予算の編成と執行があります。その他にも、市長は市民の要望に耳を傾けたり、市内の各種行事や催物に参加したりするなど、大変忙しい毎日を送りながら、萩市の発展と市民生活の向上に日々努めています。

市議会には、定期的にかれる定例会と必要に応じて開かれる臨時会があります。市議会の仕事としては、おもに予算や条例などの議案の議決を行います。また、教育問題や福祉問題について、議員が市長や各担当責任者に対して質問をするなど、よりよい市政が行われるように努めています。議員は、日頃から市民の声をできるだけ市政に反映させようと活動しています。

市長と市議会議員は、それぞれ市民から選挙によって選ばれており(二元代表制)、互いに市の発展のために話し合いをもちながら、みんなが住みやすい萩市のまちづくりを進めています。

行政が市民のために様々な仕事を行っていくのに必要な一般会計予算の収入を歳入、そして実際に使った支出を歳出といいます。歳入の内訳を見てみると、市民や各事業所が納めた各種の市税が17.0%を占めていることがわかります。市民が納めた大切な税金が使われているわけです。また、歳出の内訳を見てみると福祉・医療・年金など高齢化社会に対応し、市民が安心して暮らしていける町づくりに使われる民生費が33.2% (全体の3分の1) を占めていることがわかります。

3 萩市役所のおもな組織図

(H30. 4. 1)

市長	副市長	
総務部	総務課 人事課 防災危機管理課 契約監理課	
総合政策部	企画政策課 広報課 情報政策課 ジオパーク推進課	
財務部	財政課 財産管理課 課税課 収納課	
地域政策部	地域づくり推進課 各支所・出張所	
総合事務所	川上・田万川・むつみ・須佐・旭・福栄 各支所等	
市民生活部	市民活動推進課 消費生活センター 市民課 環境衛生課	
福祉部	福祉政策課 白水会館 高齢者支援課 西地域包括支援センター 東地域包括支援センター 福祉支援課 子育て支援課 児童館	
保健部	地域医療推進課 休日急患診療センター 各診療所 健康増進課 保健センター	
市民病院	市民病院	
産業戦略部	産業戦略室	
農林水産部	農林振興課 水産課	
商工政策部	商工振興課 企業誘致推進課	
観光政策部	観光課 文化財保護課 まちじゅう博物館推進課 萩博物館 萩・明倫学舎推進課	
土木建築部	土木課 用地課 建築課 都市計画課	
上下水道局	総務課 水道工務課 下水道建設課 浄化センター	
会計管理者	会計課	
選挙管理委員会	選挙管理委員会事務局	
監査委員	監査委員事務局	
公平委員会		
農業委員会	農業委員会事務局	
教育委員会	教育政策課 学校教育課 文化・生涯学習課 市民館 各公民館 スポーツ振興課 各体育館 各図書館 各地域事務所	
消防本部	総務課 警防課 予防課 消防署	

市役所には様々な部や行政委員会があり、その下にさらに課や係が置かれていて、それぞれが専門的な仕事を担当しています。毎日、多くの市民が自分の生活や仕事のために市役所を訪れ、利用しています。例えば、住民票の交付の申請や婚姻届などの提出の際には、市民部の市民課に行くと、担当職員が対応してくれます。

また『分かりやすい、できるだけ早い、利用しやすい』受付窓口を目指し、平成23年7月19日に市民総合窓口を開設しました。さらに受付業務を民間に委託しています。

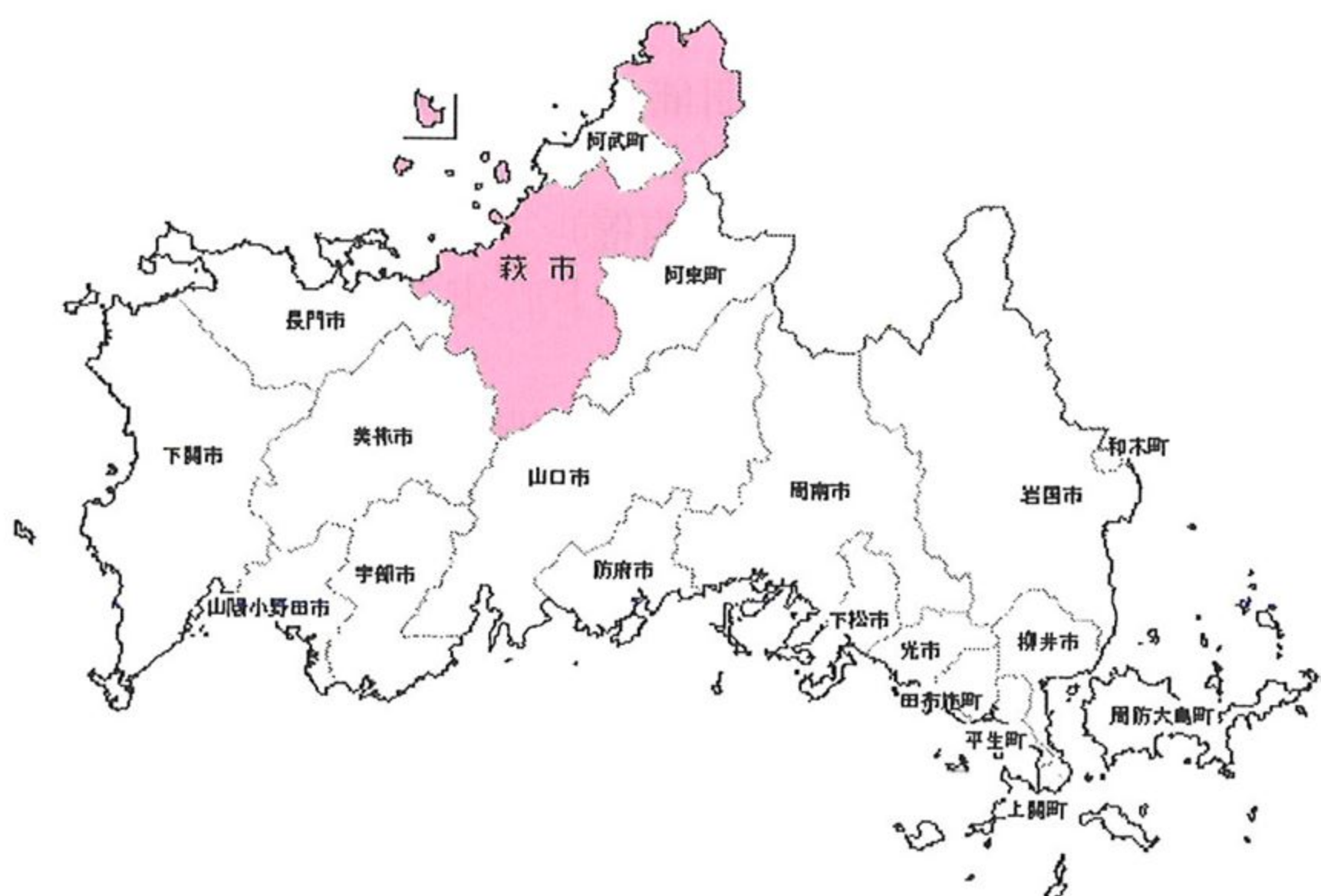
これまでの旧町村役場は、各地域の総合事務所となり、わざわざ本庁に行かなくても、地域住民は必要な業務サービスを受けることができます。



市役所での窓口業務の様子

(2) 合併した萩市

1 新萩市の範囲



2 合併時の萩市の人口

(2005年4月1日)

地域	人口
萩	44,479
川上	1,199
田万川	3,546
むつみ	2,150
須佐	3,647
旭	2,139
福栄	2,542
合計	59,702

3 萩地域の通勤の流出状況

萩市の15歳以上の就業者数 25,744			
市内従業者		22,785	
市外従業者		2,959	
市外従業者の内訳			
【 県内 】		【 県外 】	
山口市	752	島根県	447
長門市	555	兵庫県	59
阿武町	393	広島県	63
周南市	105	東京都	33
下関市	55	福岡県	41
宇部市	68	愛媛県	29
防府市	69	大阪府	16
美祢市	167	岡山県	17
その他	40	鳥取県	5
		その他	45
合計	2,204	合計	755

4 萩地域の通学の流出状況

萩市の15歳以上の通学者数 1,854			
市内通学者		1,475	
市外通学者		379	
市外通学者の内訳			
【 県内 】		【 県外 】	
長門市	105	島根県	59
阿武町	111	福岡県	6
山口市	75	広島県	4
宇部市	4	大阪府	0
防府市	6	兵庫県	0
下関市	5	岡山県	0
周南市	1	その他	1
その他	2		
合計	309	合計	70

単位：人 市町村名は平成17年当時のもの
(資料：平成22年国勢調査)

2005年(平成17)3月6日、1市2町4村が合併し、新萩市が誕生しました。新萩市は、本州の最西端の山口県の北東部に位置し、北西は日本海に面し、東は島根県と県境を接し、西は長門市、美祢市と隣接し、南は山口市と境を接しています。人口は47,925人(平成30年8月31日現在)、面積は698.31km²で、山口県の11%を占める広大なものです。

新萩市として合併したのは旧萩市、そして、阿武郡の川上村、田万川町、むつみ村、須佐町、旭村、福栄村の旧町村です。近年の交通・情報通信手段の発達、萩地域の市町村住民の行動範囲を広げ、通勤、通学や買物などの動きは、市町村の枠組みを越えて、大きな生活圏を形成するようになりました。一方、萩地域の市町村では、時代の急激な変化に伴う少子高齢化、過疎化、環境問題、医療・福祉、高度情報化、危機管理などの数多くの共通した行政課題に直面するようになりました。そこで、萩地域の市町村は、1969年(昭和44)9月に萩地区広域市町村圏振興整備協議会を設置し、萩地区広域市町村圏振興整備計画を定め、結びつくようになりました。

さらに1971年(昭和46)1月には、萩地区広域市町村圏組合に組織を替え、萩総合福祉センター、

5 合併調印までの経緯

2001年（平成13）	5月	萩広域市町村合併調査研究会設置（6回開催）
2002年（平成14）	7月	萩広域市町村合併調査検討協議会（任意協議会）設置（10回開催）
	9月	構成市町村ごとに合併講演会の開催 構成市町村ごとに合併住民説明会の開催（～平成15年1月19日）
2003年（平成15）	11月	「市町村合併についての住民アンケート」実施
	2月	萩広域市町村合併協議会設置（19回開催）
	5月	「新しいまちづくりについて住民アンケート」実施
	6月	新市名称の公募
	9月	女性による新市まちづくりワークショップの開催
	12月	高校生による新市まちづくりワークショップの開催
2004年（平成16）	1月	構成市町村ごとに新市建設計画にかかわる住民説明会
	5月	萩広域合併協議会設置（2回開催）
	6月	萩広域7市町村合併協議会設置（4回開催）
	7月	合併協定調印式
2005年（平成17）	2月	構成市町村ごとに閉町村式および閉庁式（～3月5日）
	3月	新「萩市」誕生



合併協定調印式



新「萩市」誕生式典

須佐・むつみ・阿武老人憩いの家の建設、萩清掃工場の建設、広域観光のPR、北浦ふるさとまつりの実施、圏域職員の共同研修、常備消防の広域化など、市町村の枠をこえて広域行政を進め、結びつきを強めてきました。長年、地域住民の要望であった広域消防についても、平成12年4月から開始されました。これにより、住民の生命と財産を守る常備消防として、24時間体制での消防、防災、救急業務がスタートしたのです。

このような取り組みを経て、2002年（平成14）、萩地域の市町村は合併に向けて本格的に動き出しました。合併に向けての協議会を立ち上げ、市町村間の意見の調整を図る一方、構成市町村ごとに地域住民への説明会やアンケート調査を行うなど住民の声にも耳を傾けながら、合併への取り組みが進められました。2004年（平成16）には、阿武町と須佐町が合併協議会から離脱し、合併協議会が休止するという事態（須佐町はその後、合併協議会に復帰）も起こりましたが、そのような状況を乗り越えて、1市2町4村は、2005年（平成17）3月、広域合併にこぎつけることができました。

新萩市の誕生により、各地域の特性を生かした、さらに活力と魅力ある住みよいまちづくりの建設に邁進しています。

(3) 萩市基本ビジョン

萩市基本ビジョンとは、萩市の将来像やまちづくりの方向性を市民と共有し、市民と行政が一体となって進めるまちづくりの指針であり、各分野にわたるさまざまな計画の基本となるものです。計画期間は、2018(平成30)年度を初年度とし、2027年度までの10年間です。

めざすまちの姿

暮らしの豊かさを実感できるまち

めざすまちづくり(基本方針)

だれもが生きいきと暮らせるまちづくり

■持続可能な医療体制の構築 ■地域ぐるみの助け合い「地域包括ケアシステム」の深化・推進 ■青年期から高齢期に至るまでの健康の維持増進 ■障がい者の社会参加の促進 ■安心で質の高いサービスの確保

子育ての幸せが実感できるまちづくり

■妊娠・出産・子育て環境の充実 ■子どもたちの笑顔があふれる居場所づくり ■仕事と子育ての両立支援 ■出会い・結婚サポートの充実

未来を担うひとを育むまちづくり

■「志」教育の推進 ■新しい時代に必要となる資質・能力の育成 ■地域とともにある学校づくりの推進 ■萩の未来を支える教育機会の充実

産業活力があふれるまちづくり

■地域のにぎわいを取り戻す地場産業の再生 ■起業・創業と企業誘致の推進 ■企業人材の育成と雇用拡大の支援 ■力強い農林水産業の推進 ■地域産業の担い手・後継者育成 ■地域経済の発展を加速化する高速道路ネットワークの形成

魅力ある歴史・文化・自然をいかしたまちづくり

■全国に誇る萩のまちなみ継承 ■文化財の保存と活用による萩のにぎわいづくり ■文化のおたから、自然のおたから、産業のおたからの再発見・継承 ■萩ジオパーク構想の推進 ■観光地経営の視点に立った観光地域づくりの推進 ■観光客誘致の積極展開

生活基盤の充実した住みよいまちづくり

■暮らしに密着した交通網の形成 ■生活サービスの機能の維持・向上 ■持続可能で快適な環境づくり ■防災体制の強化 ■地球にやさしい循環型社会づくり

だれからも愛されるまち、求められるまちづくり

■市民との協働による元気なコミュニティづくり ■萩の魅力をいかした移住・定住 ■市民一人ひとりが輝くまちづくり ■地域の特色をいかしたまちづくり ■魅力ある離島の発展

○ 萩市ひとづくり構想

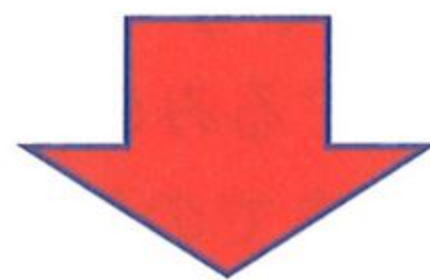
萩市基本ビジョンに掲げるまちづくりを進めていくためには、まちづくりを担う人材の育成が不可欠です。

そこで、幼少期から生涯にわたるひとづくりの理念を掲げた萩市の人材育成の指針となる「萩市ひとづくり構想」を定め、市民と行政が人材育成の方向性を共有し、一体となってひとづくりを推進します。

萩市のひとづくり構想は、萩市基本ビジョンを支える3つの構想（ひとづくり構想、地域産業振興構想、萩まちじゅう博物館構想）の1つとして位置づけています。

基本理念

新しい時代を切り拓くひとづくり



目指すひとの姿

創造

広い視野を持ち、新たな視点から考える人

挑戦

現状に甘んじることなく、未来に向かって果敢に挑む人

協働

人との関わりを大切にし、社会のために共に行動する人



ひとづくりの基本方針

幼児期

○心身ともにたくましく、人のやさしさを感じる子どもの育成
○創造力豊かな子どもの育成

青少年期

○ふるさとに誇りと愛着を持つ青少年の育成
○高い志と進取の気概をもつ青少年の育成
○人や社会と積極的に関わる青少年の育成

成人期

○地域づくりに積極的に関わるひとづくり
○さまざまな分野で活躍するひとづくり
○知恵や経験、技能を社会に生かし、次代につなぐひとづくり

(4) 世界遺産登録を受けて

1 世界遺産登録までの動き

世界遺産登録までのあゆみ	
平成25年9月27日	日本政府、ユネスコに推薦書(暫定版)を提出
平成26年1月29日	日本政府、ユネスコに推薦書(正式版)を提出
平成26年9月29日	ユネスコの諮問機関(国際記念物遺跡会議)による現地調査
平成27年7月 8日	ユネスコ世界遺産委員会で登録決定

平成25年9月17日、政府は萩反射炉等8県11市の23資産で構成する「明治日本の産業革命遺産」を、平成26年度のユネスコ世界文化遺産へ推薦することを決定しました。

これにより、政府は平成25年9月27日推薦書(暫定版)、平成26年1月29日推薦書(正式版)を、ユネスコにそれぞれ提出しました。

今回の推薦は、地理的に分散している資産を一群と見なし、資産全体で世界遺産価値をもつものとして世界遺産登録をめざすシリアル・ノミネーションと言われる推薦手法でした。

政府によるユネスコへの推薦書(正式版)提出は、萩市がこれまで関係団体等と連携・協力しながら取り組んできた大きな成果であり、ついに平成27年7月8日、萩市のかねてからの念願が叶い、第39回世界遺産委員会で登録が決定しました。これらの世界遺産は、次の世代に引き継いでいくべき人類共通の宝物です。わたしたちがみんな大切に守っていかねばなりません。

2 「明治日本の産業革命遺産」とは

日本は、幕末からわずか半世紀の間に製鉄・製鋼、造船、石炭産業において急速な産業化を達成し、非西欧地域で最初の産業国家としての地位を確立しました。このことは、世界史的に極めて意義のある類いまれな事象であり、この歴史的過程を時代軸に沿って示しているのが、明治日本の産業革命遺産です。

この遺産群は九州・山口を中心に8県11市に地理的に分散し、時代に沿って8つのエリアに区分され、全体で23資産あります。

3 「明治日本の産業革命遺産」の萩エリア

萩エリアは時代順に1番目のエリアで、①萩城下町、②萩反射炉、③恵美須ヶ鼻造船所跡、④大板山たたら製鉄遺跡、⑤松下村塾の5つの資産で構成されています。

①萩城下町…幕末に産業化を目指した地域社会



萩城跡



江戸屋横町

萩城下町は、幕末に日本が産業化を目指した当時の地域社会における政治・行政・経済を表す資産で、資産の範囲は次の3地区です。

- i 城跡(萩城跡の中堀の内側)…西南雄藩の一つである萩藩の政治・行政の中心であり、産業化や西洋技術の導入についての藩の政策形成の場でした。
- ii 旧上級武家地(堀内伝建地区および萩城外堀)…城跡とともに萩藩の政治・行政の中心地で、産業化等についての政策形成の場でした。
- iii 旧町人地(萩城下町の大部分)…城下町やその周辺で営まれていた商業活動や小規模工業を基盤とした当時の伝統的経済の姿を示しています。

当時の城下町に高度な匠の技があったからこそ、日本の産業化が急速に進んだと考えられており、旧上級武家地や旧町人地には江戸時代の町割り、上級武家や幕末・維新の志士等の屋敷・石垣等が良好な状態で残っています。

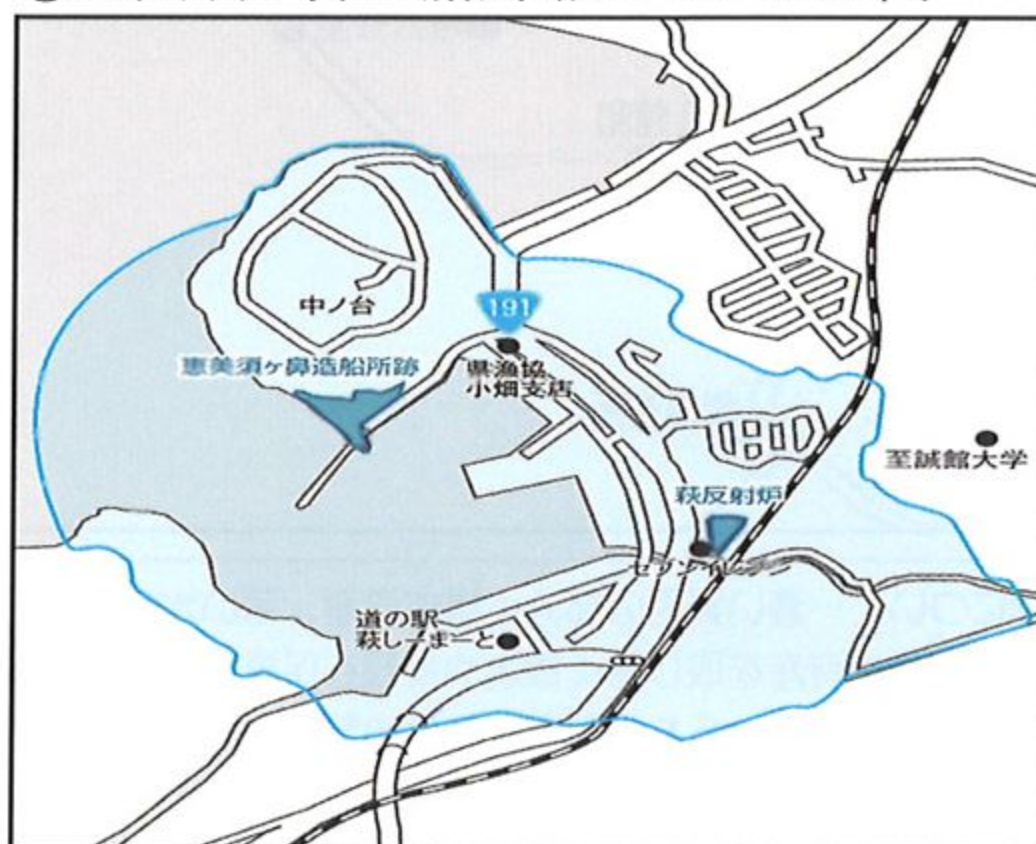
このように萩城下町は、産業化に取り組んだ地域社会を最もよく示している遺跡であると専門家から評価されています。

①萩城下町エリアの地図



②萩反射炉エリア

③恵美須ヶ鼻造船所跡エリアの地図



②萩反射炉…試作の反射炉として、試行錯誤による産業化を提示



椿東前小畑に現存している萩反射炉は、西洋式の鉄製大砲鑄造を目指した萩藩が安政3年（1856）に建造した反射炉の遺跡です。

当時の蘭書の設計図どおりの反射炉としては「明治日本の産業革命遺産」の資産にもなっている葦山反射炉（静岡県伊豆の国市）が唯一残っていますが、萩反射炉は試作の反射炉としての性質をもった、当時の試行錯誤による産業化を示す貴重な資産です。

③恵美須ヶ鼻造船所跡…ロシアとオランダの技術を使って洋式船「丙辰丸」・「庚申丸」を建造



椿東中小畑にある恵美須ヶ鼻造船所跡は、萩藩が設けた造船所の遺跡で、幕末に2隻の西洋式木造帆走軍艦を建造しました。

萩藩は伊豆半島の戸田村（静岡県）に船大工棟梁を派遣し、ロシア人海軍将校プチャーチンに指導を受けた地元の技術者を招きました。安政3年（1856）恵美須ヶ鼻に造船所を建設し、ここで同年、「丙辰丸」が進水しました。

また、万延元年（1860）には2隻目の「庚申丸」が進水しました。「庚申丸」の建造技術は、「丙辰丸」とは違い、幕府が軍艦の操縦と建造の技術習得のために設立した長崎海軍伝習所でオランダ人教官が教えた技術が用いられました。

このようにロシアとオランダという2つの異なる技術による造船を1つの造船所で行った例は他にないこと、また幕末に建設された木造帆船の造船所で唯一遺構が確認できる造船所であることが評価され構成資産となっています。平成25年10月に国の史跡に指定されました。

④大板山たたら製鉄遺跡…産業化を支えた匠の技術



日本の伝統的な製鉄方法であるたたら（砂鉄を木炭で燃焼し鉄を得る方法）を今に伝えている大板山たたら製鉄遺跡は、恵美須ヶ鼻造船所で建造した1隻目の洋式船「丙辰丸」を建造する際に、船釘等の原料鉄を供給したことが、古文書で確認されています。

大板山たたら製鉄遺跡は、県内最大級のたたら遺跡であり、江戸時代中期以降に萩藩内で展開されたたたら製鉄の典型例として、平成24年9月に国の史跡に指定されました。

⑤松下村塾…工学教育の重要性を説いた吉田松陰の実家と塾舎



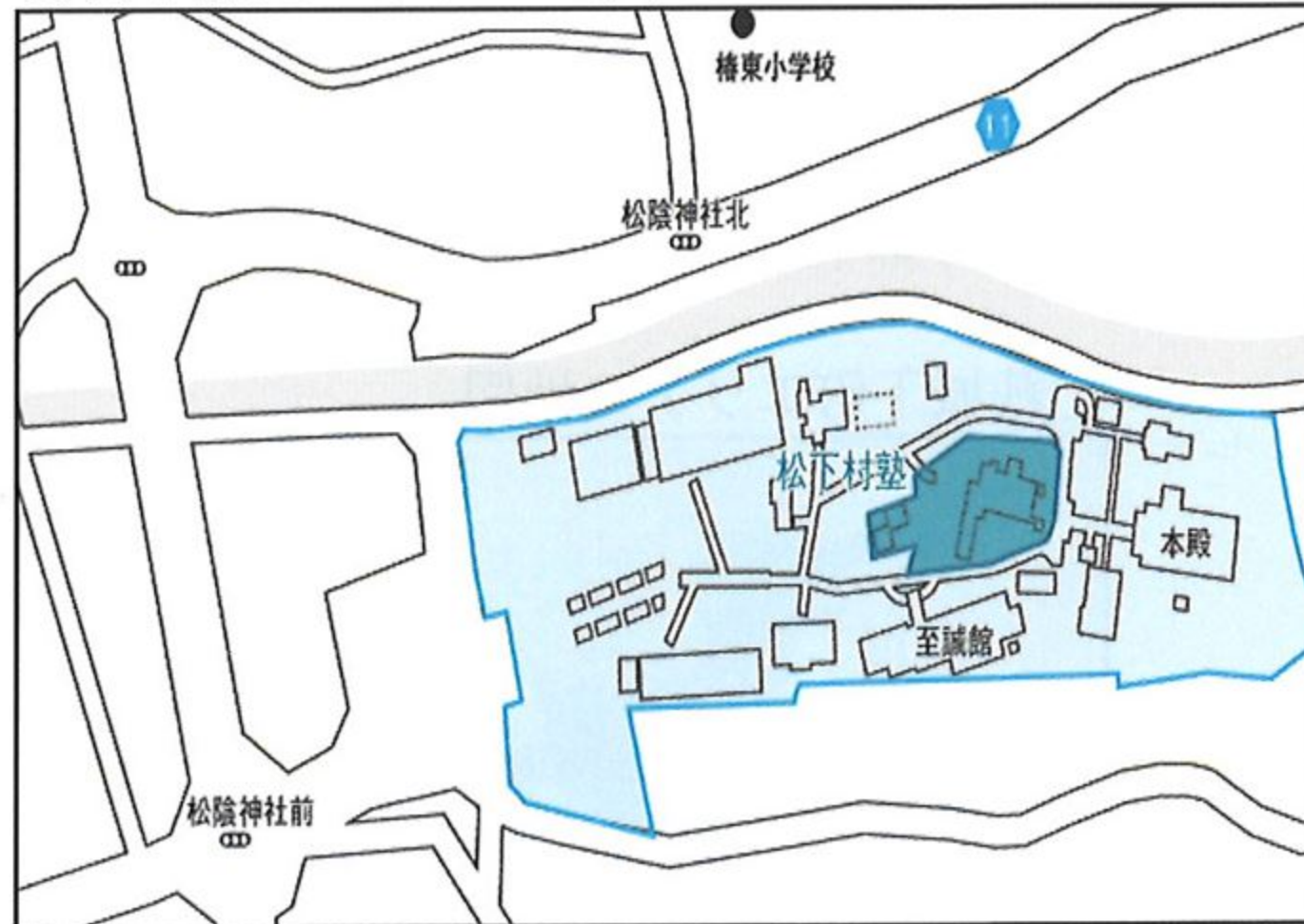
松下村塾は、吉田松陰が安政4年（1857）から5年（1858）に主宰した私塾で、椿東の松陰神社の中にあります。

松陰は海防の観点から工学教育の重要性をいち早く提唱し、工学の教育施設を設立し、在来の技術者を総動員して自力で産業近代化の実現を図ろうと説きました。その教えを受け継いだ塾生らの多くが、後の日本の近代化・産業化の過程で重要な役割を担いました。

④大板山たたら製鉄遺跡エリアの地図



⑤松下村塾エリアの地図



①～⑤の地図について…濃い青色の部分＝構成資産、薄い水色の部分＝緩衝地帯。
*緩衝地帯とは…構成資産を取り巻く環境や景観を保護するために、構成資産の範囲に設けられる利用に一定の制限を有する区域のこと。

引用文献・参考文献…萩市報：2013年10月1日号・10月15日号・11月15日号・12月15日号
2014年1月15日号・2月15日号・5月15日号
引用写真・引用地図…萩市報：2014年5月15日号

(5) 萩ジオパークについて

1 「ジオパーク」とは

ジオパーク (Geopark) の Geo- とは大地、地球という意味の接頭語、park は公園、囲われた場所の意味でひとまとまりの言葉です。ジオパークは、「大地の遺産」を、守り、学び、活かすしくみです。大地の遺産は私たちの暮らしの土台である大地が、どのようにしてでき、どのような特徴があるのかを教えてください。ジオパークでは、大地の遺産の中の大地と人の記憶を「守りつなぐ」、大地の遺産から大地と人の記憶を「学び伝える」、住民自らが持続可能な方法で「未来をつくる」、この3つの活動が行われます。

2 萩ジオパーク「維新とマグマ胎動の地・萩」について

2018年9月20日、萩ジオパークが日本ジオパークとなりました。萩ジオパークのエリアは、萩市と阿武町全域、山口市阿東地域です。萩ジオパークは、地球の視点で「萩らしさ」が“見える” “伝わる” まちを目指して、活動しています。萩らしい景色の根源は「大地」にあるのです。

萩の大地は、3つのマグマの胎動によってできています。まず1つ目のマグマの胎動は、恐竜が生きていた約1億年前、日本がまだ大陸の一部だった時代に起こった大規模な噴火が引き起こしました。次いで、2つ目のマグマの胎動は、約1500万年前、大陸から日本が切り離され日本海ができる時代に、マグマの隆起や海底火山の噴火を起こしました。3つ目のマグマの胎動は、現在の日本列島（島弧）^{とうこ} となってからの活動で、たった1回の噴火をいろんなところで繰り返し、50以上の小さな火山（阿武火山群）^{あぶかざんぐん} を作りました。

萩ジオパークでは、これら3つのマグマの胎動と人のつながりに触れることができます。

たとえば、大陸のマグマは萩を代表する焼物「萩焼」の粘土、日本海のマグマの胎動でできた海底の溶岩流は大漁場、島弧のマグマの胎動でできた阿武火山群の溶岩台地は農地として利用されています。多様な地質・地形が多様な産業を生み、その結果、江戸時代の一大都市である“城下町”を建造することができたと言えます。

3 萩ジオパークの見どころ

大地の成り立ちのわかる地形や地質、岩石を「ジオサイト」と呼びます。ジオサイトを含む萩ジオパークのみどころをいくつか紹介します。

大規模噴火を起こした大陸のマグマの胎動

田万川カルデラ、佐々並カルデラ など

モドロ岬

阿武町のモドロ岬周辺では、異なる組成のマグマ同士が混ざり合ってきた水玉模様がみられる。

1億年前の地下数十キロメートルで起こったマグマの活動とそれが地上で引き起こした火山活動を合わせて見ることができる。



モドロ岬・阿武町奈古

日本海をつくったマグマの胎動

須佐ホルンフェルス

日本列島ができた後に堆積した地層の中に、マグマが入り込んで留まりました。熱によって地層が変成し、ホルンフェルス^{※1}になりました。ここでは波に削られた海食崖^{※2}として、地球内部で起こった一連の変化を目の当たりにすることができます。

見島（山陰火山岩）、高山はんれい岩、須佐層群など



須佐ホルンフェルス遠景

現在の萩をつくったマグマの胎動

長門峡

約1億年前のアジア大陸における大規模な火山活動の中で、長径17km短径14kmに及ぶ佐々並カルデラ^{※3}は作られました。その時出た火山灰などが堆積し、凝灰岩^{※4}となりました。長い年月をかけて、侵食が進み、できた峡谷が長門峡です。

阿武単成火山群、青野火山群、萩三角州 など



長門峡・第1魚瀑

笠山とその周辺

活火山である阿武火山群において最も新しい火山は約8800年前に噴火をした笠山です。山頂から見える日本海に浮かぶ島々は阿武火山群の火山で、小さく平らな安山岩^{※5}の溶岩台地は世界でもまれな光景です。



笠山山頂から見える萩六島

龍が通った道

阿武火山群の火山の一つ、伊良尾山が流した溶岩の流路が「龍」の形に見え、地域内に龍神伝説が伝わることから、アイルランドにある柱状節理^{※6}が見事な世界自然遺産になぞらえて名づけられました。火山地形を楽しむことができる場所です。



畳ヶ淵

※1 ホルンフェルス:高温の物体(マグマ)と接することで元と異なる性質に変わった岩石。 ※2 海食崖:海岸に迫る陸地の突出部が激しい波によって浸食されてできた切立った崖。
※3 カルデラ:マグマだまりの天井が噴火でできた隙間に落ちてできた凹地。 ※4 凝灰岩:火山から噴出された火山灰が地上や水中に堆積してできた堆積岩。
※5 安山岩:火成岩の一種。輝石・角閃石・カルシウムやナトリウムの多い火山岩。 ※6 柱状節理:溶岩が冷え固まるときに、岩体に入った柱状の割れ目。

4 ジオパークで地域探検

それぞれのジオサイトと関連する歴史や文化、自然の見どころをつなぐと、大地の成り立ちや地球のしくみを知るための物語をつくることができます。このような「ジオストーリー」は地域調査の1つの視点にもなり、地域の新たな価値に気づかせてくれます。

<ジオストーリーの1例> 石材でたどる萩の大地の1億年のあゆみ

[学習課題]

萩城の石垣の中に、他と異なる種類の石が使われているのはなぜだろう？

[1] 築城時の石垣

萩城の築城時に用いられたのは、広島城と同じ緻密で硬い花崗岩でした。指月山は、約1億年前、日本がまだアジア大陸の東の端にあったところにおこった激しい火山活動の元になったマグマが地下深くでゆっくり冷え固まった花崗岩でできています。萩の大地の大部分はこのときの火山活動でできました。指月山の山頂や海岸には江戸時代はじめに石を切り出した跡(矢跡)が残っており、この花崗岩は萩城のほかにも堀内三の丸など初期の城下町の石組みに用いられました。



萩城天守閣跡

[2] 修復時の石垣

萩城が完成して以降、指月山周辺での採石は禁止されました。江戸時代、萩は3度の大きな地震にみまわれ、萩城の石垣も一部倒壊しました。その修復に指月山の花崗岩は利用できないので、笠山や狐島など約200万年前から8800年前にかけて活動した阿武火山群の溶岩台地から切り出した火山岩(主に安山岩・玄武岩)が用いられました。笠山の海岸には多数の石切り場跡があり、花崗岩の矢跡に比べて小さな矢跡のついた石を見ることができます。



笠山の石切り場跡

[コラム]

松陰先生の言葉に学ぶ

松陰先生の言葉の中には「地を離れて人なく 人を離れて事なし 故に人事を論ぜんと欲せば 先ず地理を觀よ」という言葉があります。これは、「土地から離れて人は暮らすことができず、人がいなければ、文化や歴史は生まれません。だから、人の生き様や文化、歴史を議論したいならば、その土地の成り立ちや地形をしっかりと見ることが大切」という意味で、ジオパークの思想とも重なります。みなさんも地域ごとの「大地の遺産」についての学習を深め、土地の成り立ちや歴史を伝えるジオストーリーを紡いでいきましょう。

(6) 萩市の自然災害について

三角州を中心に発達した萩城下町、美しい海岸線が広がる須佐・田万川地域、起伏に富んだ旭・川上・むつみ地域。広域合併によって誕生した萩市の自然環境は多様で、農業や観光業など様々な分野でその恩恵を受けています。しかしながら、自然は時に猛威をふるうことがあります。日頃から、自分たちの住んでいる地域がどのような地域であるかということをしっかり把握することが大切です。

1 教訓に学ぶ

2013（平成25）年7月28日。須佐・田万川・むつみ地域で未曾有の豪雨災害（以下、「島根・山口豪雨災害」）が発生しました。須佐では最大の時間雨量が137.5mmを観測、連続雨量も350mmに達し、各地で甚大な被害が報告されました。災害当初、国道191号、国道315号など萩地域と須佐・田万川地域を結ぶ主要道路がすべて通行止めとなり、一部の地域では孤立する事態となりました。同時に、電気・電話・上下水道といったライフラインが機能しなくなりました。この雨をもたらした一因となったのが「バックビルディング現象」です。

※バックビルディング現象とは

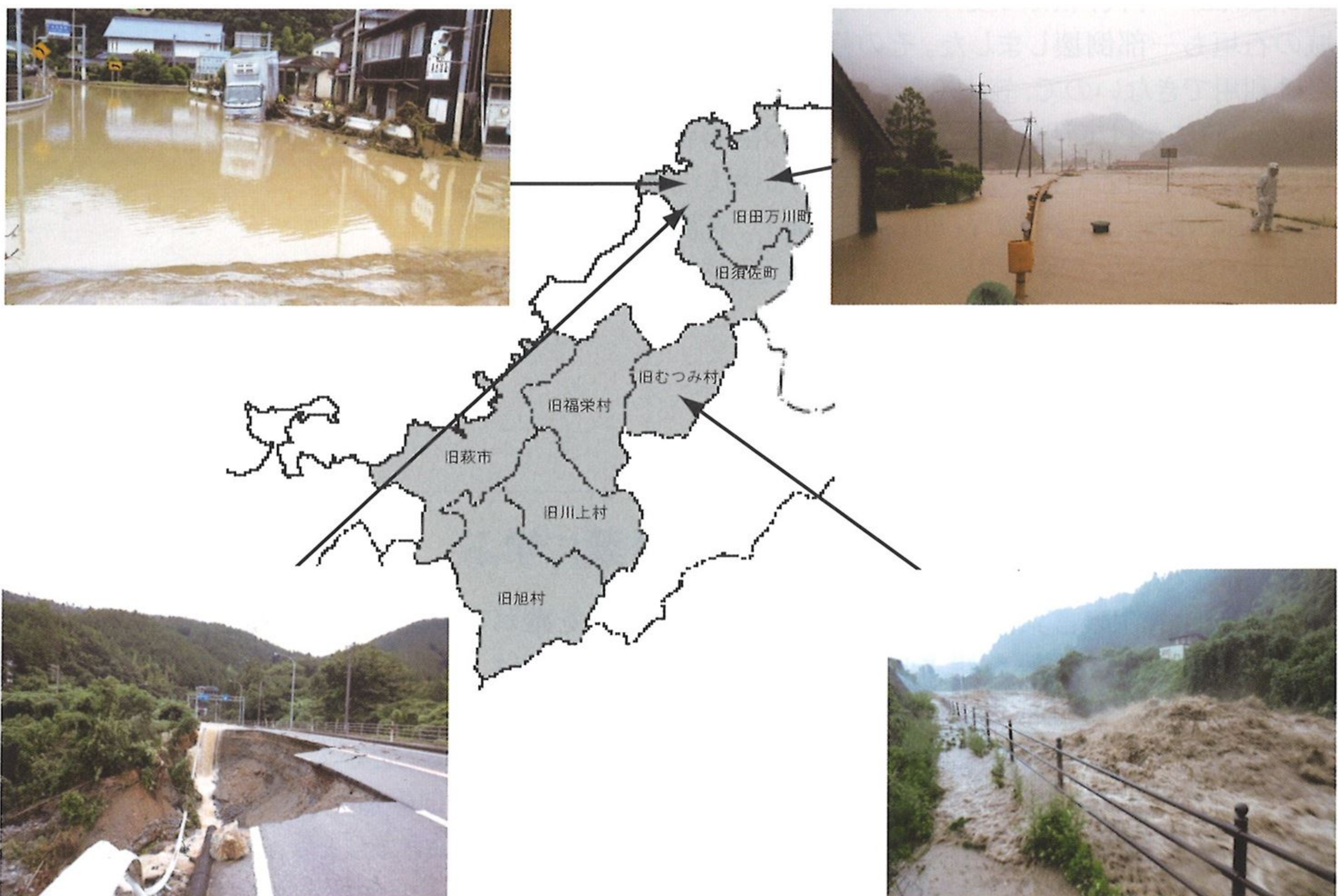
豪雨をもたらす積乱雲は短時間で消滅するが、従来の積乱雲に上空の風が加わり、積乱雲が長持ちして消えず、積乱雲の後ろに積乱雲がビルのように立ち並んでいく現象。

7月28日の雨量の変化(須佐)

時刻	1時間雨量 (mm)	累計雨量 (mm)
4:00	0.5	0.5
5:00	2.0	2.5
6:00	5.0	7.5
7:00	0.5	8.0
8:00	3.0	11.0
9:00	0.0	11.0
10:00	34.5	45.5
11:00	107.0	152.5
12:00	137.5	290.0
13:00	38.5	328.5
14:00	18.5	347.0
15:00	0.0	347.0
16:00	4.0	351.0

(気象庁資料)

■豪雨災害の当時の様子



2 広がる支援の輪

自然災害を未然に防ぐことはできません。しかし、被害を最小限に抑えることや自然災害から早期に復旧・復興することは可能です。島根・山口豪雨災害では行政が主体となり、情報収集に努めました。また、県との連携で、国からの激甚災害の指定を受けることができました。自然災害ではこのような「公助」も大切ですが、「自助」や「共助」といった地域ぐるみの復旧・復興、支援体制も重要なものとなります。

■「共助」の視点から

- ・全国からのボランティア支援
- ・各地からの義援金
- ・復興祈念イベントの開催 など

■「公助」の視点から

- ・避難所の設置、仮設住宅の建設
- ・他市・団体からの技術支援や被災者の健康チェック
- ・被災者総合窓口の開設
- ・災害復興局の新設 など



災害直後に活躍するボランティア

3 今なお続く復旧作業

しかし、島根・山口豪雨災害は今なお須佐・田万川・むつみのそれぞれの地域に災害の爪痕を残しています。完全復旧・復興にはまだ時間を要しますが、島根・山口豪雨災害は萩市の課題を表面化させました。「高齢化」や「過疎化」はその問題の1つです。

今回の豪雨災害を過去の遺物にするのではなく、復旧・復興作業を通じて、地域に住む一市民として「記録」に残すことも忘れてはならない大切な作業です。今回の災害後には、昭和58(1983)年7月に起きた須佐での豪雨災害の記録や教訓に改めて注目が集まりました。



災害の爪痕が残る蔵目喜川(H26.10) 復旧が進む須佐川(H26.10)



復興途中の田万川(H26.11)

4 日頃からできる備え

萩市は海、山の恩恵を受けるとともに、自然の脅威と紙一重にある地域であるといえます。例えば、地域の一部は活火山である阿武単成火山群に属していますし、山間部の旭・むつみ地域では多くの積雪が毎年記録されます。自分の住んでいる地域の特色を「ハザードマップ」や「海拔表示」などを参考にすることで、自然と上手に付き合っていくヒントが見つかるはずです。



萩市役所前の「海拔表示」

写真提供／「市報 萩」(萩市広報課) 2013(平成25)年8月15日号

(7) 萩・明治維新150年記念事業

1 基本コンセプトとテーマ

萩市は、日本の近代化の基礎を築き、明治という新しい時代をつくった人材を育てた「明治維新胎動の地」です。2018年(平成30)、明治維新から150年を迎えました。この節目に、当時の人々の志を学び、その精神を受け継ぎ、新たな時代を切り拓く人々を育てるため、2017年(平成29)から2019年(平成31)にわたり、「萩・明治維新150年記念事業」を市全域で展開しています。

① 江戸時代の地図が今なお使える「萩まちじゅう博物館」を楽しもう！

萩市は、「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」と言われるほど、当時の町並みが残っており、これらは日本を代表するかけがえのない都市遺産です。萩のまち全体を屋根のない大きな博物館、「萩まちじゅう博物館」として、市民や観光客が、本物の歴史にじっくり触れ、楽しみながら交流できる取組みを行っています。

② 19世紀末の世界史の奇跡と言われる日本近代化の原点となった「萩」を学ぼう！

日本の近代化を進めた5人の萩藩士「長州ファイブ」の“志”と“チャレンジ精神”を大切に、学校では郷土の偉人の学習を充実させています。また、「長州ファイブジュニア(英語学研修)」の派遣など、語学力や国際感覚を身に付け、世界で活躍できる若者を育てる取組みを行っています。

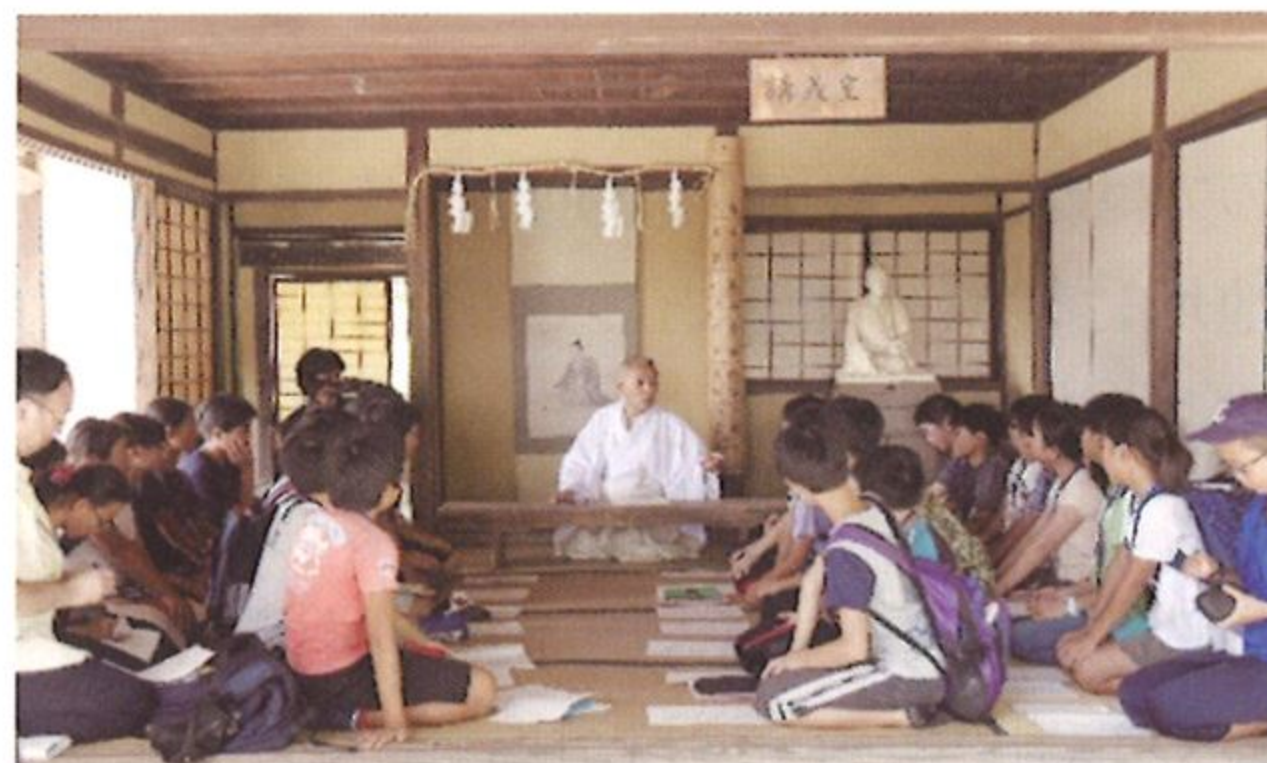
③ 先達の織りなす「幕末・維新の萩物語」を語り継ごう！

幕末・維新时期の萩の偉人について、その魅力を知り、次の時代に伝えていく取組みを行っています。このことは、萩市民の誇りと郷土への愛着心につながり、これからの地域づくりにつながると考えられます。

平成29年度



オープニングイベント



2017 薩長維新塾キッズ in HAGI

平成30年度

【萩・明治維新150年記念式典】



モザイクアート展示



「志」作文の発表



長州ファイブジュニア「志」メッセージ

(8) 萩市民憲章、市の木・花・果樹・生物

■ 制定までの経緯

平成18年 5月	新市の市民憲章等を検討する萩市慣行検討委員会」を設置。
6月～7月	候補を市民から募集。164人が応募。
8月	委員会で、市の木等の最終案を決定。
8月～9月	3人の起草委員が市民憲章の草案を作成。
9月	委員会で草案を検討し、市民憲章の最終案を決定。
10月	最終案のパブリックコメント（意見の募集）を実施。

萩市民憲章

わたくしたちは、明治維新胎動の地、萩の市民です。
この誇るべき歴史と美しい自然が織りなすふるさとを愛し、心のよりどころとなる、あたたかいまちをめざして、この憲章を定めます。

一 先人の志と勇氣に学び
歴史と文化を大切にすするまちをつくりましょう

一 青い海と緑の山を守り
詩情豊かなまちをつくりましょう

一 健やかなところを育み
笑顔のあふれる明るいまちをつくりましょう

一 互いに助けあい
安心して暮らせる平和なまちをつくりましょう

一 進取の気風を受け継ぎ
未来に向かって発展するまちをつくりましょう

平成18年11月11日



市の生物、ホタル

コウチュウ目ホタル科の昆虫。毎年6月には市内各所でホタル祭りが開かれ、多くの鑑賞者が幻想的な光を楽しんでいる。



市の花、ツバキ

ツバキ科ツバキ属の常緑広葉樹。笠山の虎ヶ崎周辺に広がる椿の群生林や川上椿瀬(つばせ)のツバキは市指定天然記念物。萩市の地名の由来としてツバキがつまってハギになったとの説がある。毎年2月下旬から1か月間「萩・椿まつり」が開催される。



市の花、ハギ

マメ科ハギ属の落葉広葉小低木。秋の七草の一つ。萩市の地名は、まわりにハギが多く生い茂っていたことに由来しているとも言われている。



市の果樹、ナツミカン

ミカン科ミカン属の常緑広葉小高木。明治維新により家禄を失った武士への救済措置として栽培が始まり、今でも多くの木が残っている。毎年5月中旬には「萩・夏みかんまつり」が開催される。



市の木、ヒノキ

ヒノキ科ヒノキ属の常緑針葉高木。建築材として最良で、戦後の造林計画で大規模に植林され、市内でも多く見ることができる。



市の木、マツ

マツ科マツ属の常緑針葉高木。クロマツは海岸沿いに多く見られ、特に藩政時代には菊ヶ浜のように防風林として植林された。アカマツは、山間地域で多く見ることができる。

萩市民の歌
萩のよろこび

作詞 岡 輝明
作曲 津室ひとみ

Gadd2 Am/G

し お の か は こ ぶ — あ さ か ぜ に — き ぼ
み な も か き ら め く — あ ぶ が わ に — じ よ う
め ぐ る き せ つ の — や さ し さ に — え が

Am7 D7 Gadd2 Am7

う に は ず む ま ど あ け る — み ん な で つ く る — わ
か の ま つ も は え て ゆ く — と も と か た ら う — わ
お あ ふ れ る ひ が と も る — こ こ ろ を つ な ぐ — わ

Bm7 CM7 D7

が ま ち は — み ど り か が や く は — な の ま ち —
が ま ち は — ゆ め を か な え る ま な び の ま ち —
が ま ち は — み の り ゆ た か な め ぐ み の ま ち —

Gadd2 G7 Cadd2

う た お う う た お う は は ぎ ぎ に に
は は ぎ ぎ に に

Am A7 Am7/D D7 G

う ま れ た — よ ろ こ び — を — あ あ — ふ る さ
そ だ っ た — よ ろ こ び — を — あ あ — ふ る さ
す み な す — よ ろ こ び — を — あ あ — ふ る さ

Am Bm7 Em Am7 Am7/D Gadd2

と は ぎ は ふ れ あ い つ く る に じ の ま ち —
と は ぎ は あ い し ん を ほ こ る と わ の の ま ち —
と は ぎ は あ い を そ だ て る ひ と の の ま ち —

萩市民の歌
萩のよろこび

作詞 岡 輝明
作曲 津室ひとみ

一 潮の香運ぶ 朝風に
希望に弾む 窓開ける
みんなでつくる わがまちは
みどり輝く 花のまち
歌おう 歌おう
萩に生まれた喜びを
ああ ふるさと萩は
ふれあいつくる 虹のまち

二 水面きらめく 阿武川に
城下の松も 映えて流く
友と語らう わがまちは
夢をかなえる 学びのまち
唱おう 唱おう
萩に育った喜びを
ああ ふるさと萩は
維新を誇る 永久のまち

三 めぐる季節の やさしさに
笑顔あふれる 灯がともる
心をつなぐ わがまちは
実り豊かな 恵みのまち
謳おう 謳おう
萩に住みなす喜びを
ああ ふるさと萩は
愛を育てる 人のまち

(平成 22 年 3 月 6 日制定)



藍 場 川

課題学習の取り組み方

活用にあたって

ふるさと萩は、みなさんが生まれ育った身近な地域です。しかし、実際には知っていることよりも知らないことの方がはるかに多いのではないかと思います。注意深くふるさと萩をとらえていくと、自分にとって、興味・関心が湧く事や疑問に思う事がいろいろあるはずです。それらを自分の力で納得がいくまで追究していくのが課題学習です。

ここには、地理的分野の「身近な地域の地域調査」の学習や歴史的分野の「身近な地域の歴史」の学習、そして、総合的な学習の時間における「ふるさと学習」等で、課題学習に取り組む際の学び方がまとめてあります。

自分が本当に学びたいと思っている事を時間をかけてとことん調べていく姿は、まさに「学びの主人公」としての姿だと思います。課題学習に取り組むことによって、「学ぶことのおもしろさや楽しさ」、そして「手ごたえ」を大いに実感してほしいと願っています。

また、「学び方」をしっかり身につけておくと、今後、様々な学習を進めていく上で、必ず役立つと思います。知識は、時間が経つと忘れ去っていきますが、身についた学び方は、いつまでも残るからです。

課題学習の取り組み方

(1) 課題学習の取り組み方

1 課題のつくり方

(1) 課題について

課題とは、自分自身に問題の追究・解決を課したものである。課題は、自分の興味・関心・疑問をもとにつくられる。「なぜかな?」「どうなっているのかな?」「どうすればよいのだろうか?」を大切にしよう。

(2) 望ましい課題の条件

- ① 自分自身が賢くなり、他の人にも伝える価値がある。
- ② 調査などの方法や手順について、ある程度自分で予想が立つ。
- ③ いろいろな方向に発展したり、広がりや深まりが期待できる

(3) 課題の表記の仕方の例

- 「なぜ、～だろうか」・・・疑問から生まれた課題
- 「～を探る」・・・興味・関心があることをさらに深く追究しようとする課題
- 「～するにはどうすればよいか」・・・問題を見つけ、その解決を考えていこうとする課題

(4) 課題づくりの段階で気をつけたいこと

- ① しぼり込まれた明確な課題（何をやりたいのかがはっきりとわかる課題）をつくる。
〈課題になっていない例〉
 - × 夏みかんについて
 - × 水産加工業について
 - * 上の二つは、課題ではなく課題の材料である。〈しぼり込まれた明確な課題の例〉
 - 夏みかん栽培の現状と今後の見通しを探る
 - 萩市の水産加工業は、どのような工夫や苦勞をしながら製品をつくっているのだろうか
- ② 人とのかかわりをもたないと追究が難しい課題をつくると、やりがいがある。
 - * 本で調べたらわかることではなく、地域の人々に直接話を聞いて初めてわかる世界を大切にしたい。

2 課題の例 (総合的な学習の時間に取り組んだ「ふるさと学習」の例)

- なぜ、吉田松陰の教えは、学校で取り上げられるほど人々に大切に受け継がれているのか
- おいしい柑橘類をつくるには、どのような努力・工夫がいるのか
- 食べやすく人々に好まれる夏みかんの加工品の特徴を探る
- 萩市の道の駅の一つひとつの違いを探る
- 今と昔の漁の違いから、未来の水産業を考える
- 萩焼の特長・魅力を学び、未来の萩焼をつくろう
- 萩焼とガラス工芸の魅力を探る
- 見島や相島の産業の違いや特徴を調べる
- 観光客を集めるために、ホテルや旅館はどのようなサービスをしているか
- 萩の町並み保存の様子と地元の人々の思いを探る
- 祭りのおこりと人々の生活との関わりを探る
- 郷土料理と人々の生活との関わりを考える
- 藍場川の昔と今の利用法から、人々の思いを探る

3 課題の追究方法と活動計画

- (1) 興味・関心・疑問をもとに課題を設定する。
- (2) 課題設定の理由(なぜ、そのような課題を立てたのか)をはっきりさせる。
- (3) 活動計画を立てる。
 - ① 課題追究に必要な訪問調査場所を決める。
 - ② 訪問調査場所へ連絡をとる。(訪問調査が可能かどうか)
 - ③ 訪問調査の日時を決める。
 - ④ 訪問調査場所での質問事項を考える。
 - ⑤ 訪問調査をする。

話を聞く、メモをとる、実物を見る、触ってみる、臭いをかいでみる、舌で味わってみる、写真を撮る等、身体の五感をフルに使って調査をする。
- (4) 調査結果をまとめ、学習成果を互いに発表し合う。

4 訪問調査先の例

- 例1 萩市役所(0838-25-3131) 萩博物館(0838-25-6447)
萩市立阿武川歴史民俗資料館(0838-54-2024) 萩市立須佐歴史民族資料館(08387-6-3916)
萩市むつみ生涯学習資料館(08388-6-5050) 萩市教育委員会(0838-25-3141)
萩市立萩図書館(0838-25-6355) 萩市立須佐図書館(08387-6-5500)
萩市立明木図書館(0838-55-0314) 萩清掃工場(0838-22-9731)
萩市観光協会(0838-25-1750) 山口県萩環境保健所(0838-25-2663)
JAあぶらんど萩(0838-22-3535) 萩商工会議所(0838-25-3333)
JR西日本東萩駅(0838-22-0271) 松陰神社(0838-22-4643)
山口県立萩美術館・浦上記念館(0838-24-2400) 熊谷美術館(0838-25-5535)
- 例2：その他 神社・寺院、教会、農家、漁協支所、青果・魚市場、各商店、窯元、水産加工業者、道の駅、宿泊施設など

5 訪問調査の仕方

- (1) 自分の（または、自分たちの）課題追究に必要な訪問調査場所を決める。
- (2) 訪問日時を考えておく。
- (3) 事前に訪問調査場所に連絡して、行ってもよいかどうかの了解をとる。以下は、受け答えの例です。

*場合によっては、担当の先生にまず連絡をとってもらい、その後かわってもらおう。

「〇〇中学校2年の□□と申します。ふるさと学習で△△について調べています。」

「◇◇のことについて、おうかがいしたいのですが、よろしいでしょうか。」

*訪問の日時を指定されたら、それに従う。きちんとメモを取り、相手にも確認してもらおう。

*いつでもよいと言われたときは、

「〇日の△時にうかがいますので、よろしくお願いいたします。」

- (4) 訪問調査の準備をする。

服装は制服。訪問調査場所によっては、学校ジャージ上下。

記録のための用具（カメラ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、テープレコーダー、メモ）を準備する。質問事項をよく練っておく。

学校・家庭への連絡と訪問調査場所・交通手段及び訪問調査時間の確認。

- (5) あいさつの例

行き「おはようございます。〇〇中学校の□□です。今日はお忙しいところ、わざわざ時間をとっていただき、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。」

帰り「いろいろ教えていただき、たいへん勉強になりました。ありがとうございました。」

《訪問調査で注意すること》

- ① 常に礼儀正しくふるまい、相手に不快感を与えないようにする。身なりもきちんとすること。
- ② 予定の時刻の少し前には、現地に集合して打ち合わせのための時間をとること。
- ③ 予定の時間に遅れそうな場合は、必ず訪問先に連絡を入れること。
- ④ 訪問先の方のお話は、メモをとりながら一生懸命聞くこと。
- ⑤ 写真等を撮ってもいいのか、あるいは録音してもいいのかなど、何かするときには必ず了解をとること。
- ⑥ 仕事のじゃまにならないように気をつけること。
- ⑦ 行き帰りの交通事故には十分に気をつけること。

*以上、訪問先の方は、貴重な仕事の時間を自分たちのためにさいてくださっているということを忘れることなく、終始誠意ある行動を心がけること。

- ⑧ 後日、訪問先に礼状を送付すると、お世話になったことへの感謝の気持ちが伝わる。訪問先によっては、事前に訪問調査に対する依頼状が必要な場合もある。



6 調査結果のまとめ方 (ポスターのまとめ方の例)

分野【夏みかん】 () 班 No.1
 班員氏名

課 題
 夏みかん栽培の○○○○○○○○○○○○○○

課題設定の理由
 なぜ、上の課題を立てたのかをまとめる。

☆ 課題追究に関わって訪問調査活動をした場所
 5/13 午前 萩夏みかんセンター
 萩農林事務所
 午後 阿武さん(大井の夏柑農家)

分野【夏みかん】 () 班 No.2

☆ 見出し(タイトル)をつけ、調べてわかったことを箇条書きでまとめる。

* 見出しの表現を工夫すること
 [例] 酸っぱさこそが魅力!!
 ・○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 ・○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

* 写真、グラフ、図、地図、表等を効果的に使う。
 * 文字だけのポスターにならないように。

分野【夏みかん】 () 班 No.3

☆ 見出しをつけ、調べてわかったことを箇条書きでまとめる。

☆ まとめ 半分から3分の1のスペースでまとめを入れること

* 伝えたい内容は簡潔にまとめる。くわしくは、口で説明すればよい。読ませるためのポスターではなく、発表のために使うポスターである。

* まとめは、自分たちの課題に対する自分たちの結論であり、この部分がもっとも大切。まとめがしっかりしている発表は、とても光る。

7 調査結果の発表の仕方

- ◇ ポスターを使っでの発表
 - (1) ポスターにまとめてある内容をもとに発表原稿をつくる。
 - (2) 発表原稿をただ棒読みするのではなく、時々聞く人の顔を見ながら発表するとよい。
 - (3) ポスターに使った資料(写真・グラフ・図・地図・表等)の説明を必ず入れる。
 - (4) 指示棒でポスターを指しながら発表すると、聞く人はわかりやすい。
 - (5) グループで発表する場合は、全員がそれぞれ分担を決めて発表することを原則とし、発表する人と指示棒でポスターを指す人に分けるとよい。

- ◇ レポートを使っでの発表
 - (1) レポートにまとめてある内容をもとに発表原稿をつくる。
 - (2) レポートに使った資料(写真・グラフ・図・地図・表等)の説明を必ず入れる。
 - (3) 発表原稿をただ棒読みするのではなく、時々聞く人の顔を見ながら発表するとよい。

(2) 調べ学習の参考となる連絡先一覧

種別	調査先	電話	住所	
役所	萩市役所（本庁）	0838-25-3131	江向510	
	川上総合事務所	0838-54-2121	川上4462-1	
	田万川総合事務所	08387-2-0300	下田万1036	
	むつみ総合事務所	08388-6-0211	吉部上3191-1	
	須佐総合事務所	08387-6-2211	須佐4570-5	
	旭総合事務所	0838-55-0211	明木3174	
	福栄総合事務所	0838-52-0121	福井下4013-1	
	萩警察署	0838-26-0110	土原476-1	
	江崎幹部交番	08387-2-0110	下田万1254-1	
	萩市消防本部	0838-25-2772	江向428-2	
	萩市消防署弥富出張所	08378-8-5119	弥富上1505-1	
	萩市消防署紫福分遣所	0838-53-5119	紫福3434-1	
	萩市消防署佐々並分遣所	0838-56-0119	佐々並2662-6	
環境	萩リサイクルセンター	0838-26-3196	椿東463-1	
	萩第二リサイクルセンター	0838-24-5300	椿東4703-49	
	田万川リサイクルセンター	08387-2-0300	下田万981-3	
	大井不燃物埋立処分場	0838-28-1308	大井1163-1	
	田万川一般廃棄物最終処分場	08387-2-0300	下田万3794-1	
	萩・長門清掃工場（はなもゆ）	0838-26-8716	山田 2406	
健康・福祉	萩市萩保健センター	0838-26-0500	平安古209-1	
	山口県萩環境保健所	0838-25-2663	江向531-1	
	萩市社会福祉協議会	0838-22-2289	江向356-3	
	萩市民病院	0838-25-1200	椿3460-3	
	萩・福祉総合施設かがやき	0838-24-4111	椿3460-2	
	福祉複合施設つばき	0838-24-4128	椿2398-1	
	萩市在宅介護支援センター	楽々園	0838-26-4680	山田4293-1
		さんみ苑	0838-27-5000	三見3852-1
		かがやき	0838-24-4120	椿3460-2
		みしま	0838-23-2828	見島35-1
		おおしま	0838-28-1020	大島92
		おおい	0838-28-5155	大井1689-13
		あいしま	0838-25-4965	相島13-1
		なごみ	0838-24-1181	椿東315-6
		おとずれ	0838-24-1294	椿東3143-1
		かわかみ苑	0838-54-2000	川上4921-1
		うたたね	08387-2-1331	上田万2678
		むつみ園	08388-6-5303	吉部上3301-1
		すさ（やまびこ）	08387-8-2000	弥富下3995
		すさ苑	08387-6-3147	須佐1378-1
あさひ	0838-55-5002	明木2937-1		
ふくえ	0838-52-5111	福井下3999-6		
労働	ハローワーク萩	0838-22-0714	平安古599-3	
	萩広域シルバー人材センター	0838-26-0505	山田4253-1	
租税	山口県萩県税事務所	0838-25-3111	江向531-1	
	萩税務署	0838-22-0900	唐樋3-7	
司法	山口地方裁判所萩支部	0838-22-0047	江向469	
	山口家庭裁判所萩支部	0838-22-0047	江向469	
	山口地方検察庁萩支部	0838-22-0430	江向469-2	
交通・通信	J R西日本東萩駅	0838-22-0271	椿東2997-3	
	萩海運有限会社	0838-25-2040	東浜崎139-1	
	萩郵便局	0838-22-0681	江向440-1	

種 別	調 査 先	電 話	住 所
産 業	J Aあぶらんど萩	0838-22-3535	江向431-2
	山口県漁協山口はぎ統括支店	0838-25-0231	椿東6446-5
	山口県萩水産事務所	0838-25-3377	江向531-1
	山口県萩農林事務所	0838-22-4800	江向531-1
	全農山口県本部萩加工場	0838-25-2801	椿東3082-2
	山口県たばこ耕作組合	0838-25-1852	土原370-58
	萩青果市場	0838-22-0392	椿3395-13
	萩商工会議所・萩青年会議所	0838-25-3333	東田町19-4
	萩市観光協会	0838-25-1750	椿3537-3
	見島観光協会	0838-23-3311	見島326-12
	須佐観光協会	08387-6-2219	須佐4570-5
	萩市田万川観光協会	08387-2-1160	下田万2849-1
	道の駅萩しーまーと	0838-24-4937	椿東4160-61
	道の駅あさひ	0838-56-0278	佐々並2476-1
	道の駅萩往還	0838-22-9889	椿 1258
	道の駅うり坊の郷katamata	08388-8-0114	片俣 1244-7
	道の駅ハピネスふくえ	0838-52-0356	福井下4014-2
	道の駅ゆとりパークたまがわ	08387-2-1150	下田万2849-1
	道の駅萩・さんさん三見	0838-27-0041	三見1028-2
	農産物加工販売所つつじ	0838-55-5031	明木2857-3
美術館・博物館	山口県立萩美術館・浦上記念館	0838-24-2400	平安古586-1
	萩陶芸美術館	0838-26-5180	椿東426-1
	萩ふるさと歴史美術館	0838-22-2573	山田4711-1
	萩博物館	0838-25-6447	堀内355
	松陰記念館	0838-25-0015	椿1258
	萩市自然と歴史の展示館	0838-25-6004	椿3537-3
	萩市むつみ生涯学習資料館	08388-6-5050	吉部上3276-1
	萩市立阿武川歴史民俗資料館	0838-54-2024	川上2319
	萩市立須佐歴史民俗資料館「みこと館」	08387-6-3916	須佐4441-19
	松陰神社 宝物殿「至誠館」	0838-24-1027	椿東1537
	萩・明倫学舎	0838-21-0304	江向602
教育施設等	萩市教育委員会	0838-25-3141	江向510
	萩市民体育館（萩市スポーツ振興課）	0838-25-7311	椿3395-1
	萩ウェルネスパーク	0838-24-2411	椿73-7
	萩市立萩図書館	0838-25-6355	江向552-2
	萩市立明木図書館	0838-55-0314	明木2939
	萩市立須佐図書館	08387-6-5500	須佐4296
	萩市中央公民館（萩市文化・生涯学習課）	0838-25-1234	江向495-4
	至誠館大学	0838-24-4000	椿東5000

萩市公式ホームページ	http://www.city.hagi.lg.jp/
萩市観光ポータルサイト	http://www.city.hagi.lg.jp/portal/
山口県公式ウェブサイト	http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/
ふるさと学習コンテンツ「知っちょる!?やまぐち」	http://www.ysn21.jp/furusato/
やまぐちの環境	http://eco.pref.yamaguchi.jp/
山口県観光連盟	http://www.oidemase.or.jp/
やまぐち農林水産ねっと	http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/

中学校郷土読本『郷土萩』 監修・編集・協力委員

監 修 萩 市
萩市教育委員会
萩博物館

【改訂第14版】

編集委員長	福栄小中学校	校 長	吉 岡 智 昭
編 集 委 員	萩東中学校	教 諭	森 田 憲 明
	田万川中学校	教 諭	室 谷 雄 二
	須佐中学校	教 諭	中 村 哲
	大井小中学校	教 諭	岡 本 尚

(平成31年3月31日現在)

挿 し 絵 萩市美術協会 吉 村 隆之助

郷 土 萩

— 中学校郷土読本 —

初 版	昭和43年9月20日	刊行
改 訂 版	昭和48年11月1日	発行
改訂第2版	昭和56年9月1日	発行
改訂第3版	昭和57年4月1日	発行
改訂第4版	昭和61年4月1日	発行
改訂第5版	平成元年4月1日	発行
改訂第6版	平成6年4月1日	発行
改訂第7版	平成11年4月1日	発行
改訂第8版	平成16年4月1日	発行
改訂第9版	平成19年4月1日	発行
改訂第10版	平成23年4月1日	発行
改訂第11版	平成25年5月1日	発行
改訂第12版	平成27年4月1日	発行
改訂第13版	平成29年4月1日	発行
改訂第14版	平成31年4月1日	発行

編 集 者 「郷 土 萩」 編 集 委 員 会
発 行 者 萩 市 教 育 委 員 会
印 刷 所 有 限 会 社 マ シ ヤ マ 印 刷

市章（平成17年11月12日制定）



【コンセプト】

この市章は、萩市のシンボルでもある城下町の土塀の文様をモチーフに、全国の中にあっても一見で「城下町・萩」と認識できるように記号化しました。

萩市立		中学校
1年	組	番
2年	組	番
3年	組	番
氏名		